加加强液



No. 385 Pensoj flugas trans la land-limon THE SENRYU ZASSHI

川柳雜誌社主催

### 本社六月句

呈 柳

> 賞 話 顕

公各題天

1

国

頣

時

文 月

月

牛

後

時

座 四

'nj

西 梅 ナ 4. IC. 辨 選選選選

Jil

郎

会の辞

出直しり、

涼

人食 志子栞巢々文好米北 選選選選庵蝶郎側

7 W. 15 1 村 ilij 貨

市電日本橋一丁目電停北へ百米西側市電道頓堀電停南へ二〇米西側 ぼろくそ」 太口は右側から階段を上 ぐはぐ」 題 1 (当日発表) 1 (二年) ってくださ 国後

投句だけの方は郵券三十四回封(ど切六月六日 題 東下折

大阪市住吉区方代西五丁目廿五番地

### 句 雑 誌 社 会 部

電・住吉 60 6 0 8 1

\* \*

南区大宝寺中五丁目二六大成閣 (電話) 20523

25238~9

七月十二日(日)

した冷房完備を蒔っております。てご参加ください。なお会場は近て一人でも多く

でも多く

麻 生

路

郎

著

六月中旬刊

川柳の味い方・五百数十句

読んでもらいたいために、 と、川柳は作っているが、 広く世間に味ってもらいたいため り」の記念出版として、 新川柳鑑賞」は新川柳のよさを 鑑賞」を刊行することにした。 四年度の「川雑川柳ま いという人たちに もつつ 載したもので、 けているものである。曽て東京の 名句を省いて、 たのであるが、 を刊行した際、 至文堂から抽著「川柳とは何か い方」として二百拾八句を鑑賞し である。 巻末に 本書ではそれ等の いまなお執筆を続 作って或る 川柳の味

4 係から更に未発表の鑑賞原稿を追 していただきたい。なお、 ないかと思っている。何れにしてえれば作句上大いに役立つのでは ら、「川神とは何か」をお読み順 むしろ本書を玩味読了されてか 川柳とは何か」と併せて味読 初心の方は 組の関

送費三三円

価二五O円

二五○余頁

なる読物としても好適のものであ の名吟佳什が鑑賞されて居り、単 ★本書では現代作家の五百数十句 。即刻申込まれたい。(路郎生) 行 所 ]]]

柳雑誌

### 路郎選 别

6月20日。詳細は46ページ参照)

★用紙は立20センチ

チ、

横るセンチの句等

(各題2句)

麻生

郎

は先着

順 貫選 ★投句だけの方は

郵券三十四同封

L

特別課題「親讓り」発表 \*各題天位 \* 春巢選天位に 支部に属しない作家が優勝した場合は川(優勝楯は明年七月返還、川雑支部、準郎賞 ★優勝者所属の会に優勝楯を贈る郎賞 ★優勝者所属の会に優勝楯を贈る 総合得点二十位まで(同点 本社の獲得となる)

閉会の辞 ゼスチュア

\*

会費

\*

額親

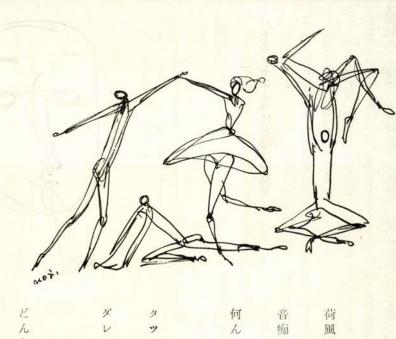
ちわ進呈) (参加者全部に路郎御室う 西占方: いわを放

公費三百五十円 大阪市住吉区万代西五ノ二五 川柳

優勝楯に挑む川柳 コン "

代として参加ください、終ってご参加ください際で 1

走什古5



## 不朽洞句帖

生 路

麻

郎

音痴などいてて楽しい夏の夜ル

の死

皆は貯金の方へ触れ

何んという花かしらんと 応接間

タ ツター 億円の寄附だが真似が出来ず

1 V スさん死ぬということを証明す

どんな意味だか山下清の額をかけ

### 六月 号 目次

			-			250	-						S1.33						CEN	6815	200	-				-		300	
好。	柳	不知	各	金	- 路	近	同	]1]		帰	111	不		][] 460	雅	男	命	花	痴	知知	_	句	人	70	川柳	笑	美	不	atr. No.
>	界	朽洞	地	<b>F</b>	集	作	舟	40n		n	雑篠	朽洞		柳の本質	号上	みな阿	まで世	化とみみ	人	足と	浪	評	間苦	50	名句		の果	朽	表題
赤。	展	会か	柳	泥	雨招青	柳	近	491	*	9	山支部	0		4質	由来	呆	賭け		の柳	いう	句	Ŋ	2	の字につ	と難		の果無さと	洞句	紙字
2	望	5	壇	集	り待葉	梅	詠	塔		途	+	4.	同人	とは	記	に見る	た女子	ずと青空	信	75.	抄	1	柳	150	句		と川柳	帖	
		-									周年記		晃白・ど			えて		出と				4. FF					柳		
				HEF	中 吾 西 村 郷 尼	北麻	語	麻		…里	念二	阿阿	ん清た生		de		-	Teler .	1			九年・		-	uže		777	non	my ore
				<b>佐</b>	九以	北川生	mH	作出		土田	柳	茶氏	< .		市場没	川	松江	東野	山	H		-	八木	正本	床生	尾崎	高鷲	麻生	野麻生
				及乃選	呂中英東	自與選	家	生路郎選		シュ	会…	八の巻	、薫風子		以食子	阿茶	梅里	大	遠二	古		那光 郷光	學天皇	水客	郎郎	方正·	亜鈍	路郎	<b>尻</b>
					À À						:	:	7		1		:		:	方		郎…	郎…(		即…(			()::(	弘郎
門ろ	3	(完)		壹	量景	(110)	=	ざ		(0图)	COM	是		一一	田田	量		善		画	九	(CE)	(110)	(011)	<u> </u>	0	$\equiv$	5	



### 川柳 名句と難句

### 麻 生 路 郎

時代のさびで難句になりそうな句や、既に難句になつてい 果がすくないかも知れないが、私自身の覚書のつもりで書 る句に照明を当てて見ることにした。労力の大きい割に効 もする。又、誤解され易い句意や特殊の語彙の註釈もして、 「川柳名句と難句」は新川柳の名句の鑑賞もするし、評釈

## バトミントンよっぽど閑な消防署

(麦太楼)

と詠んだのである。 風景であったので「よっぽど閑な消防署」 トンをしている。それはいかにものどかな 僅かな空地で署員達がひま潰しにバドミン だ。管内ではボャーつ起らない。消防署前の ここしばらく快晴が続いて全く無風状態

を誘っているように思える。しかし、このるので参考にされたい。 Badminton -A 国遊戲をやっている感じが、いっそ長閑さ ければならない消防署員が退屈しのぎに異 イザ火事となれば生命がけの仕事をしな Dictionaryには次のように紹介されてい 九三〇年頃だそうだ。 New standard-

おこう。原句はパトミントンとなってい らない人には意味がとりにくいと思うの 句は上五の「パドミントン」がハッキリ判 る。或はそういうているのかとも思うので で、バドミントンについて少しく解説して

そのままにしておいた。

地方で始められたもので、最初のクラブ所 るそうだ。一八五○年頃、インドのプーナ のである。シングルとダブルスの二種類あ ャトルコックをラケットで打ち合う競技な 中央に高さ5フィートのネットを張り、シ 追羽根のことで、コート (20ft×44ft) の 在地(英のバドミントン村)に因んで命名 バドミントン (Badminton) は西洋の

with shuttlecocks or woolen balls game of Indian origin, like lawnand with a narrow net suspended tennis, but played on a smller court 51/2 feet above the ground

## つら当てで死ぬのもけったくそ惡

されたのである。日本に移入されたのは一ずに居るという老人心理をうまくつかんで ある。尤も老人でなくても、長病いなどを もあるので、生きて居たくもないが、死な ていると、ついひがんで、こんなに死ねが に死んでやろうかと思うものである。しか しに扱われるんだったら、いっそつら当て し、つら当てに死ぬなんて、いまいましく これというて役にも立たぬのに長生きし (幽 王)

> まいましいという気持を強く云い表わして くそわるい」は大阪の方言で「いやな」 いる「けったくそ悪し」である。「けった 「いまいましい」「気持悪い」の意。 この句を生かしているのは、 Ξ いかにもい

## けんかして居ても靴だけ磨いとき

ぎないが捨て難い句である。 く平凡な社会生活の一面を描写したのに過 で靴だけは磨いておくというのである。極 もお互いにムッツリしているのである。 喧嘩しているのか判らないが、朝になって しかし、夫が出かけるのは判っているの サラリーマン夫婦であろう。何が原因で

## 謹厳の彼も人の子プラスなり

男性にメスを当てた句だ。 いたというのである。真っ向うから鋭どく とは思ったが彼も矢張り人の子だとうなず が性病に罹っていようとは全く意外である ろ真逆と思ったのに陽性反応があった。彼 至って謹厳な彼氏も血液検査をしたとこ

### 五

## 三男もブラジルまでは大儀がり

三男に生れたのでこれという仕事もなく

だ。

していると、こんな気持になり易いもの

年心理を巧につかんだ穿ちの句である。 とシュンジュンするのが常で、そうした青 介になっている訳にもいかないので、海外 応海外雄飛の夢は持つが、さて現実となる では大儀だというのである。青年として一 へでも出掛けたらとは思うが、ブラジルま この句を味おうためにはブラジルの語彙

余り在住している。 共和国で、 である。日本人の移住は一九〇八年から第 二十州、 二次大戦前まで続行され、現在では四〇万 ブラジル(Brazil)は南米東部の連邦 五領土で人口は五、五七七万人余 南欧移民が多数に居る。一区、

について簡単に述べておこう。

## 日本にもあったお伽のシンデレラ

のない結婚であるから作者はお伽ばなしの う技巧がこの句のヤマで、日本では曽て例 いるだけである。「日本にもあった」とい 皇太子妃になったという点だけが共通して ように思えたのであろう。 この句は正田美智子さんを詠んだ句であ 民間の娘がプリンスに見染められて (八歩)

のお伽ばなしの主人公の名であることは余円かれと祈るなりけり」と六稜形に触れて シンデレラ (Cinderella) というのは昔

の解明が必要だと思うので、次にプラジル 家でブラブラしている。いつまでも兄の厄 りにも有名だ。継母や義姉妹に虐待される の美しさと心がけの良さに魅せられ、帰る 物を着、金の靴をはいて舞踏会に行きプリ 継子が実母の霊の助けによって、美しい着 は実子を靴を忘れて帰った娘にしてプリン 娘の名がシンデレラである。ところが継母 際に小さなガラスの靴を忘れて帰った娘を ンスと踊った。ところがプリンスがその娘 探がし出して結婚することになった。その スと結婚させようとして失敗するというの

### 六角堂幾何学的に暮れて行き 王

路 生 がお伽の筋である。

角の形象に興味を持ち幾何学的と言ったの れ方であるが、六角堂であるから、単に六 「幾何学的に暮れて行き」とは難かしい暮

るところから起った通称なのである。西国 り大きくない寺で仏殿の構造が六稜形であ のである。六角堂は京都市の六角通烏丸を 東へ入ったところにある頂法寺というあま に暮れて行き」を特にほおえましく感ずる の笠原道夫医博であるだけに「幾何学的 であろう。 作者は戦後に亡くなられた阪大名誉教授

にも「わが思う心のうちは六つの角、ただ 巡礼第十八番の札所として知られ、ご詠歌 「手なしは袖なしの略。古くは貧しい人々

7

いる。

## さよかさよかと社長儲けとり

生

る。たしかに社長というものの一面を穿っ が金儲けをするんだから偉いものである。 のに過ぎないのだ。しかしこの微妙な相槌 ていると思う。「さよか」はそうですかとい 姿勢でいる社長は儲けているというのであ が、誰にでも「ああさよか、さよか」と低 長は口ほどには儲けていないものである ているというよりも単なる相槌を打ってる く軽く発音していて、相手方の話を肯定し う意味だが、この句の場合の大阪弁ではご 大言壮語したり威張りたがったりする社

ふと見れば妻も陣平が似合う齢 九

のかし 妻なのであろう。フト見たら、じんべを着 て、ちっともおかしくないのである。 ている。それがシックリと身についてい 「ああ、妻も、じんべが似合う齢になった もう見栄も外聞も考えない中年を過ぎた 玉

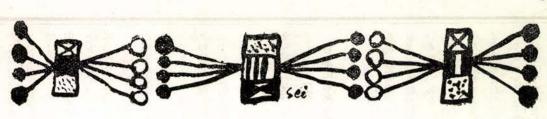
たものだ。

じんべについて、 し」の項に、 といささか淋びしさを感じたのである。 「風俗辞典」には「手な

などには麻やかたびらのじんべを着せられ じんべというのは必ずしも貧しい人たちの ものを関東ではちゃんちゃんこ、京阪では は麻やかたびらであった。私なども、 たものであった。但し旦那や若旦那のもの 家の旦那方から、番頭や丁稚なども着用し い庶民的な軽装ではあったが、大阪では商 着用する服に限られてはいなかった。大た 頃、明治三十年から四十年頃の京阪地方の んでいるのである。しかし、私たちの若い たので前は羽織のようにかんたんな紐で結 から袖のない服を着ているが、あれに類し を見ると、近ごろの女性が夏に腕の付け根 なしとかいうのは「石山寺縁起絵巻」など でんちと称する。とある。手なしとか、袖 の着用した着物であるが、近世は袖無羽織 た。京阪では一名じんべといい、小児用の 八〇四一一七)ごろから町家の男女が用い (そでなしはおり)の類をいい、文化(一

居の場に着用する袖のない羽織様のもので 京阪で袖なしというのは芝居で浪人の閑 ったが、普通じんじんと云っていた。そし て小児用のは黒じゅすの襟をかけていた。 たものだ。そして小児用のは、でんちとも云 その頃はパンツの代りにネルの腰巻をし

0





いきられるならばいもむしでもよくて 豊中市 田 古

日だけきものたたんでみた夫 方

湯たんぼで火傷する程酔いしれて 大阪市 市 場 没 食子 電信柱にまでおじぎして落選す

西宮市 若本多 久 志

自衛隊と税務署ゲジゲジのように見え

花の下今年もサノサで手を叩き

身も心も捧げ参いらせ捨てられる 御許と書いて中味は請求書 息づまる世相は明治生まれだけ やっと借れたのに嬉しさがグッと来ず イヤリングゆれてきれいな嘘を言い

真白ろな障子に春があふれそう パトロール露路の暗さをにらんどき 霧雨はうごかず社務所灯がはいり 銀行の建つ板塀を叩いてみ

> 肥えたでしょ肥えたでしょと口癖に ふるさとの訛りのなかに安住す

友子さんを見舞う

兵庫県 西 無

鬼

還暦を迎えて

先生の鉢巻自習で写生され 後援会などと事前に票を読み

選挙戦

公認の写真汚職で見たような

韓国の生れと云わず名刺くれ

大和路にて

有り難や脚にかけてく三輪の水

逝くが逝くまで冗談を言って逝き 三寒四温土筆伸びたり縮んだり ツバメ戻って見れば家主がまた変り

大阪市

西

花

村

花嫁は初めの男招待し

金金と金で育てば淋しいネ 養老院九十になっても死んで呉れず

ワイマル 羽佐 間 柳 葉

公平を叫び智能の差に触れず 世渡りに半端の学が邪魔になり

豊中市 福 田 安

夢

買いました下りました五百株々主 花吹雪女がひとり劇に似て

大阪市 正

本

水

客

席捜す眼には五寸が広く見え 奈良県 尾 崎

方

正

美智子さんにあやかるつもり婦長やめ T 古 Ш 圭 井 堂

生きている努力をほそい線に見せ 大阪市 尾 潮

花

防府市

長

野

井

蛙

近道は皆有料と云う仕組

テレビまで子に主導権握られる

大阪市 西 V わ を

天才と呼ばれた過去を持つ層屋

岡山県

直 原

七

面

Ш

還暦へまだ腰弁と手が切れず

ホノルル市 砂 旋 風

株式にしましたんやと髭をおき 日曜日むしりとる様に子が起こし

経営がどうのこうのと寺の事

雨上りもう押売りがベルを押し 御成婚を売ってる様な商店街

鳥取市 河 村 日

湍

反抗を母は笑顔で受けて立ち 入学の子へ舞い込んだ月賦制

倉敷市 木 村 干

君だからいう真相に洒が要り

恩給の試算するのも新学期 コマギレの智識が通を振りまいて 水の音うつらうつらと座眠させ

犬だけはようなついとる精薄児 妻はまだ昭和初めの髪かたち ポリさんのとこだけ右を歩るいとき 加賀市 野 村 味

倉敷市 田

垣

方

大

選挙月ああ落ちそうな人が行く

うちだけにテレビが買えない予習の子 看護婦なんどと花嫁さげすまれ 春雨にショボショボショボとドサ廻り

大阪市 木 村 水 堂

子を叱る同じ心で部下叱る こそ泥の罪より汚職軽くすみ 春雨へ候補者だけが喋べって居

夫婦相和しカクテルの腕競べ 高槻市 福 H T

値の点で手も足も出ぬ分譲地 皇太子御結婚

御婚儀のテレビに老の血が踊り 選挙戦たけなわ

何れ劣らぬ大風呂敷の選挙戦

大阪市

真

鍋

源

日本の洋食福神漬がつき

サクラかと思われそうに香具師に買い 金で型つける顔なりおこぜに似

**滓**ばかり立つ選挙区で拝まれる

日まわりのように私は孤児だった 大阪市 藤

> 坑夫かしら山越えをする子を背負い 財産をすっかり食べて死ぬつもり

米子市 西

肩書がふえ人情が薄くなり

錦着て帰り故郷で立候補

平

大阪市 吾 玲 人

ギャールフレンドかいと七十のお婆さん

当選が目的でなし立候補

ばら活けて畳のやぶれ気にしてず 大阪市 Ш ]1[ 阿 茶

大阪市 金 井 文 秋

選挙戦たけなわ

岡山市

逸

見

灯

失脚を笑い自分も出世せず 万才のようにすかたんうまが合い

路

加賀市 那 谷 光 郎

永病みの持薬の名前又かわり 家族みなさくらに出して碁譜パチリ 寝化粧は派手になさいと教えられ

鳥取市 大 西 步

老らくの希望はかなき宝くじ

山脈を越えた電波の美しさ 山陰テレビ放送開始

日航機にて出発

大阪市

北

111

春

巣

高度約三千桜思うのみ

つくしんぼ月光仮面にふまれるな

志

東京の広さ女の足早し

東京にて

ビジネス特急みんな両手に提げて下り 第二こだま号にて帰阪

雄

4

犬のくそ乗せてタンポポさきがける 岡山県 浜田久米 雄

下関市

桜

JII

不

水

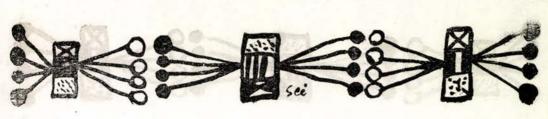
盛装の娘をカメラからのぞき 婚礼の朝を父親門を掃き モーニング借りているのを見破られ

街頭の演説候補も哀れなり ポスターに一票呉れという写真 大阪市 武 部

盛り場の裏で女に養われ すれちがうもの皆風を切って行き 打出の小づち振れば新邸出来上り 香 林

貧乏を自慢するのもいやなこと おお妻よ初夜とは遠きものとなり ガス代の事が気になるガス自殺 税金を値切りに行く日の目玉焼 雨の日は雨の日らしい腹を立て つら当てで死ぬのもけったくそ悪 王

大阪市 木 下 幽



下関市 弘 津 柳

慶

妻病んで一家総出の台所

鳥取市杉谷湖山

盗聴の出来ない耳も年なれや春の海のたりのたりと眠うさせ

呼び出しの電話寝巻で走らされ

喜

由

泡の一つ一つに貴郎がいるタライ

皇太子御成婚

そっとして欲しい二人へ書き立てる 雲の下で俺とお前は暮そうぜ

尼崎市 小 林 文 月

そのお手は九千万に振るおん手

**人民化せんと太子は思えども** 借切りバス雨天順延とはいかず

吳市林野甦光

俺れの家も道路に入れて都計出来けなげにも裏町旗を出しており

岡山県

福

鉄

児

百姓の娘百姓へ嫁かない気

藤

波

勉強もろくにせぬ子の委員長

金残す方では親に似ておらずき受目は堕ろすお金を借り歩るきを関うた事がありますからませば僕だけ写真機持っとらず

入智恵の声も聞えて来る電話金平糖幼な馴染みと夜を更かし 岡山市 服 部 十

会議会議予算が余ったとはいわず

右

熊本市有働萊

春

金借りて下駄替えたのは気がつかず

広島県

山

田

季

贅

堺市山田烏

荘

月給日千円札でお昼にし

繁昌をしている方は引揚者同類を貶して家具屋売りつける

大阪市 山 本 葉

光

**愛情に餓えつつグレずだまされず** 

倉敷市 水 谷 谷 水

つとめぐちもないのがラジオ首にかけ堅いそうですよととりまき如才なし堅いそうですよととりまき如才なし

花の下しらふで歩るくあほらしさ 倉敷市 椙 原 一

善

元金も取れず桜の花が散り 断落の出来る境遇羨やまれ 阿山県 田 村

かんしゃくの煙草の煙輪にならずアコディオンのよう鼻紙を開け閉じた

岡山県

岡

Ш

夜

潮

九

平

山のバスゆうゆうせまらずエンコする

的

岡山県

本

田

惠

=

朗

世は悲し一乗二降三発車子の年を数えて停年の父笑う家内中眼を皿にしてテレビ室

世は悲し一乗二降三発車

内

圭

=

**| 料巻長子供り頁なごて、き鉢植の花がアパート春にする** 

ニコヨンの恋はたこ焼き分け合うて 尼崎市 藤 井 春開業医子供の頭なでていき

日

ビル街に来て虚無僧は歩をはやめ

実篤のカボチャーつの価にたまげ 実篤のカボチャーつの価にたまげ

岸

同窓会まだ愛称で呼びたがりフエミニストお好み焼きについて行く試験など運と思えと慰める

夫婦養子小さな声で喧嘩をし春うらら自慢の時計も遅れだし 食敷市 野田 素 身 郎

大阪市 清 水 望 峰

立読みの知識で株を注文し

雨漏りを下からぼやいただけのこと 大阪市 木 +

悟 顔役の立場で家事を棒に振り

岡山県

池

田

古

心

候補者が右や左へ気をつかい

大阪市 菱

田

満

秋

東京都 石 居

高

志

ついてきた動物園に花があり

気がねなく飲む婚礼のめでたさよ

兵庫県

前

111

左

文字

寝そべって見る新聞に社の近火

学校の科目に欲しい歌謡曲

ガス利用自殺も科学に後れざる

こーもしてあーもと思う子が伸びず

大阪市 伊 堰 子

移民船もう咲く四月を待たず発ち

九官のお早よう二号の癇にふれ

隣りから見頃でしたと桜漬

四年目の顔が選挙の事で寄り

しぶちんを見込み二号を籍に入れ 大阪市 不二田 三夫

歌姫でなぜ肉体を見せたがる 昼の月出番ちがえたように浮き

兵庫県 酒 井 ひ かっ 平.

おさしみ嫌いとはよくよくの貧乏性 トイレから大阪の春眺めやり

大阪府 深 見 雅 堂

仲人に十人並にされて嫁き 宇部市 秋 六

花

同窓会独身ですと服が派手

学校出と意識している言葉尻

上役の子の方がすべったのでこまり 鶏小屋が荒れた旧家の庭へ建 家柄を言うて浪人まださす気

神戸市

甫

月賦まだ済まない内に離縁され

家柄は維新の鎗を飾りつけ 元町を歩るく通訳小さすぎ

長女再発

医者が来て病人までがほっとする

成婚の日やと唇奪われる

小説の女待ってたように脱ぎ

新企画ひらめく妾宅出た車中

菜

火災報知機いつも只今修理中

私鉄スト春が来た来た春が来た

道端にアルミ貨一つ落ちたまま 水取りのほかは静かに二月堂

市 圭

水

良心を偽るための酒を飲み

加賀市 松 恒 雄

予備校にも落ちて田んぼに鍬をふり 正論を世間知らずにしてしまい

西宮市

牧

人

目に青葉故郷へ墓参を思い立ち 花散って寺は静けさとり戻し 年と保たずパチンコ屋に変わり

大阪府 111

清

生

決算の済むまで待って呉れ桜

嬌声へ先生そしらぬ耳をもち

岡山県 池

上知

恵

美

大阪市 武 部 若

大阪市 西 田 柳 宏 子

春日遅々チュリップに煙草吹きつける

赤い靴大人の真似がして見たく

娘のいない机へ桜知ってくる

大阪市

橘 高

薫

風

子

広島へ三女入学

座薄団の下になってた忘れ物

四面楚歌故郷は豆の花の頃

奈良市 宮 笛 生

人いきれさけてボートを沖へ出し アベックに独占された貸ボート

豪農へ嫁して倖せにはならず

大阪市 桝 本 蕗

児

酔いざめのコーヒに妻の味があり

大阪市 池 戸 桃 村

老いて子にしたがう事が解りかけ

ママちゃんと呼べば老妻キョトンとし 貫目やせたと婦長のフラフープ

大阪市 JII 晃

「旅人」を閉じどれ店を仕舞おうか



ああしてこうしてと何もせず 死の決心ついてはしゃぐ娘となれり

釜ヶ崎風景

銭かぞう手で歌を詠み句を作り

助け合うて行こと兇状持どうし

名古屋市 田

念

集金に泰然自若観世流 アベックの尻に哀れな土筆なり 春闘に労働貴族の窓の灯よ

岡山市 葵 ſſ.

四畳半女中不安な程静か 改選期候補者どれも馬鹿にみえ

神戸市 仲 どんたく

これだけかと云う目で銀行受け取りぬ 断った二次会さぞや今頃は 八卦見でもやったろかと定年

うっぷんは未だ酔い切らぬ左遷組 平田市 家 代 仕

男

都おどり社長代理で出席し

おりんさん呼べば居そうな地獄台 萩 秋芳台にて

他人の花赤う見えない気の弱り 大阪市 本

柳

志

本人が寝てからはずむ祝い酒

大阪市 大

くばられたチラシをメモにすぐ使い 岡山市 T 国 MA 月 谷 都

貧乏は続く奇蹟のない限り

さなきだに佗しきものを雨だれの

宴はてた頻に堂島川の風

継子淋し虫の死骸を見詰てる 恋破れ己を笑いたくなりぬ

ボットの君へ大事を頼んどき

子沢山安い青海苔買う暮し デカンショー踊って懇談会終る

テレビ見る客と税務署見て呉れず 月給を捧げ女房に飼育され

高槻市

白

溪

子

子に酒の量を越されて急に老け 効き酒のニュース吐き出すとこも撮り 祝電をゴル フに出掛ける前に打ち 蒸しタオルお女将に済まぬほど汚れ 高僧の揮毫へ二十四時を生き

家族計画そろそろ一人産むときめ テレビ買ってからの出入りが絶え間なく

岡山市

光

好

陽

子

尸崎市 永 鬼 美

西宮市 河相 す > む

跡つぎがさっぱりだんねとまだ元気 丈夫でさえあればと落第あきらめる

西宮市 呂 鵜 汀

西宮市 П 舟 遊

虎の巻どおり先生間違える 新潟県 高 野 む ľ ts

先生先生と陣笠を煽て上げ

高砂市

吉

原 紅

月

鼻唄で他人の下駄を履いて来た 気の多い男はんえとにらまれる

篠山にて

銀行も昔城下と云う構え 大阪市 岸

111

漣

策士とも云われ社長の碁の相手 ライバルの見せた善意が顔に触れ 勉強を嫌った親が子に強いて

テレビ料理安いものから真似て見る

大阪市

蘭

掃除器へ蚤も一緒に吸い込まれ 炊飯器買えば女房に朝寝され

大阪市 石 倉 旅

風

地下鉄を降りては靴をまた磨き

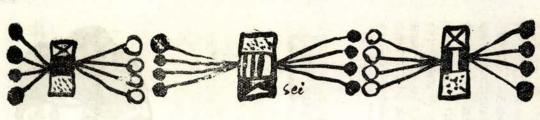
改札を小さな意地で先に出る 満

大阪市 魚 住 潮

ふろしき包一つでも四月十日嫁く 貝になりたし妻の寝顔を見ていたり 税務署の椅子をば蹴って立あがり

贅沢な車芸者も次いて降り 犬の子に生まれ尾を振ることを知り 心中の女の顔を蟹が這う

其の瞬間もう妃殿下とアナウンス お盃まだ雲上と言う儀式 田 中 狂



表情も変えずに女嘘を言い 妥協する気配へ三味が待期する

大阪府

林

昌 男

愛媛県 村 E 旭

童

売る為の花を作っている余生

冬中のへそくりだった釣道具

倉吉市 前 鳴 恍

理髪屋の手間がはぶける型で禿げ 雨宿りパチンコ代が高こうつき

春の柄花見の妻の目をうばい

鳥取市 北 村 Ξ 步

言い訳の後半分は妻がする 参考にしてやと意見まだやめず

訥弁の底に真実見付けられ

作業服大学出てるとは見えず 神戸市 島

静

馬

護送の囚人新車に気を良くし 他所ゆきの芸者とわかるハイヒール

みおつくし聞いてキャバレーざわめきぬ 笠岡市 木 Щ 遠

農地法百姓みんな小賢しく これ以上馬鹿になれないのに困り ンカチをかむって戻る花の雨

御成婚記念に妻は鍋を買い 大阪市

光

大阪市 平 沢 保 美

御成婚用の幕なり算盤珠はじく

宿直も楽し我が家にないテレビ 助手席で愛の助手まで務めてい

布施市 森 下 愛 論

雛人形コケシ人形も美智子型

姫路市 植 村

客

遊

子

飛び付いた蛙しばしをゆれるまま

丁重な言葉で学士こき使い

岡山市 宗 高 矢 4.

志

娘の事となれば新らしがっとれず ただ逢いに来た旧友を憶測

病人がしゃべり通して帰られず

大阪市 井

庸

佑

矢表に立たされ代表ほっとかれ

選んどき汚職の記事に腹を立て 憎くまれ口言いそうもない子の寝顔

大阪市 小島 3 3 す

濠端へ憩えば歴史へ想うこと 道路よしここを地盤の市議が住み

皇太子御成婚

春の陽もお馬車をおがむように照り

石川県

同

村

虹

要

借家に住むような大臣出んかいな 日が暮れてから教祖さま医者を呼び パスをした手に差し上げられて猫困

同 舟 近 詠

松山市 前 田 伍 健

> 又公明選挙でしょうとお婆さん 献上のお菓子勝手に菊の紋

年寄が好きと女に虚をつかれ

熊本市 大

島

當

明

華やかに蝶の一生消えてゆく 須坂市 高 峰

児

握手して別れる恋がまだ続き

恋の味皇室一家に春溢れ 進学を望む子家中暗くする

散る桜恋のベンチへ降り注ぎ 寡婦若く生活の底をのぞかれる

換算表張って煤けた壁目立ち 保証人の方も一緒に落ちぶれる

今治市 長 野 文 庫

お祝に招かれ禁酒又破れ 大臣にしてはと額の字をけない 値を聞いて茶器を持つ手も固くなり 食べたあと皿灰皿に早がわり 和歌山市 秋 月 宏

選挙演説獅子吼するほど来てくれず 古戦場兄弟げんかしたところ 力

今治市

原一宵

明

鼻唄で来て簡単に堕ろしたり 手提からピースを出した賢夫人 妻と観る時は封切館ならず 病む者に疎とし入院一ヵ月



亞 鈾

明らかに、美なるものを感ずることで

粋詩を提唱したポール・バアレリイがボウ 韻律を否定する現代詩観の有る中で、純

、間の心に深く根をおろす本能は、

ボゥは心の世界を直ぐ眼につく三つの異っ 現代詩の鼻祖といわれるエドガ・アラン・ う庭園の構成に発展し得る。 楽に一それにもまして、広い地域を伴 に、彫刻に、建築に、舞踊に、殊に音 天上の美を会得しようとする努力ー その詩的情緒は種々の様式に一絵画 ポウ 詩の原理 ― 詩」を提唱したのである。 カしい。詩は短かいものである。〃と「短 は感動であり、感動の持続は三○分間も六 "長詩などという言葉すらあり得ない。詩 によって訴えるものとして長詩を否定し、 をもってした。其点ポッの詩は直接、感動 韻律さえも数学的公式による幾何学的類推 った長詩「海辺の墓」に見る怜悧な知性は するに、この数学教授は主知的な計算をも しバアレリイは詩の音楽性をいうボッに対 を展開したことは明らかなことである。然 の「詩の原理」から「純粋詩論」詩学叙説

者オスカー・ベッカーの名を口にし、又引 用したものだった。訳者湯浅誠之助氏が独 ど飽くことなく繰り返し読んでは、 冊のことではあったが、私は二度三度と殆 性」という先ず題目に惚れて購い、幸い小 冊出版された「美の果無さと芸術家の冒険 九三一か二年ごろ私は、理想社から別 その著

> 的存在論ではある。 講義と演習を受けた現象学的解釈による美 逸フライブルクに於て直接ベッカー教授の

さ)として固定さるべき、一つの存在論的 居ない。この言表しに依って、美学的なも 葉一は、抒情詩的の意味では用いられては のの、術語的にフラギリテート(壊れ易 「美の果無さ」ーゾルガーに基を発する言 超存在論的基礎範疇が表わされる。

あった。 ーそれ自体の姿勢を美しいとさえ思うので の消えた後の影像を追うてやまないベッカ ばあの黒い夜空にバッと揚げた一瞬の花火 易いなかに美を規定しようとする、たとえ ないと、聴講生であった当時の湯浅氏も言 学論文であるが、ベッカー教授のこの論文 でもすうっと入ってくる。これは抒情詩的 っているが、全くその通りで、果無く壊れ かない一種の抒情詩的美を持つことは否め は知らず知らずに人を惹きつけないではお な意味で取上げていないと、ゾルガーの 学論文も珍らしく、私のような頑迷な頭脳 「美の果無さ」を断るまでもなく完全な哲 冒頭、斯のような書き出しで始まった哲

度に鋭くされたもの。 - 壊れ易さは、凡て尖がらされたもの過

く永遠に充されているにも拘らず、時間 破滅性に従属する。 美しきものは、その本質に於て神の加

一この果無き美しきものに関する哀歎。 壊れ易い静止。

ー不安定な均衡。芸術家の存在の冒険

一詩人のみが、すべての上に浮揺するす

べてのものを破滅せしめるイロニーの眼を

瞬間」或は又「永遠の今」である。 一美学的なるものの時間性は、 「永遠の

学は論理をなさぬ。然しこの断片録でも読 なれていながら、しかも生の現象を顕わに み綴る熱心な読者があるとすれば、哲学的 以上に述べた断章ではベッカーの説く美 ―一般に美学的なものは、生とはかけは ーすべての果無さ。虚無性。冒険性。

から分離したフィードレルの造型的美意 ッカー美学。そして近代美学として芸術学 純粋詩性は、美そのものの解析は望めなか ったにしても、ゾルガーの「壊れ易さ」を 「尖端」の頂点に瞬間の美を定義づけたべ 美を詩の対象にしたボウとバアレリイの

取ることが出来るだろう。

として捉えている一貫した彼の主張を汲み

には存在論でありながら美をフェノメーン

し逃れ、花火の好きな山下清になって放浪 常に有るよごれ多い川柳的生活から、しば ッカー)された如くに見える美を、その日 そこで私たちは今、日常性から分離(ベ

あの永遠の今なるフラギリテートへ。

投入することは、私の願う詩川柳への変革 では散文であり、非詩であると言ってき を意味し、文学領域にまで拡大し得る。 た。然し、現代川柳から美を抽出し、美を 常日頃、私の思う川柳は、川柳そのまま

3

私は昨年来、現代川柳論の確立並びに批

た部分に分けて、純粋知性と、審美眼と、

る美でなければならぬとする。 れた詩は努力して獲た天上の永遠につなが 天上の美であり、ただ詩のためにのみ書か たことになる。そしてポッの詩的情緒とは 道徳感とにする。つまり真、美、善に分け

の極致をもとめ、詩の韻律にこそ美ありと 恍惚であれば、音楽のエクスタシイに表現 美とは、ボッの場合は魂の高揚であり、

して、試作して戴いた。(別欄参照)して、試作して戴いた。(別欄参照)がで、美を川柳にして欲しい」ことを提言いで、美を川柳にして欲しい」ことを提言いて、美を川柳にして欲しい」ことを提言いて、美を川柳にして欲しい」ことを提言いて、試作して戴いた。(別欄参照)

現を主に把握され、一句の作品にこの三視点 原全に把握され、一句の作品にこの三視点 を全に把握され、一句の作品にこの三視点 を全に把握され、一句の作品にこの三視点 を発生に、しかもこの三つが何れも な期待であった。しかもこの三つが何れも な期待であった。しかもこの三つが何れも な期待であった。しかもこの三つが何れも な期待であった。しかもこの三つが何れも な期待であった。しかもこの三つが何れも な期待であった。しかもこの三のが何れも な期待であった。しかもこの三のが何れも な期待であった。しかもこの三のが何れも を対して美を川柳に とことに美意識をもっているかが一つ、美をどこ に見出すがが第二。如何にして美を川柳に とことで表に、山下清の を表に、地下清の をとことで、それを容れ、一ヵ

等ろ従来何十年と川柳作句経験をもった を関作していたナンセンスに気付き、吾な ま句作していたナンセンスに気付き、吾な がら愛想がつきることだろう。

性りに花火に魅入る山下清は、その瞬間 に於ては決して阿呆ではない。彼は既に に於ては決して阿呆ではない。彼は既に 人類の根原にある詩人として詩を凝視めて いる。それは放浪の画家がつれづれのまま にみた単なる花火ではなく、ポゥの、バア にみた単なる花火ではなく、ポゥの、バア

**帳のデラックスに再現されるとき、衆愚の美の祭典に預り、芸術家の冒険がここに級** 

必ずしも川柳とかけはなれたものではなかのエラン・ビタールを顕わにする美学とはるのか。川柳は庶民の生々発展にある。そるのか。川柳は庶民の生々発展にある。そいば川柳によって捉える美は何処にあ職は驚異に輝やく。

学派。フィードレルの享受者の受動的体験学派。フィードレルの享受者の受動的体験とする現象学派。

に。神と人間の中間でアクロバットする詩人

ある。
私はそこで先に挙げた三つの角度から、

4

## 柳人の持つ美意識について

一般に川柳は美を対象にしないことが約できれている。日常のディトを記録するに味されている。日常のディトを記録するに味されている。日常のディトを記録するに味されている。日常のディトを記録するに来されている。

が盛り込まれて、初めて詩川柳として批評

の対象になるなれば、これは遊びどころで

するからに他ならない。 用郷が散文に胎む矛盾、相剋、確執に明 川郷が散文に胎む矛盾、相剋、確執に明

真の意味に於て、美を感覚し、直感をもって表出するのは、川柳の畠ではない。それは又俳句の畠でもない。ここでは柳俳何れは又俳句の畠でもない。ここでは柳俳何れは又俳句の畠でもない。ここでは柳俳何れは文俳句の畠でもない。ここでは柳俳何れば文俳句の畠でもない。

つ。美はそれ故に主観的な抒情の花火のよわたしたちの美は本来人間の 内 在 に 持

か。 という言葉によって可視されねばならっ」という言葉によって可視されねばならない。

川柳とは凡そ具体的なものであり、客観によるメタフィジックにしらずしらず、りによるメタフィジックにしらずしらず、りによるメタフィジックにしらずしらず、りによるメタフィジックにしらずしらず、りによるメタフィジックにしらずしらず、りによるメタフィジックにした。

無さとして実存する。 無さとして実存する。 無さとして実存する。

5

## 美をどこに観、かつ発見するか一

私たちは、美の在りかが本来は外にある私たちは、美の在りかが本来は外にあるったちは、美の在りかが本来は外にあって、機械に或は跳躍するハイジャムプのアに、機械に或は跳躍するハイジャムプのアに、機械に或は跳躍するハイジャムプのアに、機械にする。私達はそれらを、カメスリートに見る。私達はそれらを、カメスリートに見る。私達はそれらを、カメスリートに見る。私達はそれらない。

美は時間的なものながら、そこに構成される造型として空間に捉えることの出来るれる造型として空間に捉えることの出来る策、スポーツの属性として功利的に取扱わり、スポーツの属性として功利的に取扱わり、スポーツの属性として存在するなら、芸術のではなかったか。

ルデン以来、ウティツ(一八八三年)デツ初めて「美学」を命名した独逸のバウムガー

マア (一八六七年) グロツセ (一八六二 中) ら学者達の論争になり、メーリング・ ザイツトフォーゲル、フリーチェなど、マ ガイツトフオーゲル、フリーチェなど、マ ルクス主義美学、乃至は芸術社会学など登 場したことを、美学史概論は陳べている。 それはさて措き、美は美として 視る と き、そこに表現の媒介する何物もあっては き、そこに表現の媒介する何物もあっては

美の自律とは美あるのみだ。性愛の極限 リテートとしての純粋性でなければならな リテートとしての純粋性でなければならな い。

又しても私は川柳を忘れ、芸術を封じ込よい。

又しても私は川柳を忘れ、芸術を封じ込双しても私は川柳を忘れ、芸術を封じ込めて、美そのものを語ろうとし、読者にはめて、美そのものを語ろうとし、読者にはめて、美との無知を曝すことを止め、川柳人の上は私の無知を曝すことを止め、川柳人のよう。

但し、美を内在しない限り、川柳は、必然的に自然風景とか花鳥諷詠の属性として 外側に美を瞶める。これは先に少し触れた 如く俳句と同じ観照の立場にたち、単に感 があることによっ で俳句との相違を知るだけだ。

アバンチュールを賭けるものではない。 アバンチュールを賭けるものではない。 アバンチュールを賭けるものではない。 アバンチュールを賭けるものではない。 アバンチュールを賭けるものではない。

私達は美を発見するということは、美を

占めする歓喜に湧く。 夏山の、冬山は冬山の雄運な自然美を一人 瞬間に於て最は最の、夕暮は夕暮の夏山は をクリンクするが、頂上を極めた時、その 作家井上靖など)、彼らは生命を賭して山 多いが(朝日の藤木九三、毎日にいた詩人 を発見するようなものだ。詩人に登山家は 人地帯の南極の果て、オーロラの壮麗な美 探検する、美を追求することによって、無

ことの方が望ましい。 不均衡と、頽廃にある醜から美を発見する ってとらわれている美意識を壊して、寧ろ 美。或はボードレエルの如く既成概念によ そして又誰にも気付かぬままになっている 人も体験しない美を発見す可きだった。 私達は既存の美を観るよりも、探検し何

6

作者に非礼の点があればお詫びして置く。 ある。そこで私は若干の句を引用し、予め あり、難航をつづけてきた「美」の結論で ということが最後に残された私の課題で 美を如何にして川柳に捉えるか

として意識する俳句的な観照に止っている は何故であろうか、これは美を外側に経験 ままに捉えて美の探験とか追求に乏しいの 川柳にしても、そこには既存の美を在るが 銀盤を蹴って山湖に動く点 掘り出した茶碗の白さ秋陽さす 月の出へ鼻筋たかき姉妹 月が出た夜道芒の穂がそろい 新緑の深さに舟を流してき 秋の雲公爵夫人の裾を索き 斯のように川柳人が、季節とか、叙景を 季節と叙景による句 東洋樹 吞 尚 水水豆 客 風 美 秋

> ら、東洋樹の場合は月と鼻筋という類推 妹。に些か喰われた格好にみえる。何故な 同じ月の出に対する東洋樹の鼻筋たかき姉 したところに美を発見した。 に出てくる十月の月見と芒の穂。これは、 絵葉書に見る安っぽい美。秋のカレンダー (アナロジー)を破ってやや既成概念を壊

陀仏にしてしまった。 だが、秋陽さすの下五ですっかり、美をお えていない、俳句的観照に堕してしまった。 月並なものにし、否風の銀盤の句は、普通人 誰も気付かない美を 発見し たもののよう あるが、しかしこれは完全に川柳として捉 の体験しない叙景故に、やや美の新鮮味が て俳句的な感情移入による修辞は結局美を 尚美の掘り出した茶碗の白さ、までは、 豆秋の秋の雲を公爵夫人の裾にもってき

昼線の下で水晶の印を刻り 日常生活から詠んだ句

りとて川柳でなければ詠めない日常生活の 内から美を発見した佳句として私は推称す 日本間の鋏は花を切った音 この二句は殊更川柳のアクを出さず、さ 潮

に変幻せしめた巧緻は川柳のものでなけれ と鋏に美は果無く透徹した空気を震わす音 も花生ける麗人の美しい手に支えられた花 る市井の印判屋の一心不乱の仕事と共に絶 突から受ける美の発見は、軒先にまで出張 破る音となって、バチリっと冴える。しか 対に動かず、潮花の日本間の鋏は、閑寂を 昼線と水晶の意表をつく言葉の概念の衝

媾曳や葡萄色なる闇もよし鉄骨の霧は默って抜けて出る 柳によって捉えた句

木客の新緑の深さと舟を流す名所の色彩

町夏 二六

最近の「俳句研究」に

二つほど胴ぶるいして牡丹散り 玩具みな春の夕べの影を吸い 山雨楼

焦 醉

ちょ ち x II ちょぼちょぼと咲く女 T'ı

手の染まりそうななすびの紫よ

強く出すぎて、美それ自体が薄れているき るいという言葉は、この句の場合、牡丹に ひっかけて動かないが、少し川柳のアクが 果無き美をしっかりと捉えた。しかし胴ぶ めたことによって、大きな華美一輪の散る 影を吸い、と漸く季節は川柳の吐息に聴 え、焦酔の牡丹は、二つほど胴ぶるいせし 春の夕べの構成に危険を感じたが、夕べの けて、川柳的現実を出し、山雨楼の玩具と リアルな構曳による恋愛至上の美にひっか みてよく、町二の闇が葡萄色なる美しさを 格にある生命を撮しだした点、まず成功と 少くとも映画的な動きを捉えて、川柳的性 ように定着せしめず、平凡な美景ながら、 いった川柳的表現によって叙景を絵葉書の 一六の鉄骨の句は、黙って抜けて出ると

これらの句から感ぜられる。 柳の従属の立場をとりはしないかの危惧を するに急であることは、その為に、美は川 余りにも川柳が、川柳によって美を発見

聯想をぶち切ったところに、この句の生命 〃秋なすび嫁にくわすな〃のいらいらしい てなすびの染色そのものに美を発見し、 句は、手の染りそうな、という主観によっ 見した句に、路郎御夫妻の句を例証した。 によって女郎花の点景を活写し、路郎師の 川柳によって、美そのものを把握し、

> 虫火にぬれる目刺の籃のながれけり 啓蟄や蚯蚓の紅のすきとおる

色の美感を表出した句として引用したが、 に発見されるであろう。 読者は、ここに川柳と俳句の相違も亦容易 窮極するところ、美を何処に発見し、そ の句があった。路郎師の紫に、紅と籃の

ればならなかった。 か、ということが詩川柳の示す指針でなけ れを如何なる方法によって川柳に捉える

あ とが

句ぞろいであったことに私は一驚する。読 者諸賢の御批判を俟つ。 とキャッチした時、川柳が一層引立ち、名 しない美でも、川柳人のベテランが、こう たものではないが、しかし水と油ほど融合 推薦に預った。必ずしも川柳の良悪を問う 用例句に就ては、豆秋、薫風子両氏の選句 員諸兄に負うところが大であった。殊に引 今回の研究に対しては、阿倍野支部の会

### 感 (研究課題

於阿倍野区旭通金塚会館 三月十八日(土)夕六時 高鷲

さわったら散るぞエンプタゴンの露 あざやかな真紅のバラへ朝の露 道行の桜へばっと幕が開き 駅の花さし人しれぬ年を越し 京深く友禅流している河原 毒虫の色鮮やかに光放つ 水底の石へかすかな陽がとどき 歯車が歴史を裁ってゆくリズム 遊美歌を包むスラムの朝のもや 堰 唐二美 同生同 同晃 T

# おみずと で

東野大八

大いた。歯ブラシを使いながら、朝れたの女将みたいに艶然たる真紅の大からで、三つ四つボール箱に入れてもたって持帰り庭に植えた。たちまち芽が出て眼にしむばかりのみどち芽が出て眼にしむばかりのみどをいた。歯ブラシを使いながら、朝れたの女きながらのボンボながらのボンボながらのボンボながらのがという。というながらのがいた。歯で見ほれ、これが二十五円とはど、からがりできながらのボンボないに艶然たる真紅の大から、朝れたの女将みたいに艶然たる真紅の大から、朝れたの女将みたいに艶然たる真紅の大からでは、ボールの女きながらの帰り、ダリアの球へが

まいているようだナ」と私は家内 うやらまいているようだナ」と私は家内 うやらまいているようだナ」と私は家内 うやらまいているようだナ」と私は家内 うやらまいて、老女のしょうけつぶりを示し の花がた。こうなると咲く花も目茶苦茶 たっこうなると咲く花も目茶苦茶 たっこうなると咲く花も目茶苦茶 たっとが乱酔ぶりとなった。根が交配し の花がたいに、花というにもおこがまし 然としたいに、花というにもおこがまし ぬかったいに、花というにもおこがまし 次女ぶて花自身の主体性を失った故で、 サキバレーも白玉のボンボン 間をかたいに、花というにもおこが変配し 数女ぶ しまりとなった。根が交配し 数女ぶ しまり とれば家内 うやらまいているようだナ」と私は家内 うやらまいているようだナ」と私は家内 うやらまいているようだナ」と私は家内 うやら

へ 低嘆した。 まるで今どきの自民 党みたいなもんだ、と居合せた友

そこで今年はきれいサッパリとその球根を掘り出した。もっこにその球根を掘り出した。もっこにをがいていまいましくなった。ダリオがこの具合だから金にしたらど本がこの具合だから金にしたらど本がといまいましくなった。ダリセばとろりと甘味が出そうなほど、柔い女のふくらはぎのような感じがした。

毛並の悪い性悪女がきれいさっ でしまった。ところが、それがど でしまった。ところが、それがど

のこじんまりとした一むらから、 
た。そして繋深い陽春のある朝、 
た。そして繋深い陽春のある朝、 
に開花した。牡丹の女王八重ぼた 
に開花した。牡丹の女王八重ぼた 
んだ。朱と真紅の重厚な花々の重 
なりは、花芯に灯を点した様な輝 
なりは、花芯に灯を点した様な輝 
なりは、花芯に灯を点した様な輝 
なりは、花芯に灯を点した様な輝 
なりは、花芯に灯を点した様な輝

なんぞふくいくたる春情!」 と私奴は、そう月並な慨嘆の声を と私奴は、そう月並な慨嘆の声を が、不覚にもその夜、綺羅 で、なたは実は、北京前門でみ た中国の春曲―。紅楼夢のさし絵 をのまま。聊斉志異にも、牡丹の そのまま。聊斉志異にも、牡丹の そのまま。聊斉志異にも、牡丹の そのまま。聊斉志異にも、牡丹の た中国の春曲―の母でみる。若いこ た中国の春曲―の母でみ た中国の春曲―のおりでみ た中国の春曲―のおりでみ た中国の春曲―のおりでみ た中国の春曲―のおりでみ たのまま。 のだ。半白に近い中老の今日、 ものだ。半白に近い中老の今日、 ものだ。半白に近い中とのもり。 りわらったことであった。

目下、量より質の八重に変った 気ない芍薬のつぼみが、若くしなう鮮やかな茶筋の鞭の如き茎先に う鮮やかな茶筋の鞭の如き茎先に うがなってば芍薬、坐れば牡丹、歩 る。立てば芍薬、坐れば牡丹、歩 る。立てば芍薬、坐れば牡丹、歩 る。立てはち、と近所の娘が昨日 もそういってしなしな腰をふって もそういってしなしな根が もそういってしなしな根が ないでいった。後半月でこの娘は 帰っていった。後半月でこの娘は お嫁に行くそうな。

する白根の底に、若いみみずが幾の根を取った。つまめばくるりとの根を取った。つまめばくるりとなった。

の思春期にあるとみえた。の思春期にあるとみえた。

虫けらや虫けらや 虫けらや虫けらや 虫けらや虫けらや

「ああ、老骨を思わすその枯木に

これは南海で戦死した山芋詩人大関松三郎の詩だが、そいつがみみずといっしょにとび出してく

「中小企業の育成を図り、治山冶「中小企業の育成を図り、治山治社会保障制度を確立し、福祉国家を建設するため、この度の選挙に打ってでました自由共産党公認候補の私奴にナニトゾキョきご一票

ふん!何をヌカス、くそったながよってではなりゃあしませたご仁の涙雨はナニワ節になってたご仁の涙雨はナニワ節になってたご仁の涙雨はナニワ節になってもシャンソンにはなりゃあしませもシャンソンにはなりゃあしませい。

くっさいへえをひっかける

それで誰も近づかん いいきもちで ひなたぼっこできる そんなふうに ちくらくしてるやつ やいこら くさむしめ おれは そんなやつは だいきらいだ

松つあんは、ええことを詩にうなりたいまくって死んだ。おれはみみずになりたいというなりたいね。貝になりたいというなりたいね。貝になりたいというなりたいね。貝になりたいというなりたいね。貝になりたいというなりない気であれば、ええことを詩にう

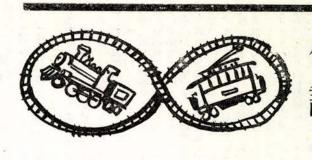
世と思い 世と思い 世と思い

こんなごうたくを並べながら、

剣花坊さんのこの句を最後にふと気がつくと、私はいつかみみずと気がつくと、私はいつかみみずと見がられ満をたらして花ぐもりの広い空をながめてつったっていた。その泡立つ足下へ今夜は酒よりビールが欲しいなる、とみみず君には悪いが、そうあ、とみみず君には悪いが、そう考えはじめて……。

ーイヤーナ感じ!おけらな ーウフフと蝶くぐもれば花 ーウフフと蝶くぐもれば花 ータッチクタッチクタッチ

ーおーい中村クン 若いみ クさ よくら虫は陽に向う みずの一人です



### 7

## 貞操の危機へ胃痙攣が 起き

も危機は去ったものと想像される 方とは思わないが、どちらにして 痙攣を起したのだろうか、男性の とあるからには、危機は女性にあ あるが、一歩進んで考えると貞操 って男性ではない。どちらが胃 直感的にはよく理解出来る句で 白星一栞さんの、

「癪」の解釈

男性に胃痙攣が起きてこそ真の危

光郎氏提出(川柳塔九月号)

F 石川県 大阪市 東京都 開市 性の方に起きた胃痙攣であると直 縁が起きたとなれば面白くないか 出来事で第三者から見た胃痙攣で ら如何でしょう。両性妥協の上の 感させるような句の構成を考えた この意味で余韻をもたせながら男 が、飲みすぎでもして男性に胃癌 中 那 村九呂 光 平 郎 瓢 星

耳なれないので、些か共感に乏し 情景に出会ったこともなし、余り さしこみですから私は女性と解釈 です、が胃痙攣は昔の癪という、 します。幸か不幸か一度もこんな も一寸診断に困っておられるよう 起したかはお医者さんの光郎先生 栞─同感です。どちらが胃痙攣を 危機を脱したのなら別である。 いが作者のイメージの努力を頂戴

> ているかも知れませんが。 から逃れ」の先入観が、強く働い 偽」論では、「生理日と偽り毒牙 とかでマダムの今日休み」 出来ませんでしょうか? て、男の暴力から逃れたと、解釈 ぎるし、女性が胃けいれんと偽っ ようですが、それでは余り偶然渦 癪」論には、拙句『胃けいれん 本当に、胃けいれんが起きた 全く同感です。字句から言え

大阪市

1/4

尾

あまりにも誇張に過ぎるのではな 暴力から逃れたとしますと危機が 女性が胃けいれんだと偽って男の は逸早く危難を逃れたんでする、 さいわい暴力未遂におわり婦女子 つまりその癪がひどくつめた為に なっての作句ではないですかれ、 で聞いておられたか調書を御覧に かネ警官の取調べを七面山氏が側 て、胃けいれんは男じゃないです 九呂平―操の危機は勿論女であっ

敬意を表します。 技巧的にここまで進出された事に ば、往年の七面山氏の肉体川柳が れている。敢て蛇足を加えるなれ 氏の句であれば、未遂者が男であ 病であり女は半黒? とかく場馴 私流に言わして貰えば胃痙攣は仮 言しても良いのじゃないか知ら。 りうまく逃れたのが女であると断 一瓢―作家論的に言って、七面

毒牙から逃れー 栞―白星さんの――

だけれども。

とする男性には何も支障はない。 むしろ癪とした方が適当ではない に
米解し得る人は
殆んどないと言 代人特に若い年令層には癪を直ぐ 性の方に起ったと思われるには、 そうではないと思う。直感的に女 起り得るから、あまりに狂句的喜 光郎―要するに偶発的に胃痙攣は 劇と白星氏は言われるが必ずしも -但し昔は癪と言ったが現

の往年の七面山云々の言には同感 るのじゃないかな。尤も一瓢さん 胃けいれんを癒してから仲よくな いから、私には難解だ、癪に嬉し ように、出るものかどうか知らな 胃けいれんがそう早速――芝居の と思いますが、これなら往々にし い男の力という言葉があるから、 てあることだと受けとれますが ーの句意と同じだ 生理日と偽り

> 心斉橋筋大丸前 電話②三三四四番

満ち溢れた御解釈でしょう。 さんの「癪に嬉しい男の力」で、 ドに終ったのでは、余りに善意に めでたしめでたしのハッピーエン に訊いてみねば判りませんが、栞 な喜劇です。又真相は七面山さん 方に起きたのでは、余りに狂句的 白星―本当に胃けいれんが、男の

要すると思う。 である、どうしてもこの点再考を か、女性に起きたか?となる所以 だからこそ胃痙攣が男性に起きた ものである、少くとも現代では。 職疾 患其他 ETCを 総称している たが、胃痙攣は勿論、胆石症、膵 無理である、昔は癪と一口に言っ 少を昔の痛と一本に解釈するのは 胃痙攣は女性に限らない、又胃症 女性に限るから論をまたない 機はのがれ得る一 生理日なれば

伺えて、句と裏腹なものになりは られないのみか男性への思慕さえ 仲良くなるのでは貞操の危機でも 寧ろ癪に嬉しい男の力こそ狂句的 喜劇とはちっとも受け取れない、 が起きたからとて決して狂句的な 何んでもないし、男に胃けいれん 九呂平一貫けいれんを癒してから 貞操の危機などちっとも感ぜ

かろうとあるから、淋しいことが

一重に強まりもするが、情緒はは

きりしている。然しあまり感銘

るのではないか知ら、 反対にその危機多かれと望んでい のは大体女に言える事で男の場合 上げます。 いますがねえ、 一瓢―鬼も角貞操の危機なんても 敢えて光郎氏に申 私はそう思

しないかと私は思います。

瓢氏提出 (近作柳樽二月号)

くもない存在へ「淋しかろう」と 大体「墓と墓」とあまり淋しくな のは、「淋しかろう」と言う上五 きだが物足らぬ所がある、と言う ないものか。 語によって句意を強める場合はあ に似たあくどさを覚える。成程重 私はこんな句が好きである。 淋しかろう話合ってる墓と 私はあんころに砂糖をつける それとこれとは違うように 「淋しかろう」何とかなら

白星ーボクに、詩性がないセイ **栞**―一瓢さんの評や正に適確。 で居られるかも判りません。 光郎―墓と墓へ持って来て、 批判と別に、案外、ホクソ笑ん 余りピンと来ませんが、 「淋しかろう」で、 粗影さんを、想像する お二方の

> ては、 歩進んだ詩情が欲しかった。 と言うだけで、話の内容がぼやけ となる所だ。小生としてはもう の墓であれば、飲みたかろうとな いか、これとは別に、酒呑み同士 からである。粗影さんの詩情とし しない。何故だろう、淋しかろう 歌手の墓なら、唄いたかろう ただ淋しいと言われただけだ 快心の作ではないのではな

りつかめません、そうである為に う。光郎さんの言われてるように があんころと砂糖的な双語感を受 と思いますが墓所が淋しいから話 やっていますが私もちょっとつか 話の内容がぼやけているとおっし ことが淋しいとも思い私には判然 九呂平―墓と墓は仏同士のことだ ないのはどうしたもんでしょ 合ってる、のと、話している 「淋しかろう」と「墓と墓」と

何もありませんが、皆様の御意見 を言ってしまったので、これ以上 々御尤もと拝聴致しました。 瓢―最初にずばりと言いたい事 この場合の一句墓と墓を評す

左程この句から、きつさがうけと の句の外、他の五句を続けて読ん ると皆さんが言われる通り、淋・ 又元へ戻って、 といい、一寸表現過剰だがこ 墓、話しあってという擬人 読み返すと、

それとも私だけかしらん しょうか? 白星一何度、 り、感情を買われたのでしょう。 かい、作者の心持が句の字面よ う、話し合ってる墓と墓という温 情を育てるために又、淋しかろ れないのはどうしてだろうかー 個性の作者粗影さんの良き詩 小生の体質に合わないので 読んでもピンときま

じゃあないでしょうか。 ちにも作者の気持がくみ取れるん と言うことになるようですネ。淋 情が禍して句を難解なものにした やっぱり話の内容が判然しないた 光郎一この句は小生に詩情が湧か めの物足らなさのためであろう。 しかろうは、吟詩七言絶句の起 転句の位置と言うか性格と言う それに属している感じがす そう考えてくるとぼやけたう 承句、転句、結句とあるうち 擬人法で話し合って、だが ―結論的に言って豊かな詩

**栞氏提出**(近作柳樽二月号)

白星 是非について批判して戴き度い。 くまとめた手腕を買う。下五の酒 複雑な事柄と時間的の長さを旨 ツケのツケを片仮名書きにした 壁下へ先祖の否んだ酒のツ -全く同感です。 十七文字の

で勘定書でしょう。 と叉、まぎらわしい。栞さんは、 と来ない。それに「ツケ」は名詞 他の言葉と、まぎらわしく、ピン で、ツケがきく等に使い、文章で で「つけ」にしては、前後の文句 した。佳句ですね。ツケは「附 したが、うっかり見落しておりま 「近作柳樽」も、

小生にはピンと勘定書である

先祖の酒のツケが出ている。

えします。 なりませんし、この場合、むしろ 分、文字に拘泥されるようです 年齢的にか、体質的にかで、随 「ツケ」以外にはないと言う気さ 「附」の文字は余り使わず、又 大正生れの我々は全然、気に 旨くまとめられたもので ッケは会話語 眼を通しま それを読んで色々と先祖のことを 古くなって壁が落ち、その下貼り まぎらわしいつけでも附でも用い 却って白星氏の言われるように、 書であっても問題はないと思う。 ことが解った。この際ッケと仮名 ぶようだ。仮名字のツケであって 想像する。先祖の酒好きが目に浮 光郎一全くよい句だと思う、家が ないだろうか。 ない方がどらちかと言えばよくは

出して張ることに矛盾がある、十 九呂平一ツケだと解るように表を 常識である。技巧におち入り過ぎ 裏の白地を出して張るのが

若本多久志編 麻生路郎 序

150円

24円

定価

送料

したい。との出来る、 気よく拾い蒐めたのが本書である。登載された柳人三百余名、作柳樽の中から、親ごころ子心を詠った秀句を多年に亘って根作柳樽の中から、親ご二子数年、「川柳雑誌」の川柳塔及び近を川柳に転嫁して以来二十数年、「川柳雑誌」の川柳塔及び近 との出来る、実に有意義な書である。柳友諸氏の座右にお薦め集句二千余は親と子の愛情が如何に深いものであるかを知るこ 真実一路のものと言えるだろう。編者がその愛児を喪った悩み 偽り多い世の中に、親が子を思い、子は又親を想う至情こそ

発 行 所 ]1

振替大阪七五〇五の大阪市住吉区万代西五の 一〇二五番五

す。先祖の酒好きが強く印象づけ ツケたる所以を深めると思いま 場合「ツケ」と仮名書きした方が 光郎さんのおっしゃるようにこの 提案の「ツケ」ですが、白星さん た感を深くします、それは兎も角

ないように思います。 ばそっとこのままにしておくしか 意味での作者の用意周到さを買え 読みせられるまぎらわしさを省く ばどっちでも良い。要するに弁慶 者が読み上げ耳で聞くだんになれ けの意図で、これは句会などで選 してあるのはつけを明確にするだ 一瓢一作者が片仮名で「ツケ」と

です。明治生れは、短冊や軸の筆 り良い句だけに惜しい気がしたの 笑い下さいませ。 もつことも考えているのです、お 仮名書きが非常に座りが悪く、余 や軸などに書いた時に、ツケと片 で良いですね、若しこの句を短冊 **栞**一皆さんの御意見でッケはッケ

光郎一壁下は裏の白地を出して貼 としたのでは駄目でしょうネ。 の飲んだ勘定書(かんじょがき) の程。只その時には「壁下へ先祖 思いも及びませんでした。栞さん い過ぎは若気の至り、何卒御寛恕 の深慮遠謀には頭が下ります。言 白星一あ、!! 短冊や軸の筆には

居る場合だってあるから、これ位 九呂平一揮毫のときのツケとまで 深い句の一つとして推せんしてや はないか。ともあれ小生には感銘 の技巧的な作為は差支えないので 裏からも大体読めるし、はがれて

たがお互い一考すべきでする。 慮に入れて作句することも作法か は考え及ばなかったがそこまで考 んなことに無頓着で作句してまし も知れませんネ、でも私今までそ

### **栞氏提出**(近作柳樽二月号) 微分より女心はややこしく

ているが、そのコントラストに御 って来たのが、この句の身上とみ 分の高等数学も出て来た、微分と の女心を表現するに、遂に微分積 意見があると思う。 い女心というやわらかい言葉をも いうかたい言葉の後へ、やわらか 昔よりよみによまれた複雑怪奇

よいよ紙に薬を混ぜ」なんて句も の句に、剣花坊かの「人情はい ましたが、古い句でも、鋭い比喩 このコントラストが、益々もって やわらかい言葉と、固い言葉の、 年時代にはもう、食傷気味です。 羽の様」な女心には、昭和三十四 常に面白い。昔からの「風の中の 白星一これも見落して居りま 白い。古い比喩云々とは申上げ 「微分」と女心の比喩が、非

> 衆には理解しにくいのではない 点はないが、かたい言葉の微分と 光郎―成程此句は両氏が言われる は何であるかとなると、一般の大 い言葉の綾である。句としては ように、かたい言葉と、やわらか ありましたな。

に生かしたら尚面白いと思います 他の言葉でコントラストを和やか せませんが、この場合女に対して 俗的なものが総てよろしいとは由 今更言うを俟たないが微分を対象 的な表現があるでしょう。強ち通 ものの対象にもっとくだけた川柳 ってよいでしょう。通俗的な固 にしたところがこの句のみそと言 九呂平一女心の表現は多種多様で

は分るが、此の句の場合必ず成功 奇を入れ新味を注ぎ込む苦労の後 くんじゃないかとまず作句の上に に女如きと比較されては微分が泣 畳は新しいのが良いと言う世の中 くてはならぬ存在だ。何やらと 種として取り組む段となれば、他 知る為の計算に適用する。ややこ 変動する価、即ち流体(瓦斯空気 蒸気等の)の速度量熱変動などを に適当な方法が見つかるまではな しいと言っても、仕事の上で飯の 一瓢一微分は私共の業務に於ては

局限されるという言葉はよくわか **栞**─光郎さんの、理解される人は

を出して貼ってある、然し中には

顔の至り。成程調べて見ると白地

るものとは気がつかなかった、汗

しようとする努力を買いたいと思 ります、が新しい言葉を以て表現

理解される人が局限されることに 比喩もあるでしょう。光郎さんの は思いません。他にもっと優れた 白星一面白いだけで特に秀句だと は同感ですが、新しい表現を買い

ます。

★肝臓を強くする

持ち前もすたるし極上の眼玉も死 に鯛の眼玉を画いたりすると鯖の んでしまう、飛躍過重にならない

折角の努力が無になりますからわ 句提出でいい勉強になりました、 こと、突飛に走らないことをこの

を見付けたいものであります。 ある堅くてもよいが解り易い字句 言われて居なかった表現で新味の ことは出来ません。女心を今まで 小生としては無条件に受け入れる 数学の微分を女心に比喩するのは と言われているが、少くとも高等 されては微分が泣くんじゃないか れる、此点やはり御熟考を煩した ら新しい表現で新味を吹き込むと 感銘もないかと思われます、いく かを知らない人には、何の興味も が何れにしても微分積分の何たる するのは当らないかも知れません にもなりません。句とこれと比較 光郎一いくら新しい今迄とは変っ いと思う。一瓢さんは女心と比較 言われても、大変な損をして居ら り、すぐこわれる様なものでは何 た品でも使い道がわからなかった

ー ○五二一 ○五五六 錠錠錠錠 ウロコ印

現等々は学ぶべきですが、鯖の絵 新鮮味を注入する努力、新語の表 ら強硬な抗議が出ますよきっと。 ん一寸きついでする、女流作家か 分が泣くんじゃないかとは一瓢さ 九呂平一女如きと比較されてた微 点いなめないでしょうな。 に見受けられうんざりしますが、

ょうが、どうも親しみ難いと言う 開拓で作者の良識敬服すべきでし 此の句では、今迄誰も気附かなか ような用語法で作られた句もたま お下劣な流行語を竹に木を継いだ 上ます。元に戻りまして、新しい った言葉と取っ組まれた所先ず新 女性よ言い過ぎました点御断り申 

担当 真鍋一瓢

### 浪 の面影 (3年生)

なもので、それも長寿法に

そのまま心臓痳痺で午前八 が十一日朝風呂に入られ、 旅館へ投宿された。ところ そうだが、去る四月二日に 月静養かたがた豊浦村の月 松氏が永眠された。氏は毎 朽洞会維持会員一沒高沢詮 究で消光されていた川柳不 県へ帰り余生を長寿法の研 も月岡温泉に出かけ和泉屋 岡温泉へ出掛けていられた 戦後に布哇から郷里新潟

年間鳳梨の栽培其他に従 時に急逝されたとのこと。 居住されていたが、戦後に 事、オアフ島のワヒアソに 新潟県に生れ壮年時代に布 行年八十三威。法名は明訟 一移民として渡布され数十 氏は明治十年八月四日、

れていた。本社へも時に通 にも、懐中電燈を持参さ 白昼トイレットに行くの 五年前に来阪された時、 晩年は眼を悪くされ、四、 花麗氏などへも一切通信を け親しくつきあっていた魔 言われたそうだが、あれだ 今後は一切通信もしないと を引揚げる時も友人達に、 か、友人達が引止めたが思 帰郷される気になられたの た。どうして布哇を去って なかなかの硬骨漢であっ 氏は堂々たる体軀の持主で っていられたのであった。 げ後顧の憂のない余生を送 郷里新発田市東宮内に引揚 されなかったそうである。 いとまらなかった。ハワイ

柳雑誌」の購読者や路郎門 川雑ハワイ支部が生れ「川 御無用とその申出を拒絶さ うであるが、誌上で御心配 幹も未知の斯うした人から ある。言うまでもなく、主 あったら、云うて欲しい」 された時に、「志は壮であ ても判るであろう。 とは次の一浪句抄を見られ の名吟を残していられるこ けでなく作家としても多く は川柳界のために尽しただ な功績をのこしている。氏 ても、川雑にとっても大き あった。この意味から云っ の人々が続々と出来たので は一ト通りでなく、その後、 となって、高沢一浪氏が れたとのこと、これが奇縁 には、いたく感激されたそ 親切な書信をもらったこと と書信を寄越されたそうで 活に困られるようなことが 食えまい、失礼だが万一生 るが川柳ではとうてい飯は 人を「川柳雑誌」誌上に宣言 ても一浪氏はハワイにとっ に、日本で最初の川柳職業 川柳雑誌」へ熱の入れ方

局給者の計を謹んで悼む。 茲に川郷不朽洞会員の最

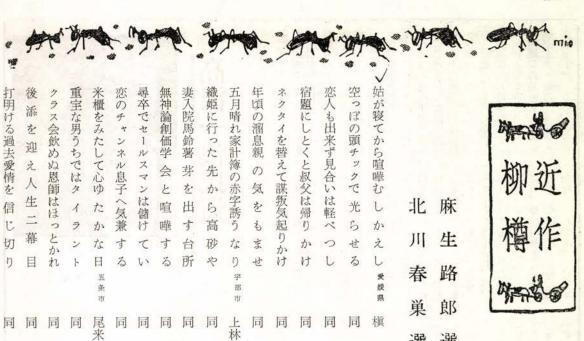
関するものが主であった。 氏は主幹が昭和十一年 壁一重となりも愛の巣とにらむ 年甲斐か白粉臭いのにも飽き 恋すて、第二夫人としてた、ん 夕顔のたねとはっきり亡妻の筆 理に落ちた話は咳を聞くばかり てもさてもあれが人妻とは悲し 告別式義理が一丁程つづき 舞初めへ一番細い妓から立ち 恋人と恋敵とをのんだ海 父の髭子の髭色が違ふだけ 博士号女房の力までかりて サービスと知っても男たる弱み 悪友に手ぬるい恋を笑われた けちんぼのとこが女にすかれたり 光陰は無情ちりめん皺がよる 大晦日サルマタだけは替へませう 名に生きる癖がたゝって落ぶれる 雨風に笑った儘の地蔵さん たまたまに銭あり街を大手ふる なす儘になってもチップだけだった 恋敵先だつものにこと欠かず イニシャルまでも同じと酌ぎこぼし

家貧にあらずけちんぼ生れつき 女ですものと阿呆の膝へくる

> だまさる、男も少し嘘をつき 好きな妓があるかと好きな妓が尋ね 胸をやむ人とは見えぬ大獅子吼 好きな奴であれどあまりなせびりやう どうしても嘘が言えずにあきれられ 腹の子の父は時めく人なれど 休閑地箸より重い鍬を知り 時勢とは言えど持たざる万強し ちっぽけのナイフも夜の力なり JOAK此所は布哇の片田舎 船出して十日餞別締切らす 呼びすてる日は近づけり宵寝する 何の守様とか先祖申したり 行末を誓へくくと責めらる 首をふる女は首をふってよし 眼をぱちりぱちり娘は恋をき、 一代の名士女将の智慧を借り 八殺し高が<br />
> 一弗だけのこと

極楽へなどは行かない肚をきめ 御願いにOKOKが頼りなし 説教の外に非難のない社長 声明書向うの都合など知らず 時の人山・途退学にて光り 下積の俺にもすがるのが一人 墓に彫る功六級で足る文字 あの話博士夫人も人間じゃ

日家職従軍暴第級松の計に接し



たくましい足首四枚コ 追伸が棄書のへりを這 右折雨左折は晴 れて 山 い 1 ま せ を わ 15 締 n 8 ス 京 都 市 同 同 都 倉 求女

忙く時に限って堅パ 養うてやって叱られにゆく ン 運 役 転 所 手 同

肯 森 市 工藤

同 甲吉

同 同

又、死がある。

貧乏があり、

生活難があり、

肉体的には、

病気があ

そして、精神的には、 失望があり、

煩悶があ

落胆があり、

選

週刊誌ばっ

かり読ん

不 を

格

香水の匂う手紙でツ

5 0 音

から

来 合

る

水泡

選

弁当のカラは庶民の

Ì.

7

同

平

田

ぽっくりと死んだ事まで徳にされ

大臣はゥナギのように逃げ

廻

n

グナルの青を待つ間も金のこと

TÍ

石橋万古人

同

内部からの悲哀や、苦悩ばかりで

外部からの天災地変のよう

平があり、梅恨がある。

而して、

同

一夜のうちに、

吾等の財宝を

予備校へ合格したと

い

5

n n

拾い磁石バンドも

壶

K

奉祝記念貯めなさい買いな

同

落す事もある。過去に於て、 奪い去り、不幸の、どん底に衝き

戦争

に依って、我々も、

かつては未

3 便 入

同

曽有の辛酸をなめた。我々の身辺

熊

本

T

林

粗影

近眼が

治

ŋ

停

年

近

<

ts

n

人妻を

人妻と

見

る

昼

0

酒

エンゲル指数わが薄給をたしか。

同 麦彦

に集まる、苦痛、

煩悶の事実を如

同

何に取扱ったらよいか。これ等の

明林

同

今だから話すと手記を金に

す

る

问

春風にノー

ネクタイの背を押され

ゴムでぼくの憂いが消えるなら

絵見

主婦の友より妻の料理が口に合

い

K

野

78

伊原

散歩する足で恩給と

K

来

同 同 同

花見より妓の裾が気

K

かっ

か 2

1)

同 同 同

内的外的共罪の結果だと感じた。

罪の意識が苦痛の一大源泉

層けわしくしているのである。

古今東西、人間苦の大部分は、

是等の苦悩は、

人生の行路を、

靴踏んだ男の 花の下こせこ

背丈へ せ

烈 < ŋ

0

き

動

平

社

員 る

> であり、煩悶、 ぎない。その大部分は、 痛と云うのは、 八間の苦痛の うち、 悔恨、 へ部分は、心の悩み 誠に一少部分に過 失望、 肉体的の苦

が人生問題の重大問題だと謂えよ

、間苦を如何に取扱うかと云う事 、間苦を如何に処すべきか。この

### 人間苦と川

木 柳 摩 天 郎

ļi						
可		くくる	カスミ網はずせば雀寄って	傘	山本	花の下宣伝カーも昼にする西宮市
杉本	貝塚市	切除	雑草のような 闘志で肺		同	ひげ伸びたような芝生で共 稼ぎ
同		脂ぎり	精のつくものはないかと脂		同	本心は誰にも云わず舞扇
同		官が鳴り	ボデービルよせばなのに骨		同	先輩の額で聞かせる裏話
同		まだ通い	親の見栄だけで予備校へまだ通	梨花	藤村	安楽死の波紋は知らず高瀬川大阪市
関戸宗太郎	小松市	しき	税務署へ叱られにゆく頼母			京洛散策一句
同		死ぬ話	お化粧をしながら女 恵 死		同	月賦のテレビ夫の帰り早め さ せ
同		せとき	美容師へ中年の皺ま か せ		同	お恵みも感謝試練もまた感謝
同		に見え	ひとさまの花は理想の色に		同	選挙演説聞いてて足を踏まれて来
末沢	宮市	なり	合掌を知って泣かない人に	美喜	沢田	ぼけて来た親を笑って淋しくも # 『
同		に腕時計	踊る手になけりゃよいのに		同	候補者が道の悪さを 指 摘 する
同		くつき	よい祖父になる気の幟高く		同	グローブを買っやったら硝子割り
同		掃除	地下足袋のみな新しい御所		同	就職の街で麦めし恋しがり
太田	山泉	かくし	義母になる人がやさしい角	一声	横山	お客さんかと思えば道を尋ねられ 岡山県
同		か濁り	処世術ばかりに長けた瞳が		同	前借へ課長もお互い様の顔
同		5 5 5	代書屋の筆もかわいて春う		问	妾宅の櫛でおつむを 刷き 直し
同		比され	初対面すでに金歯に 威 圧		同	夫婦げんか訊けばおろすかおなってか
内藤きさ子	<b>岸</b> 和田市	られ	俳優に似てる名士で 覚え	生薑	今西	責任のない免状も金で買い大阪市
同		つつり	春うらら犬のあくびまでう		问	重恵もヒヨロヒヨロテレビにたどうつる
同		の抵抗	一オクターブ上げて赤ちゃの抵抗			皇太子御結婚
同		には入な	世話になった予備校学歴には入り		同	掃除器を使った方が手間がいり
安平次弘道	美称市		あやかろうとあせり結婚詐欺にな		同	片肺と誰にも見えぬ程肥り
同		を植え	先代の齢まで生きて 菊 を		同	老眼鏡孫の写真へう ばい 合い
同		念を入れ	早よ起きただけは化粧に念を入れ	梢月	護川	外泊のおかげこだまも見てかえり日本市

ら起るものが多い。少しの不健康 罪の結果だとは云えない。 座するもので、これ等善人には、 当事者には、己が罪の結果だろう れども、天災地変の如きは、罪の 法である。しかし、病気の根源は 送り、病気を忘れる事も、精神療 生を楽しく暮し、朗らかに人生を 貢献する事も、川柳に依って、人 と確信する事が長生きに、多大の る。自分は何時までも不老長生だ を過信して、病を重くする事があ からと云う。病気は神経的に気か 催に、 不衛生、 衛生思想の 欠如、 不注意に基因するものである。け か、善人も、等しく、其災禍に連

われ、霊魂は永劫不滅を真理なり は、彼世に於ても、真に賞罰が行 の現世だけでなく、カントの如き して、善人善報、悪人悪報は、こ す」の格言の実行であるのか。そ の試練か、はた又「艱難汝を玉に が、善人が、何故苦しむか。神 報を得るのが、因果応報である が、善人は、善報を、悪人が、悪 と結果、因と果を云うのである 世俗、因果と云う文字は、原因

一の責任を以て、人間苦を救い合 を凌いで烈日の如き、人格の完成 て、共存の本義を体し、社会連帯 に力を尽すと共に、社会人とし て、善美の品性を磨く、即ち風雪 勝つ勇気、禍福転換、邪悪を捨て を求め、光明を求め、 問題を、個人的には、人生に活路 ここに於て、我々は、人間苦の 艱難に打ち

	4	and a	*		* (	ng.	7	1	1	1		***	4	M		<b>/</b>	N.	de	1	1		7	to	An	Tieo
共稼ぎする条件で好きな人、版市	スネかじりかじり尽して家出する	笑う日を信じて育て る 子 沢 山	ポスターで招いた旅館雑魚寝させ西宮市	どちらが鳴くのな風の恋に腹が立ち	仕事らしい仕事もせずにサロンデス	新妻を飾って故郷の客となり滋賀県	老嬢へ結婚プームソッポ 向き	甲に似た穴でよろめくのも 四十	反抗期のように逆ら う社会党 大阪府	拾てるのを待ってたように嫁にい	お揃いで園児兜をき て か え り	日傭におちても自由党を支持 ※田市	春の風邪見舞がてら に 飲 む 話	一杯を楽しみながら 小言 い い	雨の音寝る気になって朝をぬき 西宮市	白鳥も壕でめでたい日と思い	転勤をしんから惜し む 牌 仲 間	こちらから電話かけますパーマ中 大阪市	ロータリー日以外時刻はだらして	大広間顎で読んでる畳数	孝行のテレビで拝む御成婚田辺市	マッチまで揃えて夫 旅 に 出 し	啞の娘が姉妹中の美人なり	銀行に勤めて金銭恐怖症鳥取馬	席ゆずる若さまだま だ失わず
米浪進之助	同	同	富永 夢路	同	同	土守 蜻蛉	同	同	谷沢 好祐	同	同	筆坂 町人	同	同	藤田一本歯	同	同	藤冨 淀月	同	同	室井八九寸	同	同	鈴木村諷子	同
ここいらで折れよう計算ずくの恋 乗乗界	しみじみと死刑廃止を思う 帰 途	映画「私は死にたくない」	親馬鹿の今日は切手の列に いる	角帽を被れば角帽多いこと単和田市	武力なき虫には虫の色をもち	つつしみて記念樹の苗選ぶなり	蛸壺の手入れへ春の陽があ た り 西宮市	✔打ち明けるチャス歩巾を先ず合せ	苦しくて飲んでる酒と見てくれず	交際のうちに家風も教えられ 領崎市	八等身知性のない足を組み	大学の秀才骨と皮でいる	春風はスカートをめくるいに吹きぬ日市	オーバーぬぐ春が気になる肥りま	ネクタイを替えて鏡を拭き 直 し	ゆく当てもなき日曜に洗濯し西宮市	金のない人気落選し てわかり	吉日の母に落ちつく場所が ない	贈賄が済んだ襖を開けに立ち 笠岡市	客間から選挙違反の灯がも れる	あやかると云う結婚が淋し 過ぎ	面会に行って慰められてくる事事	妻入院 一句	ふる里を云えば八木節かと云われ	三面鏡ボーイフレンドほしくなり
竹田きえ	同		同	田端くにを	问	同	今井 浪六	同	同	高橋 蟠蛇	同	同	舟木与根一	同	同	樋口 寿栄	同	同	高木 桃里	同	同	平田 実男		同	同

出ると、反省がある。この悪汁が うに、どんな人間でも、しぼり出 力むべきでなかろうか。 う。人間苦の意義、使命の達成に せば、必らず悪汁が出る。悪汁が 路郎先生の、我々に与えられるよ 文学だと考えたくない。川柳は、 川柳だと説かれ、川柳は、人間陶 川柳をする者も、単なる遊びの

冶の詩だと教えられている。 はなかろうか。 依る川柳が続々生れるべきもので るまいか。これからは、人間愛に 社会生活を築く事が、川柳道に志 歩を、よりよき人生に送る。而し 家は、個人的には、今日より明日 術として川柳を説かれた。川柳作 会席上、朝日会館から人間苦の芸 き甲斐のある人生を、潤いのある る事によって、社会を明るく、生 他の人の悲しみを、頭つ、川柳す 存に則し、自分の嬉びを、他に、 すものの心掛けるべきところであ て、社会的には、人と人の関係、 へと人との間の、人間相互間の共 へ、明日より明後日へと、向進の かつて、本誌百号記念川柳大

### 痴人の柳 信 五

木

Ш

遠

底出来っこありません。長年に亘 は投げて居りますので批評など到 ですけれど、私はもう疾うに短歌 ました。兄の短歌五首、早速拝見 しました。批評をよこせとの仰せ ばえ」御恵送に預り有難う御座い 雅兄よ、貴工場の機関誌「ひこ

	4	· Maria	*			ng		M.	1	1		***	4			<b>/</b>	BL.	dy	1	N.		7	T	A	17160
水遊び川原に春の幕があけ大阪市	大和川堤防漫歩 二句	リベートも取り恩給も取り 名 士	故郷の思い出にはる か 大 砂 丘	もうろくをして清くない票を持ち馬取馬	老人選挙権疑問 一句	ガラス植えた塀も売家の札が立ち	金取ったその上一生 怨 む そ な	虫の喰うた日の丸ハタキに化せる高知市	長男の進学親も闘志湧き	先見の明を他人は運にする	永久に陽かげ隣りヘビルが建 ち 竹原市	アフターサービス送ってくれてまたナッス	業界の名士で趣味の割烹着	握りしめて恋の反応打診する大阪市	書記長になる担任が惜しまれる	負けて来てパチンコの害投書する	まかれたを知らずおろおろと探し京都市	その上に妻も風邪ひ く十二月	子を呑んだ池から鯉を釣ってくる	手拍子の炭坑節に座がなごみ 笠岡市	扇雀の噂して呉服置いてゆき	雨漏りを直すとて瓦路破り	故郷で見れば野菊にある詩情豊中市	お見舞いの花束春を抱いて 来る	弟に似た子へはっとママポ リス
半田		同	同	一生		同	同	須藤	同	同	杉原	同	同	堀	同	同	当野	同	同	出原	同	同	林	同	同
夏生				無名				俊江			愛鳩			風船堂			哲悟			真奇			参無子		
日曜を待てず見にゆく七分 咲き	幸福はそのものズバリ花の下玉野市	銭湯にスケッチした い 肋骨美	子を置いて女の自由は再婚し メ版市	老いて子に従わぬ母に 鍋光り	治にいて乱を忘れずと髭を剃り大阪市	たけのこをさげてテレビへ招かれる	指鳴らすしぐさ若さをもてあまし **カ市	額の父もう私より若くなり	補聴器と思えばジャズ聞くポーラル大阪市	大阪の色とは遠い灯 をあるき	恋へ書く暇もあたえぬほどにやき東京都	追はぎのように綿羊刈って ゆき	篤農は牛の背にまで艶があり 要級県	三月の桜へ観光課があわて	出馬する肚を女房だけ知らず兵庫県	じいちゃんはないお菓子を大事がり	訓告戒告先生鉢巻しめなおし兵庫県	いつの日か夢みてしゃとの土産買う	長いものに巻きっなしで出世せず大阪の	子を連れた旅弁当をすぐにあけ	アンテナが並んで課長と云う社宅	悪筆もよしなつかしい 年賀状 ヘッセ	モダンアートあの煙突が人を焼き	爪破霊園	大の字のぞスミレ・タンポポ・ックシンギ
同	小谷 仙山	同	本村摂氏梵	同	北七星	同	宮川 珠笑	同	松谷 政俊	同	板東千代美	同	河本南牛史	同	遠山一雨	同	斉藤たけお	同	西本 保夫	同	同	越智一水	同		同

きまわしゃらと少々不審に思って を始められるとはどうした風の吹 を始められるとはどうした風の吹 をかめられるとはどうした風の吹

それに「ひこばえ」では今月か りませんか。いずれこれは兄の発 りませんか。いずれこれは兄の発 とに結構です。工場の従業員の殆 とだが女子だから投句もまた女子 んどが女子だから投句もまた女子 の多いことはあたりまえの事です の多いことはあたりまえの事です が、婦人をもっと川柳へ近づけた いものと常に念願して居る私にと っては、実に嬉しい事なのです。 私の方では今のところ女の柳人は 一名も居りません。短歌を始める 一名も居りません。何人はなか無いのです。

る」 「君、川柳と云う奴は面白いもんだね、歌や俳句ではとても真似出たね、歌や俳句ではとても真似出たれ、歌や俳句ではとても真似出たね、歌や俳句ではとても真似出

川柳と狂句と別にして呉れず こうした事も確に邪魔をしているに違いないのですが、大体に女 と云うものは妙に三十一文字を有 難がる癖がありますね、それはそ れでまあいいとして、川柳をすす めると妙に逃げ腰になるのは、あ めると妙に逃げ腰になるのは、あ ながち五臓六腑調に辟易と云うよ りも、もともと川柳を軽視してい るんではないでしょうか、裏返し て云うならば、三十一字を並べさ こすればそれが駄作であろうとも 結構、不朽の名句でも川柳では駄

月掛でたまに出た日が雨と

心地飛んでしもうた妻の

酔うた口口に資本家のの

ススト朝寝の遅刻もほっ

財布見せてことわる

型

to

社のハイク義理の足で楽し

植樹祭済ませた手でつつじ

花嫁の

薄 化

粧 眼

L

春 け VI

0

宵

同

夜盗虫老婆は 弁当を食べたら用 お花見がついでに出

鏡 よ

か

直 花

L

22

岡

市

佐内

隆文

病床に猫気がねなくもぐり

込 稼

7

天理市

坂下

乙美

同

お人形も京都生れで

۴

N

同

縁談がきまって見合のへまも云え

0

な

見

同

丹前で

桜

を 2

る

\$

療

結局は社長の音痴で座が白

寄附たのむ都合で法螺も聞いてより 父逝ってラジオの時化も気にない 茶菓子まで出してテレビを見せる 来る墓地もち とかれ 5 折 め な 6 あ E 蹇 ず n n ス 所 け n 恭 兵 西 加 西 愛媛県 和歌山県 良 庫 B 官 贺 市 市 果 市 市 内海 藤本ゆ 大垣 同 同 青山 木下 同 小西 石川 同 同 素百 たもつ 敬太 た 町子 寿 休 美 4 かっ 外孫が来れば内孫た 親切な 石段の高さ参 ス ゴ 見学の名で幹部連温 盗まれる水瓜今年も 御成婚祝いへ二級酒の あらとうと妃殿下として御 ふところへ頓着もなく売出 おしるこで惚気を聞 つっぱりをこうて長屋が値上げきれ イブ リッパを鞄 ルフ着の友 ルに迷い生きるのに 面 会 へ出 宗 詣 か 5 あ 勤 の目をそむけ かす 苗 か 泉 き 出 進 盃 6 す 0 K を め 女 を も迷い 旅 7 3 る 連 浸 植 举 退 8 れ 来 え 気 る 烏 出 れ n げ 布 芦 食 F 西 河内長野市 大 阪市 敷市 丹市 宮市 施 屈 市 īţī 坂東 同 大石 同 里 同 小畑 同 同 小川 同 小倉美音子 田 本黒天子 静観堂 ン十 若芽 甘美

就職を頼めば結婚す 子のいない気安さ離 皇太子にあやかる方が先に アドバルン空の高さに背のびする 信念をだれに憚かる 母親が一人になって さそわれて支払い全部まかされ 返盃のかすかな紅に目をほ 南米へ移民するのが 球見に降りる駅から勤め 婚さっ 見 倉 す 胸 直 か \$ 8 さとし そ 挙 吞 12 3 6 張 出 8 n る 7 る げ n Ш 竹 西 大 宇 原 宫 阪 部 形 775 Th 県 717 市 山岡 赤沢 神田 菊地 同 同 同 同 Ш 内 半步 豊年 白葩 俊見 好信 落書へ 誕生日まとめ 無料バス課長へゆずる席を 立 六十を過ぎても実家のことを云い 好きだとは云えず人間ほめそやし 上役に鈴をつ 花見時天の鞭 の抜け 来のよい方は偽物で値が つ手にも年期 な た音で別れのドラが鳴り 2 け か ٤ 7 所 祝 12 な 0 5 1 番 V 程 子 地 から ば 見 安 沢 日 か ま え 酔 n 0 も L Ш 下 岡 出 若 宮崎市 Щ 雲市 W 松 THE 市 県 楢原 三上 野 同 同 同 同 Ш 藤 口 田 本 1卯之助 万女 朱紅 春雄 1 峰

> よ、歌をたしなまれる御婦人方よ、 目と云うことになりますかね。 短歌だってあなた方ぐらいは作り 程お上品ではないです。 川柳人と云うものはね、 起こしたのです。モシ、 こで私はとても意地の悪 だがね、 あなた方 御婦人方

ね す。続ける気もなかったのです リッコの方へ入選したと云う訳で か不幸かその中の一つが、一番ビ 理にひねり出して、そいつを雑誌 口も利くようになりました。 上位の方へも載るようになり 図に乗っている中、 へ出して見たんです。 短歌は川柳よりもずっと易 こうした次第から二、三首を無 もう一度もう一度とだんだん とてもらくだよ」等と憎まれ 考えてひがみひがんで考える 図に乗った鼻何ぼでも伸びる 時偶には可成 ところが幸 4

こうして二年程も続けた或日の 自

こりゃいいところで出くわしたも 万秋両歌入と同席したのです。 宴に招かれ、兄も御存知の牛鞍、 っていたんですね。 示しました。酒の勢が大いに手伝 信の近詠一首をしたためて二人に んだと早速手帖の端を引裂き、 こと、私は友人の息子の結婚披露 先生、どうか忌憚の ない

をお願いしますよ 氏も同じようにニコニコして居る ニコと万秋氏に渡しました。万秋 先ず牛鞍氏はそれを読んでニコ

うんと酷評を頂きたいもんです

早過ぎた桜へ詫びて

見

7

貰

一郎

県

河原みのる

花片をグラスに浮かし

語

ŋ

合

V

西

ロテー

プ茲は押ピン出

来ぬ部

屋 妻

大阪

手も足も使わな家の戸

は

開

か

す

大

阪

宮原

微笑より外所作のない初夜

0

笠 岡 七 西 大 学 E

岡

山川柳大会

がまれたプランが出来て花

は

散

堺 下

武田

軍

治郎

貧乏に育って

社

会

党

から 3

好

き

14

県

割当が気になる酒で酔

n 2

ず

尾

初めての給料 平民で倖せな

へ同窓ピクニ

2

B TT

市

青空に煙草が美味い

地

下 E' 老

労 見 夫 ま

働

関市

宮藤 秋田

いぬ日を嫁も寝てテ

る 婦

奈良県

石一つ投げて 嫁姑コッ

13

L

V

兵庫 倉吉

県

プの水をゆ

す

る

Vi

奥谷

弘朗

理屈では勝てず時代のずれ

を知

部 B

に 用

L

市

恋

E\*

1

iv

飲

7 b

阪

の前 ル茶席

済

み

岡市

0)

膝

かしひれて

来

施市

わもめ

ハワ

宮政

周防

をどやしつけたかったものです。 していやと云うほどわれとわが頭 りつけてやりたかったのです。 か此野郎」私は自分で自分へ怒鳴 うのこうのと、恥ずかしくな 禄々わかりもしないくせに歌がど

そ

小松

لح

世 to

Va 予

借 約

書

4 枚 布

治

T

式服をぬいで遠慮の

ts

V

笑

Va 6

西 兵

鵩

保西

岳詩

公約を果せもせずに

又

\$

立

ち

姓

岡 B

時を

遊ぶ人へもサンドマンへも 悩みなど忘れて子等 花見酒下戸の分まで酔うて 骨の太い方でしたと 東風吹けば匂う工場の近う 健闘を祈ると予備校ビラを 花散って手術の覚悟 子等の夢聞いてる母にも夢があ 不断着の生地のまんまを見てもい 賛成も署名となると モーニング着ても下っ端かけ廻り 女房に逃ぎまだ男に病気見舞 かん違いされて借金いい出 チケット パ聞記でけっこう旅費を稼 の俄か仕込は生地が見 0 < 夜 尻 ま 中 0 隠 春 7 母 0 た いで居 われる 春の 乱 休 来 7. 置 < 世 褒 な ず 7 B 薬 ŋ れ 風 え 3 九 L 大 西 児 大 伊丹市 岡 区 大阪市 羽曳野市 笠岡市 羽曳野市 島市 阪 阪 Щ 8 8 市 県 市 伊丹 西沢 古田 鵜飼 同 同 同 松元 石原 同 同 永松あやめ Ш 長谷川兎風 谷本鈍愚坊 Jil 田 7柳瓢子 スミ子 利男 球太 日南 敗戦の 借金の 入籍も 悪筆は 山 負けぬ気の強さを人が女傑 御成婚テレ 喜こびも悲しみも女のしちくどさ 山峡のあんなところに生活 かきまわす二号家ではうち ンポ 小屋 スタイ 唄 問 E 題

夕焼へやんちゃ坊主も母を 花の雨不精不精に茶 花嫁を見ると 本妻の重荷が下りた二 おふくろのように主任は 万円札名前を書 断りも の黴びた握りで死線 せぬ間に妻と から 流 7 2 妻 九 T いて見たくなり 死 る 漬 0 小言 号 屋 け 小 12 V 越 别 恋 0 形 5 \* 0 0 云 え n 死 灯 船 L 人 日 V い 大阪 西 貝 鳥 西 貝 莱 大 大 大 Л 人阪市 阪 臨市 木市 代 取 塚 阪 宮市 塚市 県 市 市 市 村上 片岡 永松 坂口 高木 種谷 中 小阪 萬代句念坊 大江 西 1兼治郎 美栄子 繁太郎 道維 球絵

> 私はそいつを破りすてると一緒 紙片をこっちへ返して来ました。

に、其場限りで短歌は捨ててしま

ったのです。

「なんだ、川柳がまだ

丹波 鎮浪 井上 越智 小林 千原 筒井 大内 高木 松高 杉本たつよ 豊島砂牡天 神 佐和子 きみ 渋柿 好坊 翠月 旭峯 義夫 馴染まれる句を作るよう努める覚 人でも多く育てていただきたい事 立派なものに成長させて頂 唯私として是非お願いしたい また同日の論ではない筈ですか でいる私とでは、 通りですが、あらゆる才に恵まれ 悟ですから、何卒相変らず御指導 た兄と、何事にもどじばかり踏ん になったらどうでしょうか。 は矢張り牛鞍、 御鞭撻を御願いします。 私も心して婦人に嫌われぬ句ー 私が短歌を嚙った顕末は以上の それから兄の短歌の批評 真から川柳を愛する婦人を 折角御精進をお祈りします。 本心に帰り自分が嫌になり 「ひこばえ」川柳欄をどうか 短歌についても < 0

いやどうも失礼しました。 万秋両氏にお任せ 方 な

りですね、歌はほっといて川柳一

言わせてもらうとして一

かと僕は思うんですが…… 本で進まれた方がいいんじゃない

失礼だが僕も同感です

万秋氏も簡単にそれだけ云って

赤ちゃんは裸にされて悦に

入

ŋ

堺

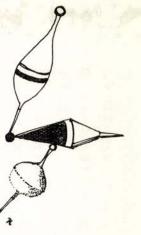
71

吉本

菁風

言わせてもらうとして――やっぱ「そうですね、ではまあ無遠慮に

三要素の再檢討など



橘 儿 高 111 董 清 風 子

り頂きましてありがとうございます。今日 らいましょう。 ます。話のきっかけを見さんから出しても さんの御意見をお伺いしたいと思って居り お考えになっておられるかそれについて皆 白柳一皆さんお忙しいところ雨の中をお集 の話題は川柳の本質についてどういう風に

ものですね。川柳の本質は何かと言うこと 見一たいへんむつかしいテーマを出された と言うことになってくるのではないでしょ か単に大衆の智的な遊戲にすぎないものか は結局川柳が詩か散文か或いは芸術である

どんたく一詩を広く解釈すれば川柳も詩で

うか。川柳の特徴は庶民性と言う事で私は 清生―モダニズムの詩人達の間に展開され そこに一番魅力を感じます。 あると思います。庶民の詩と言う事でしょ た新散文詩運動に見るように私は詩と散文

> でなく概念や形式が根本的に違っています 代詩と日本古来の伝統詩は史的条件ばかり するとして薫風子さん。 る訳ですが、詩論はあとでゆっくりお伺い るか散文であるかに帰着すると言われてい 白柳―晃さんは川柳の本質は川柳が詩であ 深みの方が適していると考えています。 述)より抒情(主観的述像)、広がりより だ十七音字という形式上、叙事(客観的叙 ば川柳も文学的価値を持つと考えます。た 文学を言葉による体験の再創造とするなら に詩性を認めるのではないのですが。また るものと考えています。勿論川柳のすべて が、川柳も立派に詩としての鑑賞に堪え得 を直ちに対立したものとは考えません。 現

発生した時代や過程にまで遡って考えて見 題は作家個々の見解で異るものでしょう。 **薫風子**—川柳は詩であるかないかと言う問 柳の本質に触れようとするには、 川柳の

> る必要があると思います。談林風の俳諧が 知の事と思います。 柳に進展していった性質上、 俳諧の発句が俳句になり、俳諧の附句が川 素が多分にふくまれているのでしょう。又 て隆盛を極めた川柳は、当然批判諷刺の専 承している訳だと言う事は皆さん既に御承 階級的には抑圧されていた町人の文学とし った時代の趨勢から、経済的に勢力を有し ユーモア・穿ちなど変化のある面白味を継 くり中世和歌の伝統を破壊すべき方向にあ 川柳が附句の

であると思います。 象面をそのままにうつし出してその背後に 文字に表現する、或いは世相や人情等の現 あるもの(永遠に実在するあるもの)を暗 で、この社会や人生の種々の現象の背後に るものにとっては芸術の本質と一致するの **晃**―それは過去の川柳に対する見解であっ 示することが芸術の本質であり川柳の本質 ある何か深遠な意味をとらえてそれを十七 と川柳の本質とは、川柳を芸術なりと信ず て一寸川柳の本質と言うことから話がそれ ている様に思われます。結論的に言います

それですね。目前のなまの事実をつき放さ す。路郎先生の作品の高さは、偶然経験し 現し得る真実が真の作品のレアリティで ないと背後の深遠なあるものに触れること **蒸風子**―虚にいて実をおこなうべし。実に 句三昧に浸っている作家の静かな姿に、私 は出来ないのでしょう。虚構の上でこそ表 は胴慾なあくなき掠奪者と同じ迫力を感じ いて虚にあそぶべからず。と言った芭蕉の た言葉の奥深さです。句会場で瞑目して作 いるのではなく、強い意志の力で探究され た目前の事実の断片だけを言葉に移されて

品質優良 カワ画鋲

るのです。 A REAL PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PARTY OF THE PARTY

大阪市東区常轄町一丁目十一番地 立川ペン先株式会社

態知することが文芸の目的だと言うので 黒の世界がある。デモンとゴッドの世界を 芭蕉のいう不易ですね。自分の内部にも暗 ジイ(事物の把握)三、ロゴボェジイと ロポエジイ(句調、語感)二、フェノポエ 清生―俳句界のある人は句の段階を一、メ 自然の中に自然を変化させるものがある。 ます。つまり風景は自然そのものでなく、 ロゴスへの到達を究極の目的としてい

どんたく一清生さんの言われた風景を変化 た場合に川柳となるのではないでしょう であると言う事だと思います。その自己が させるあるものと言うのは風景十自己と言 か。川柳眼を通すと言う事は一、二、 川柳家であって、川柳眼を通してうつし う事で自己と言う鏡に<br />
うつした<br />
風景が自然

の段階それぞれを通じて言える事だと思い

なものですか。 清生ーその場合の川柳眼と言うものはどん

見るものと思います。 観性が濃厚であって、 どんたく一川柳は俳句その他にくらべて客 自己をさえ客観的に

が表われていなければならない筈です。 弱いと思います。だから川柳は主観性の強 ばならないでしょう。作者不在の句は力が 情でなく批判詩なのだからより強度に主観 いものです。川柳は俳句と違って単なる抒 場と言うものがはっきり示されていなけれ ましたが、短詩型文学においては作家の立 一客観性が強いのではないかと言われ

に約十年の歳月を要したと言うのですから 詩人の萩原朔太郎も川詩の原埋川を書くの はとても短時間で言い尽せないでしょう。 まれずに一歩退いて自分の眼で観察すると どんたく一純粋の客観と言うのはあり得な と通じる事になるのではないでしょうか。 言う意味で結局は清生さんの言われる主観 いので私の言う客観とは現象の中に巻き込 ―川柳の本質を条理立てて説明すること

清生ーその十年もかけた『詩の原理』が ですからね。 **"詩と詩論"によって痛烈に批判されたの** 

て一つ御意見を出して頂き度いと思いま ついて再検討したいのですが、それについ 上げたことがありますが、川柳の三要素に ーそれでは以前私が句会の席上でも申

一現代の川柳は三要素にとどまらず古

と思います。 会性に根ざす抒情をその上に加えたいもの の鑑賞に堪え得るものでなければいけな 川柳の精神に近代的な感覚を取入れ現 い。三要素も勿論大切だけれども、私は社

どんたく一清生さんの御意見に同感です 共に移るべきだと思います。 柳の要素であると思います。併し、 徴が三要素である以上、三要素は重要な川 川柳発生のそもそもが庶民の詩で、その特 が。薫風子さんのお話にもありました様に に陥るおそれがあり三要素の性質は時代と 的三要素にこだわっていてはマンネリズム 古川柳

常々心掛けているのですが。 うのが先ず無くてはならない。そう思って 作っているのだから、そこには川柳味とい 持っておりません。ただわれわれは川柳を です。三要素と言うことを、私は平常頭に 意識なさいますか。気ままに作句される筈 すのは軽みの型でなければならないなどと の題詠では穿ちでゆこう、この発想を生か 薫風子一皆さん句をお作りになる場合、こ

ら始めましょうか。私はうがちと風刺は同 白柳ーそれでは三要素の一つ「うがち」か じようなものと思っているのですが。

句は風刺の方向にうがっているのです 薫風子一従うてゆかねば犬の首しまり

りあわず バーテンダー コップを拭いてと

唯穿ちは直截的に心に訴えてくるから風刺 の表現の手段方法で風刺は句の性格です。 ちは別のもののように思います。穿ちは何 で

風刺の

句では
ないでしょう。

風刺と

うが の句はバーの雰囲気を軽くうがっているの

態人情の機欲を衝くこと或いは世相を抉る 体の関係にあるのでしょう。 句には最も効果的な型である訳で、 一私はこう考えています。うがちとは世

表裏

と風刺とは本質的には別なものだと思いま でしょうか。世態人情の機徹を衝くために ことであって現代的な表現をすれば、リア 々にして風刺の形態をとるので、うがち ズムの深化と言うことになるのではない

IJ

発見することであると思います。 こだわらない思いもかけない所に真実性を どんたく一私はうがちは必ずしも批判性に 相に触れる事だと解したいのです。 心ではなく鋭い批判精神によって事物の真 清生―私はうがちと言うことは単なる反抗

ば深くなりましょう。豆秋氏の句 しょうね。ユーモァの句にもうがちがあれ 適切にうがった句の、効果と言うか生命で 薫風子ーハタと膝を打たしめるというのが

は三要素をそれぞれ充分に持っ 降りる客いとのんのんと続くなり

います。 ている正に名句中の名句だと思

れの解釈がなされているようで に一票を投じます。 一うがちも人によってそれぞ

うのです。 見抜く眼から本当の批判詩が生 まれていなければならないと思 でなしに敷いと言うものがふく れるので、批判とは中傷や毒舌 清生一高い見地に立って時世を

> 作家の作句態度の問題だと思います。うが 性風刺性真実性があるのだと思います。 ることだと思います。掘下げる熊度に批判 ちはあくまでも人間や事物の本質を掘下げ いうもの自体がうがちではなくて、それは 一批判性とか風刺性或いは真実性、

と思っています。 と融合して見事な結実を示しているので、 の詩は優れた抒情的資質が鋭い現実の把握 清生―ただ従来うがちの句には詩性が乏し いと言われて来ましたが、例えば中野重治 機に穿ちには詩情がないと即断出来ない

きましょうか。 白柳―そろそろ次の可笑味の句 へ進んで頂

宗教などの段階で 肉、真実(人情味)かるみ(枯淡)川柳即 の五段階があります。くすぐり、理屈、 で笑う、腹で笑う、胸で笑う、全身で笑う 薫風子一おかしみの句には、脇で笑う、

雷の落ちる拍子に後家もおち



白粉の下は光陰矢のごとし

り幸福にと言う温さにまで高めたいと思う のです。これは戸田古方氏からうかがった 歓に至る差があります。笑いにも人生をよ のくすぐりから最近の人生の泣き笑いの哀 ブリンの主演する映画にも「黄金狂時代」 んですが、感銘深く拝聴したのでよく覚え ことで、そのままの受け売りで大変恐縮な の句までその句境は異っています。チャッ 待ち合せ帽子の型を折り直し 夏の海もとの広さになって暮れ 仕舞風呂一本足がとんでくる

う感じない人もあります。 ます。ユーモアと思っている人もあるしそ と思っています。句のユーモアと言うもの は鑑賞する人によって違ってくると思われ ものにユーモアを感じさせるのではないか る矛盾や逆説(パラドックス)が鑑賞する 意識して作るのではなくて、作品の中にあ だと思います。可笑味というものは作者が 見一低調なくすぐりや万才的な笑いは論外

非常に魅力を感じるのです。川柳のおかし みと万才の笑いとは距離がなければならな かな川柳的ユーモアのただよっている句に ぐっと笑わせる風な句は少ないのですが、 つける句よりも、見落されそうな中にほの 鑑賞する立場ででも、直接おかしみをぶっ **薫風子**―私自身にはユーモアの句、それも

合、作者自身がそのテーマに対して矛盾と せんが、ユーモアの何を作者がつくる場 どんたく一意識して笑わせるのではありま か逆説とかのおかしみを感じている訳で、

> それが読む人におかしみの共感を呼び起す うのですよ。 の中にもほのかなあたたかさが欲しいと思 のだと思います。私自身としてはユーモア

まらず涙のある可笑味には胸を打たれます 清生―可笑味というものは真実の中から生 れるものだと思います。単なる滑稽にとど

実のきびしさを暗示していると言うわけで 非情の眼で見ている訳です。封建的な義理 どんたくさんのウエットはうなずかれるが 見―御二人とも案外ウエットなんですね。 清生―いや庶民生活に於ける現実を作者は 清生さんの場合は一寸意外でした。 人情、社会機構の矛盾からくる可笑味は現

ければ駄目だということです。 みと同じ深さから発想されたおかしみでな でなければ駄目だと思います。つまり悲し なっていますので。単なる笑いではなく暗 ろ他の文学の分野から軽視される原因とも るユーモアは皮相的な笑いが多くて、むし ると考えます。然し現在の川柳が持ってい の要素であるおかしみは非常な重要性があ る様です。こういう際だから逆に川柳独特 い現実をくぐり抜けた深みのあるユーモア 余りにも懐疑的であり、悲観的でありすぎ **晃**―私は文学全体にもっと強い明るさを持 つべきだと思います。現代の文学は一般に

薫風子―笑いにも余裕が欲しいね。 するわけで悲しいことです。 まうのではないでしょうか。 のはどうかな。からからの笑いになってし 薫風子―川柳の可笑味をそんなに深刻ぶる ―時代が乾燥してるのだから笑いも乾燥

> ホッとするような笑いのオアシスが欲しい どんたく一沙漠のような時代であればこそ 見一僕もそうありたいと思うよ。 と思いますね。

> > 短

册

用品

可笑味でなしに、あとからぐっとくる可笑 どんたく一甘ったるい笑いでなしにね。 薫風子―川柳で、笑いをさえ文学にまで高 めて欲しいと言うのですよ。 薫風子一私の言う余裕とは読んですぐくる

見一ゆとりのある笑い?

近いかな。 薫風子―豆秋氏の味と言ったら一番それに

を南せきにもまる

感じがしますが。 白柳一笑いと言う事と可笑味とは一寸違う

外に色々あると思います。 感じを受ける句がよくあります。 事もありうる訳で、豆秋氏の句にはそんな 人によっては厳粛な気持で鑑賞すると言う 見一可笑味から笑いが誘い出されるのです 為ですね。可笑味から出るものには笑いの が、厳密に言うと、可笑味の句であっても 気がします。可笑味は感情ですし笑いは行 清生―私も白柳さんの仰言るのと同じ様な

薫風子一軽みという言葉自体が現代では、

句について。

白柳一おかしみの句はこれ位にして軽みの

薫風子―そう言われると困るが、白柳さん がまだよく判らないんですよ。 と思われますか。私はかるみの句と言うの 見一そうしたらどう言う言葉が一番適切だ どんたく一誤解を招き易い言葉ですね。 不適当ですね。

の言われる枯淡だけでも勿論片附けられな

味、抵抗のある笑いなんですよ。 大阪ないしろり 色 丹青堂

どんたく一お茶漬の味だけでも片附けられ

ると思います。 ている句と言うようなのが軽みのうちに入 白柳一うがちを押し出さずにそれを内蔵し ね。重量と言えば又少し語弊があるが。 薫風子―なまじっか穿ちの効いたのより奥 行があります。本当の重量のある句です

然あると思います。だから枯淡とは言い切 と思いますね。 れない。若さをなくした文学は価値がない 清生―みずみずしい情熱の中にも軽味は当

どんたく一さりげない表現で読めば読む程 しょうか。 その味が心にしみとおってくるような句で

ともかくとして物語の意表性が強く押し出 はじめ文学賞作品を読むと、思想的背景は 清生―軽味とは型式の上だけでなしに内容 にも言える事だと思います。戦後の芥川賞 薫風子一さりげなく深くの味ですか。

す。これも軽味だと思っています。
トーリー・テーラーになっています。いぶし銀に似た文章の良さはやはり老大家のもし銀に似た文章の良さはやはり老大家のもいぶし銀のような淡々とした味は冷静な円熟した心境から生れるもので味は冷静な円熟した心境から生れるものでは、若い作家達は一様に達者なスされていて、若い作家達は一様に達者なス

晃―かるみの説明を誰かが、平淡、軽快、 をしていた様ですが、私は現代の川柳の要をしていた様ですが、私は現代の川柳の要をしてのかるみをこういう風に解釈しています。かるみとは句に余韻余情を持たせる事ではないかと思うのです。軽く詠み流した句の奥に複雑な情緒を漂わせている。した句の奥に複雑な情緒を漂わせている。した句の奥に複雑な情緒を漂わせている。した句の奥に複雑な情緒を漂わせている。した句の奥に複雑な情緒を漂わせている。います。

路郎先生の

元旦だせめて眼鏡を拭きましょう

しています。

二階を降りてどこへ行く身ぞ

**薫風子**―かるみの句はむしろ象徴には遠い すぐれた人には、ますますその奥深い良さ すぐれた人には、ますますその奥深い良さ が判るものだから。

動作は至って控え目で、しかも強い感動を 動作は至って控え目で、しかも強い感動を 大学のも笑うのも、喜ぶのも悲しむのも、 とか余情とか云って来たものなんですよ。 とか余情とか云って来たものなんですよ。 とか余情とか云って来たものなんですよ。 とか余情とか云って来たものなんですよ。 とか余情とか云って来たものなんですよ。

思めるけれども、余韻余情が即かるみとは清生一軽みの句にも余韻と余情があるのは

展―御意見御尤です。併し私が云うのは、 を表が現代川柳の要素として存在するため 軽みが現代川柳の要素として存在するため には私が今言ったような日本的象徴を志向 には私が今言ったような日本的象徴を志向 であって欲しいと思うわけです。 するものであり川柳の特性であると思いま す。さっと書き流した墨絵の味が日本人独 自のものであるように。その意味で川柳の 良さは余韻余情の深さにあると云えましょ しな。

とんたく―そうです、そうです。 自柳―三要素について話を進めていただきたく 以外に現代の川柳が持っていなければなら 以外に現代の川柳が持っていなければなら ない要素について話を進めていただきたく ない要素について話を進めていただきたく

見―三要素も独立して個々にあるのではなくて、それぞれ入り交って一句を構成してくて、それにすべてが含まれる様に思わすると、それにすべてが含まれる様に思われるのですが、色々の柳書に従って附け加れるのですが、色々の柳書に従って附け加えるならば、感覚味の句と云う事になるようです。

す。 感覚味の句は魂で感じとる句だと思いま 清生―三要素の句が考える句だとすると、

どんたくさんはどうお考えになり

うか潜在意識と云うか、そういったものを しろ第六感或いは人間の原始的な感情と云 見一この場合の感覚とは五官というよりむ

指す場合が多いのでありませんか。つまりでした。

清生―感覚味の句の中に象徴を志向する句 見―そうです。しかし、私が云うのは現代 徴とは直接関係はないと思いますが。 徴とは直接関係はないと思いますが。 ではないかと思う訳です。

思われます。
思われます。

晃 – 勿論、私の個人的な見解です。 薫風子 – 感覚味の句は、象徴を問題にする す。作家の感覚の鋭い把握表現だけで充分 す。作家の感覚の鋭い把握表現だけで充分 中の価値を高め得られると思うのです。 を通して作者の観念や情緒がにじ を通して作者の観念や情緒がにじ を出て来なければ価値が低いよう に考えます。

見一共同戦線をはったね。(笑)感覚味の句だけの問題ではない。べての句に通じて云えることで、木を力だ。それはすあ。(一同哄笑)

どんたく一どちらかに一票を投じとがかしくて。

り 清生 ― 私は三要素の価値は認めるし、殊にも は大した意味を感じません。三要素にこだれ これらをいくつかの要素はじめ他の人間感情 は出来ません。三要素はじめ他の人間感情 は出来ません。三要素はじめ他の人間感情 わらず豊かな人間性を句に織り込みたいと わらず豊かな人間性を句に織り込みたいと

(昭和三四・三・二八)





## 川柳作句の上から

### 正 本 水 客

出されるのは、前に「川柳とは何 刊行されるが、それにつけて思い 路郎先生の「新川柳鑑賞」が近く か」が出たときのことである。 その中の川柳の味い方の一句に 今年の川柳まつりを記念して、 年寄のライスカレーを汚な

そんな老人のつくったライスカレ すところがないような気がする。 や動作のジジムササを表現して余 が載っていて、 ーなんか喰べる気がしないであろ "……この句を読むと年寄の風貌

よう。

生にお話したことを覚えている。 がって、そんなものは食えないと じで「年寄がライスカレーを」汚な ときには、色かたちから受ける感 などは汚なく感じるという意味な いう顔をしていると解釈して、先 んであるが、私はこの句を読んだ とは年寄のつくったライスカレー という評釈がついている。 つまり「年寄のライスカレー」

> られた。 うかと興味を覚えて調べてみた 味があることを知って、今さら ら、次の十一通りほどの違った意 で、どのように使われているだろ が出てくるのは何かと考えてみる 字の持つ意義の重大さを認識させ 以下、 そこで「の」の字が作句の上 まるっきり主客を転倒した解釈 曲者は「の」の字である。 実作について分類してみ

が、更に次の五種類に分けられ 遍的な「の」の使用法である その関係を示す場合。一番、普 代名詞)と体言との間にあって 体言(文の主語となる名詞や

先妻の子に学問が出来すぎ 煽風機の代りを妻 1 いる。 合で、もっとも多く使われて 下にある体言を限定する場 がまだつ 没食子

> ある にも 尋ね人浴衣のままと書いて はしやいだあとの 下戸の酌マということを考 舌を出す癖 淋しさ妓 ときのま 矢寸志 湧 浪

でみ 居り 0 亡き母の煙管を持てば詰り ハテ誰の忘れものかと煽 所有とか所属とかを示す場 鎖 州 Vi

0 雨 南 喜 由京の宿金さえあればいきな 襟足の黒子に痴人夢多く 甘党は女の方の中に居り 国 の樹海大きく人を呑み

(3)「…のような」「…の如き」

近道はよそうに父の老を知

そもそもの嘘の初めのゴム 路

欲し 一生に自分の部屋というが

場所を表示する場合

社長室只ウンウンのいそが 霧の阿蘇ここが峠の県ざか 同権の味も知らずに妻は老 子猫ぞろぞろみな宿命の顔 邸「…という」意味をあらわす 近所への意地が八分の茸を 立板に水の女にただ見とれ 日本地図胡瓜の如く横たわ 父親は只居るだけの看護な という形容をする場合 生々庵 甲 4 3

子沢山使いにやったのを忘 れあるき 父ちゃんが叱られ たまさかに夫婦で行くのが パンの耳好きなのも居る子 嫁けへんか 恋人がいるのに嫁けへんか 女房もう先に寝るのも憚ら たのをふ ひさみ 美 枞

知らず 豆腐屋は虹の出ているのも n 水

「…のか」の省略されたケースが 疑問をあらわす場合

みたく ますの れる ぶんなぐる愛情なんてあり 誰が売るのか古着屋に袈裟 残業に酒が出るのと 恋なのかしら見送りもして つねら 美知夫 七面山 四季無

情を含めて念を押すような場

②「もの」とか「こと」とかの意 味で、名詞の代用に使われる場 (5) う」が「の」につまった場合 そうなの 自己紹介をするにオールド お電話のそばに誰かが居り 惚れている 呑ん兵衛でこまりますのと 挙手の礼又ぞろ流行って来 て来たの お詣りに行くってやっと出 人に呼びかける言葉で「…の 方大 善

6 いました 静太 特別の意味がなく、語調を整

元旦だ一二の三で跳び起き

の 体言が主格であることを表わりは 体言が主格であることを表わり

新陽族さすが式辞の堂に入 大賞うだけに女の暇が要り 水賞うだけに女の暇が要り 別棒の逃げた窓から首を出 し 小松園

社会学者の清木幾太郎氏が言ないと。従っている、「が」という言葉には、ほとんど無数の意味がある。従って「が」は便利だ、だる。従って「が」は警戒を要する。「が」は二つの言葉をぼんやり結びつけていて、具体的な関係を示していない。そこから抜け出すためには、精神は受身の姿勢から能動的姿勢に移らなければならないと。

は、私たちが受身でいるときでつまり「が」が通用するの

これは性器の発育を促す生理的の

なってくる。なってくる。

我々が川柳独自の表現とも言えるほど「が」を敬遠して「の」なくこんな意識を潜在的に、川なくこんな意識を潜在的に、川なくこんな意識を潜在的に、川なくこんな意識を潜在的に、川の野を乗出して持っていたからではないだろうか。

さて、話は始めに戻って、〃年

何か」から引用さしていただい



## 尾崎方正

寸異るものでついでに申述べるが のである。但し年頃の娘の笑は さが加わるとか仲々効果のあるも 率が挙るとか家庭にあっては楽し 話がスムースに運ぶとか職務の能 ると精神の緊張が取去られて後の 合の席や職場で時々笑の爆発があ 笑っておれば頭が少々可笑しいの 味に這入り得ない。自分だけ独り はないだろう。処が相手の人が笑 生活から笑が無くなったら墓場で 年まあ常態に復したように思う。 ではないだろうかと疑われる。会 って呉れなくては自分も笑の醍醐 暮すように感じるのは筆者一人で んど見られなかったが敗戦後十余 部はなやかな頃大衆の笑は殆

する処である。

対していますが、ことは先刻婦人科の熟知拠に女が笑う時に子宮がとても猛運動と考えてよろしい。それが証

医長さんが医員看護婦を引連れて俺は医者であると言う態度で反 りくり返って歩いているのを見る と滑稽に感じませんか、課長さん が廻転椅子に腰掛けて大きな机を が廻転椅子に腰掛けて大きな机を がのたい思をしませんか、課長さん が廻転椅子に腰掛けて大きな机を が廻転椅子に腰掛けて大きな机を しられているのを見ると何だか擽 ったい思をしませんか、或は又婦 せえっちゃらと廊下を歩いておら れると可笑しいと思いませんか、 之等は哲笑いを催すものであるが 大きなが終さって額に経敏を寄 せえっちゃらと廊下を歩いておら れると可笑しいと思いませんか、 と等は哲笑いを催すものであるが 大きなが終さる。

寄のライスカレールの句は①のの に属するもので、ライスカレーと かということになる訳である。 は⑦の分類に入るもので、この句 体言が限定する場合なのか、或い の主格は年寄であり、「の」は いう下の体言を、年寄という上の が」に読みかえるべき場合なの なお例句は主として「川柳とは 隻句或は一挙手一投足で他の人を で仲々六カ敷い。その人の一言 に避けるための自己防衛である。 張をとる為と笑われる事を無意識 く見かけるがこれは附近の人の緊 飛ばして皆を笑わしているのをよ 処で人を笑わす事は簡単なよう

負している人には出来ないこと がならわしになっている。 では知名の人は旅行に皆夫婦連れ 来なかったかである。これは欧米 とはワイフをどうしたなぜ連れて では招待されると先ず聴かれるこ って暮したからである。学者の家 た事にも依るけれども到る所で笑 のは三カ月と言う期間が短かかっ 早く帰国したいとも思わなかった だ。私は欧米を巡って淋しいとも 敷いことでないが自ら偉いと自 ち自分が道化役者となるので六カ を語って人を笑わす事である。即 心穏かでない。最もよいのは自己 後で話題になった人が伝え聞くと 笑わす方が罪は軽い。併しこれも 話方でまだ第三者を語って相手を を誘う人があるがこれは最拙劣な よく相手をへこまして第三者の笑 わす人は話術が巧みなのである。 ている人がある。無意識に人を笑 笑わすような生れつき美徳を持っ

大いに笑う。昨年この学者は来たと直ぐその方はどうして処理しているかと訊かれる。ガールフレンいるかと訊かれる。ガールフレンと直ぐその方はどうして処理しているかと訳かれる。ガールフレンと直ぐその方はどうして処理して

きつけの料理屋ではそこの主婦を 平素語らないので偶々毛色と皮膚 の方が笑って仕舞う。此処でも行 出来ない。余り糞真面目でこちら キンガム宮殿で衛兵を笑わす事は が英国は笑を忘れた国で特にバッ けられると可笑しいのである。処 の色の異った者からその話を持掛 西洋人は助平と考えるのは行過ぎ れから欧洲では専らホテルへ着く けれど別に紹介せずに済んだ。そ いつも笑わした。 である、彼等はビジネスに熱心で 笑うものである。これだけを見て し笑わないと女の話をすると必ず とそこのマネージャに冗談を飛ば

斯様に笑は生活の潤滑油で人間 大いに嫌う組合運動に笑が出てく るようになれば一国の政治がうま く行くように思う。

(大阪逓信病院耳鼻咽喉科部長)

## 雅号由来記

場沒

食子

マーショクシ、酸薬が薬剤師なので生薬から運びました、はじめ五倍子とつづれたのですがその頃(大正末期)婦人権誌の記者に五倍子と言う方があつたので止かました、客郎子も一応候補に考えたのですが没食子の方が川柳の婚幌らしいのでこれにしました。現在薬剤師で医師で医師で医師で医師で表しました。現在薬剤師で医師で医師で医師で表したので、没食子にしてよかつたとつくづく思います。よく写真騒ぎの著名な先生者いられるので、沒食子にしてよかったとつくづく思います。よく写真騒ぎの大きので生薬かずという。

## 男なん

そ川柳的要素もここにあるというもの。でア ウラもありアラもあるというれのo さればこ 男から見た女、女から見た男ーーそこには

# 命まで賭けた女てこれかいな

松 牛と女は三日目にどやせ。女の賢 71 梅 里

ながら別の私が云うていると思っ け、全く惨酷な話である。不本意 女が好きな私に「女なんて」をテ 侮辱した言葉を並 べたてて申訳 らに、女如きがなどと、随分女を ーマにして何か書けとの仰せつ ない次第である。元来男のくせに て御勘弁願いたい。 女なんて、女のくせに、女だて

ら女賢しうして牛売りそこれる。 ると云うのが不思議である。昔か 生きて我々は結構楽しんでいられ 物と恐しいけものの住む世の中に りと云われている、その妖しい魔 女は魔物なりと称し男はけものな 垂れ給いし有難い国である。俗に れ、そもそもあなかしこの教えを なくては世の明けぬ国と伝えら 日の本は岩戸神楽の始めより女

従うてばかりいなければならん。 従い。老いては子に従い。一生涯 幼にして親に従い。嫁しては夫に 偉いのと東の空の明かいのはくそ てすまないと思う。 いろと心にもない勝手な熱を吐い 弱きものよ汝の名は女なり。いろ にもならん。女は三界に家なし。 女は男の寄生虫に過ぎない。女の いのと男の馬鹿とはおんなじだ。

し女性礼讃をして御機嫌をとろ 随分にくまれ口を叩いたので少

なぜよその女美し終電車 絃一郎

られている風景である。豪華なキ には殆んど毎晩のように見せつけ 南の盛り場に店を持っている私

> 見えるのであって丁度デバートの 百円。やはり野におけ蓮華草であ ある。種々雑多なものがあるから 写している。多勢居るから美しく 亙る夜を働く女の姿態をうまく描 を持って来たことが更に広範囲に にくっきりとどれもこれもが美し キラ星の如く続々と出てくる、そ れて商売をしていると夜十一時の つとってみると百円はどこまでも どれも百円で安いと思うがさて一 百円均一の品物を漁るのと一緒で く見える。この句の下五に終電車 れぞれいささかきこし召して夜目 たように、若いきれいな女の子が バレには宛ら人形箱をぶつちゃけ

帰って行くうしろ姿にチェッと舌 に来ている。二人仲よく相合傘で と下駄を持って彼女のレコが迎え 酔態を見ては悦に入って居ったも 別名女給電車とも云う。女給達の であちこちうろうろして時間待ち 飲み歩いたものだった。午前二時 が流行したカフェー華やかなりし る。雨のときなど改札の近くで傘 る。大抵は萩の茶屋玉出間で降り あってわざわざ二時の新聞電車ま 頃、当時堺に住んでいた私はよく のだ、目ぼしい女のあとを尾行す の南海電車に新聞電車と言うのが とんぼりの赤い灯青い灯に憧れて してその終電に乗り込む。これが 私の青春時代あの道頓堀行進曲

った。これがふられて帰える果報 蔭で堺まで歩いて帰ったこともあ があざけるように消えて行く。お 打して引返えすと既に終電の尾灯

ヤバレーやアルサロにとりかこま

者かしら。

不明。勿論私の家へもその旨知ら は八方捜査をしたが沓として行方 をとって駈落ちをしてしまった。 を決した二人は警報の夜、手に手 反対して結婚を許さない。遂に意 すこと一人娘と云うので彼の父が ごろになってしまったが、一人む 争が激しくなって紀州の粉河の知 とんと召集も来ない。だんだん戦 奴はどこまでもついているのか、 で次々と召集が来るのに運のいい がれていた、当時は二十七の青年 クをしていたのでよく女の子に騒 弟のA吉が少し自信のもてるマス 心中のおそれありと知った彼の父 人の家へ疎開することになり、や がてそこの一人娘といつしかねん 戦争中のことであった、私の従 命まで賭けた女てこれかい

よいのかと、全く二の句がつげら あった、紀州の山猿みたいな女。縁 だと思った女である。実に意外で けて這入って来た、ハッと顔を見 知らと戸惑っていた。ごめん下さ タっと止まった、道に初対面。躊躇 ると女の足音がして部屋の前でバ を云うてやる。どうしてもあの女 想だよといろいろ意見らしいこと 騒せをするじゃないかお袋が可良 う。女はどうしたと聞くと今薬局 て下さいと床の中かららしい声。 と、落ちついた声で従弟が這入っ 尋ねると、あすこのお部屋ですと 女に会ったので菊の間は何処かと られた、廊下の途中で女中らしい と二階の突当りの菊の間だと教え れて夫婦になり、今では二男三女 れなかった。その後思い叶って晴 は異なもの、この女のどこが一体 て驚いた。先刻廊下で会うた女中 心にかられながらなんと云おうか している様子、どんな女かと好奇 ってくれと嘆願する。しばらくす とは別れられぬ。なんとか力にな 障子をあけると女はいない、兄さ 教えられたので外から声をかける いと蚊の泣くような声で障子をあ ん色々心配かけてすみませんと云 へ行ったとのこと。しかし随分人

明眸禍結局美人勤まらず

のサンプルみたいな夫婦である。 の親になっている。全く相縁奇縁

閑としていた。番頭に案内を乞う 早く着いたので温泉宿はひっそり えず、城崎へ行くことにした。朗 来たので、私はとるものもとりあ ても死ぬのがあほらしいからなん 泉宿にいることが判った。どうし せがあった。一週間目に城崎の温

とか夫婦にしてくれと云う手紙が

といます。

男みな阿呆に見えて売残り

側が、いつも影法師の様につきま 強さ偉さに膨心しながらもその裏 かされすぎて育ちました。男性の

すが決して阿呆なのは男さんでな

と言う句が禍をしておるようで

うに陰陽相和しているはずです。

見栄坊のヒューズ飛んでも

ちベターハーフが出来て一個の完

女性と言うものがプラスされて即

全な人間が出来上る。またこのよ

下にした安定な静的に出来ておる ります。そこへ頂点を上に基底を ればならぬ、即ち動的に出来てお すので不安定で始終動いていなけ

があって就職することになった、 る。某信託銀行の庶務課長にコネ の貌が却って禍いして何処へ勤め 切で程がようて……と唄の文句で するトテシャンである、粋で高尚 入れてはいた。何も修養だと思っ ましい眼で見られることも予算に 女事務達の冷たい風あたりや、妬 勿論課長の腰巾着である。先輩の てもやめなければならんようにな ても本人は辛抱する積りがどうし はないが、全くの美人である。そ で実意があって女振りがようて親 私の友人の娘のB子は男好きの

男にあるものを女なんて全く罪深 三ヵ月と続いたことはない。罪は 勤めても大体このようなケースで のアッレキを生じ遂に板挾みにな 話題の中心になってしまった。遂 男社員が見逃す筈がない、くれな ていたが敵は正に本能寺。なんで い動物だとつくづく思う。わたし って辞表を出してしまう。どこへ のは庶務課長、ここにも亦男同士 の秘書にくれと言う。面白くない か、甘きに蟻のたかるが如くすぐ に営業部長のお眼にとまり、部長 いは園生に植えてもかくれなしと 二号おき

男みな阿呆に見えて賣残り は女のない国へ行きたい。

> うぬぼれが強くとは言うものの何 判ったものじゃありません。 さて各々曲線を取ってみれば、ど あって、完全な人を基準にすると 処までもパーセンテージの問題で ゴイストで暴君、不潔で浮気っぽ ちらにどこにピークが出来るやら か、女の人を対照にしての事で、 く、あかんたれで案外しぶちん、 男なんて見栄坊で嫉妬深く、

女を対照にする事は間違いだと思 態が変って来てみれば女大学式の 戦後靴下と女が強くなり生活状

子、男の子と下にもおかぬよう大 多少複雑にはなりましょうがね 任もあります。それでこれらのス りませんし、家族の扶養と言う責 事の連続で緊張していなければな す。ほんとに社会に出れば頭をつ ているのでしょう。昔から男は外 のでしょう。特権意識が強くなっ 切に育てられたので思い上ってる のでしょう。赤ちゃんとちがって 感情をむき出しに振舞って見たい の時代に帰って思うままに自分の 大切にされて楽しかった赤ちゃん たいのでしょう。そのために時々 トレスから一時的にもせよ逃避し かう仕事、気を使わねばならぬ仕 に出れば七人の敵があると言いま 男は赤ちゃんの時代から男の

が小さく、丁度三角形の基底が上

元来男の体は肩巾が広く、臀部

になり、頂点が下になっておりま

幸か頭の軟かい間から男性の阿呆 色街への出入等の関係上、幸か不 を受け、父の仕事、自分の仕事、

夫唱婦随、男尊女卑の時代に生

うて眼のなかった売残りの方なん

Ш

111

SII

茶

山見せつけられ、あまりに沢山間 な面、ダークサイドをあまりに沢

だから男なんて大きな坊やだと

易いとも言えましょう。 ゃありませんか、裏を返せば馭し き出しにする点単純で可愛いのじ 思えば腹もたたず返って感情をむ

甲

さないかしら、 りません。 主があって浮気でもすれば角を出 事が言えるのかも判りません。亭 強さ、思い切りのよさ、男の友情 は女の生活をしておるのでこんな つも羨ましいと思っております。 が所ではありません。 この点はい には頭が下ります。とても女の及 独り者で半分は男の生活、半分 でも仕事に対する情熱、意志の 保証の限りではあ

強そうな事を言ってても、 どたん場に男案外気が弱く

楽などして、 衣食住の不自由をさせぬと女道 石

助平根性を出しては、 方が嫉妬深いと思う。 陽性で派手なため目立つので男の 郎になったり、嫉妬は女の専売の を一夜に捲き上げられてシュン太 ように言われるけれど女の嫉妬は やられ で半期に一度の夢多きポーナス うまうまと青空女給にして 甲斐性ある男苦労もさせて

わるい。 これは陰性で目立たないが気味が むっつりと男嫉妬やいてお

> 金を持って来るのは男だけれど家 強いような弱いような男の

が多いし、子供にしても女は自分 ない事もない。 いが、男にしてみれば疑えば疑え の腹から出て来るので間違いはな の実権は大抵女が握っておる場合

入籍へ血液型を見ると云い

まさか普通の夫婦間ではこんな事

がある。 もなかろうけれど相談を受けた事 男に対して心引かれるのは、

男もう仕事の顔になってお

と何事にも思い切りがよく、 男々こんな涙ももち合せ

の地味な滲み出る涙である。

### との味

心斉橋大丸北の辻

TEL @ 6684 御集会には階上御利用下さい

JII 柳不変の課

田

ものなるか 手ぶらとはかくもたのしき (新川柳鑑賞)

絶景に住んでる人を羨や 無いものは無いで通せる有 がたさ 湖

うと思うのであります。 のがある中で一番末長い幸せは りますが、いろいろ幸福らしいも 句を作りたいと思っているのであ した。私、日頃から幸福のために 先ず目についたのはこれらの句で 「足るを知る」ということであろ 石延で名高い洛西の竜安寺にま 四月号(三八三)を手にして、

のを生かすことなのであります。 よろこぶことなのであり、得たも を追わず、ほどほどに得たものを ょう。「知足」とは限りない欲望 入れなければならない仏の心を見 が、このつくばいの四文字は手に 出来たこの禅寺の象徴でありま す。この「吾ただ足るを知る」の 体的にあらわしたものといえまし く力、すなわち悟を得る宗教です す。禅宗は自らの力で真実を見抜 でありまして、これは室町時代に 「知足」とは満足するということ

それがあまりに川柳的であるのに きせぬ香が感ぜられます。しかも る紀行でもなく、研究報告でもな うのがありますが、著者は中根千 でありまして、率直な行間から尽 く、旅の随想とでもいうべきもの 来た人です。この本はしかし単な ジア、ヨーロッパを研究旅行して 五七にわたる四年間、ひとりでア 性の人類学者、一九五三から一九 校というチベット史を専攻する女 出した「未開の顔文明の顔」とい 最近読んだ本に中央公論社から

心の口と組合せますと「吾唯知「止」と彫りつけられてあり、止

足」と読ませるようになっていま

がたたえられ、それを囲んで上に があり、口の字に切った中に清水

「五」右に「隹」左に「矢」下に

いりますと佗びた小さい庭の片隅

に、石のつくばい、即ち手水鉢

でありました。 よろこびを感じ且つ満足したもの

ると書いています。 かけた最も貧しい人々の方がずっ 著者は大へん驚いて、インドでみ 額に世にも貧相な表情を発見して が、その国の中流生活をしている とちゃんとした立派な顔をしてい しているのですが、その中流人の よりずっと裕富な、整った生活を 人々、中流といっても日本なんか でも有名な生活水準の高い国です 北欧のスエーデンといえば世界

せんか。 見つけ得なかったその頃の低い生 かな顔がらかんでくるではありま 活を哀れむ前に満ち足りたまろや わゆる中世の平和時代が続きまし 百年にわたって大戦争もなく、い に低かったといわれる中世には数 た。貧とか富とかいうことばすら ヨーロッパ史の中で一番文化的

哀しいすがたなのでしょう。私は そ欲望の果ての欲望を追っている ここを読みながら手早く欄外の余 もかなしみももてない人生これこ とも生きてゆける人生、よろこび ているというのです。何もしなく もこれも、うつろな灰色の瞳をし ずくめの老人たちが、これ又どれ に出来ているのですが、その結構 をエンジョイさえすればいいよう てがわれて、ただ死に至る日まで ともなく、何もせず、小遣まであ で、老人たちは何の心配をするこ 楽ともいいたいほど立派なもの 北欧の養老院は我々から見れば極 社会保障の極度にゆきとどいた

> たいくつな極楽よ」と書かずには 間の考えた極楽とはこんなものか 白に「欲望の整理をしきれない人 いられませんでした。

るのではないかと、そぞろさむけ 命と、同じところへもってゆかれ く、まるで環境に対応し切れずに ますが、口を開けば物質的向上を 滅んでいったマンモスや巨獣の運 ならありますが、それはとにか 安を感ぜずにはいられません、一 る保守政党のいい分にも一床の不 の味方になるのでないかと思われ 連夜言論戦がくりひろげられてい つ川柳党でもつくりますか川柳塔 いいながらともすれば持てるもの も、全ての階級の利益をまもると のみ叫びつづける革新派の理想に ん。今日日ごろ地方選挙のために 瞳とあっては考えざるを 得ませ が、その終着駅がうつろな灰色の に努力をつみ重ねているのです 目ざして、どこの国の人々も努力 実は、このような理想の社会を

てくるのやら。 をおぼえるのです。

代にはどんな文化様式があらわれがだんだん成長していった次の時 のかつての未開入といわれた人々 続々独立してゆきますが、これら たアフリカやアジアの人々が今や この本の三分の二はインドのこ 今まで植民地として搾られて来

近いチベット文化地帯へ入ってゆ れたアッサムの未開社会を中心と とがかかれていますが、そのはじ しています。そして、ヒマラヤに まりは例のインバール作戦が行わ

くのです。

の深いつながりのあるなしに深く す。そしてこれこそ、文化の伝統 ていることを見逃せないと思いま をひく東ローマ文化の上に咲き出 筋金だけでなく、昔のピサンツ文 う。ソ連文化の如きも唯物主義の 化社会とはどのひとりにも文化の りか二人であったといいます。文 というのです。その一例として、 いられません。 つらなっていることを思わずには 化、即ちギリシャ、ローマから尾 み通っていることをいうのでしょ 体臭が毛穴の一つ一つにまでしゅ かかっても改宗者がやっとひと ヒンドウ数を信ずる人々は三十年 リスト教に改宗したが、ラマ教や 未開社会で十年間に百名以上もキ り、精神のおちつきが感じられる ろうともヒンドウやチベットの人 々の中には高い文化が香ってお 開の血がのこり、たとえ文盲であ サムの未開人はやはりその瞳に未 をつみ、教育を身につけてもアッ ってチベットの人々に働きかけて 月にかけて世界の話題となったチ いるのがわかります。いかに教養 の想像も及ばない高さと深さをも いのですが、読んでみると私たち して、あまり関心はもたれていな す。チベットの宗教である仏教の ベット叛乱事件のあったところで 一派ラマ教は未開な土地のものと チベットといえば三月末から四

もっと深いインドの漫々的ぶりは だとよく申しますが、文化の根の お隣りの中国人は大いに漫々的

史が書き上げられたのでしょう。 このようにイギリス人も、インド

人も負けずおとらず芯の強いもの

ンド人なればこそこの二百年の歴

ンド人はついぞ見かけないとか、 らいらしたり、おこったりするイ も、人に待たされても、それでい 驚くべきもので、人を待たせて

「待つというほど楽しいことはな いのに、その時がくるまでいろ いろ想像して楽しいではありま

さがきわめて高く、ガンジスの流 くべき豊かな土壌、ヒマラヤの高 長い文明と歴史の肥料をもった繁 序も、節度もあるというのです。 中には感じることがないそうで 気にする面子すらインドの人々の れがきわめてゆるやかに、おおら す。それでいて幸福な生活への秩 馳らされているのです。中国人が にしない。悠久の時に従うことに ですって。時計の時間なんか問題

人々の幸福が保てると信じている す。自分のそして相手やまわりの 出し、本もののすごさがあるので 切にすることに彼等は土性骨を見 す。このきっちり即ちルールを大 れてくれないきっちり屋さんで 業」の看板が出た以上てこでも入 も何でも一秒すぎて、「本日終 支配したのがイギリス人であり、 このイギリス人ときたら、食堂で イギリス人なればこそ、またイ このインドを二百年にわたって

集

の闘いでありました。 ッパの力とアジアの知恵との世紀 スのインド支配史であり、ヨーロ 文化が花火を散らしたのがイギリ ています。しかも、この両極端の をもち、どっちも個人主義に徹し

てくるかということでありましょ あり、それがどんな風にあらわれ 今後に宿題をのこしていることで たちに興味のあるのは、その両方 の調和のことであり、その調和が その勝負の結末より、もっと私

芸術するものなのです。 ことばをつかい、又文字をつかっ るのでした。川柳は日本語という て、それを組合せることによって 私は川柳の話をしようとしてい

ありません。

るのです。それだけでは人間では にその働きを停めたときに死とな

になるかもしれません。しかしこ 的にことばの組合せも出来るよう オートメーションが進むと自動

> ネルギーは補われ、生きるという 喰い、ものを飲んでさえいればエ かが人間を人間としているのです 機械だけではありません。機械に はある点において機械であるが、 を入れ忘れたものなのです。人間 が生れてくるわけではありますま とばや文字を組合せただけで芸術 営みは続けられます。そして最後 プラス何かがあるのです。その何 い。それではよくいう仏作って魂 七十年の間、空気を吸い、ものを 機械としてだけみれば、五十年

て貴いことがらでありますが、そ どいうことからぐんとかけはなれ のですから、機械としての人間な しい営みの中でも最高に属するも 知足」ということは人間の人間ら

> ります。それが川柳不変の課題で りまして、川柳を通して人間研究 あると考えるのであります。 をさらに奥へ進めてゆけそうであ が知っていただけると思うのであ とがいかによく調和されているか 句であります。三句はそれぞれの にせられたのが、最初に出した三 の「知足」をあえて題材として句 と、それにプラスされた何ものか っていますが、機械としての人間 カラーをもち、表現の仕方もちが

なぶり」に就て

還暦をすぎてもなぶりきく 五月号の句評リレーで拙吟 Щ 阿

「なぶり」が問題になっておる

話を何って眼を白黒しておる次第 う」とか言うのですが、皆様のお ような場合に「なぶる」とか「いら は無理に嫌がる事を言って逆らう 罪のない嘘を言ってかつぐ事、又 ようですが、あれは我々仲間では

——九五九·四·一六 茶 れるのが通り相場になっておりま う返答をするわけですが、身分の をすると小便たれしまっせ」とか がおりまして年中エプリールフー 嘲の句なんです。私には沢山悪友 低いものとか年少のものがなぶら ております。怒るような野暮天は かつがれたりで結構仲よくすごし ルのような生活で、かついだり、 せん私自身がモデルで、半分は自 一人もいないのです「大人なぶり 「大人なぶりしてえらいで」と言 あれは幾歳になってもしっかり

紙 ウファフと忍び笑いの原稿

喜 江.

### 選 課 題

男

0

子

麻 生 葭 乃 男の子だいじに育てそむかれる 泣かされたことは言わない男の子 男の子もう鉢巻をうれしが り 日のお守でこり 科にだけ厄介になる男 た男 0 0) 子 子 きち子 同 同 同 阿 茶

泥

金

男の子また近所から苦状 男の子おいて離婚の危機にたち 赤胴にみんななりたい男の が 出 子 奈良子 同 梨 里

男の子形見のようにおいて逝き 男の子花火は音の出るの 男の子居ますと派手な鯉のぼり 今度こそ男を産めと無理なこと 仲裁の母けとばすも男の 男の子縄とびのはし持たされる チャンパラの捕ッ手にうちの子もまじり 西部劇だけ見て男の子は たるみこし豆鉢巻の男 ポース・ファラへ錯覚の瞳があがり 買 帰 0) 子 子 ŋ 美音子 そと枝 清 友 德 春 知 たつよ 若 同 菜 子 子 子 栄 恵 長男の 恋へ両親 折れて 出 男の子だったと電話でのしらせ 男の子だっせと母に叱ら 男の子あぐらを組んで威張って見 どさくさへ邪魔がられてる男の子 捕鯨船へ電 報 男 生 女三人つづいて男の子が待たれ 次の題 垣 5 (メ切日ご注意ください れ 七月五日メ切 七月末日メ切 n たと る 都詩子 知恵美 良 初 俊 美

子 穂

ş

栄

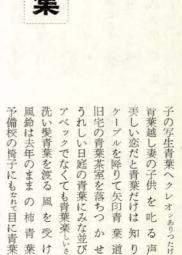
### 青 葉

### 西 尾

栞

選

花で誘い青葉 青葉からピアノの音がころは出し 街路樹の青葉へネオン野暮ったく 体臭をさけて青葉の息を 吊橋を渡れば青葉の径と なり 新緑の里へ もう青葉花の命へ雨 青葉から麦から抜ける草 青葉背にカメラのボーズ出来上り 退院帰 で招く観光課 2 ば T か 競 吸 来 ŋ 馬 い 白溪子 進之助 どんたく 鬼 黒天子 美 明



路

眼帯がとれて青葉が眼に沁みる 青葉して来たのを女に教えられ 泣いた目に青葉が遠くうるんでる 倖せは奈良の青葉へ子供 連れ 青葉の香ほのかに背の茶を啜り 青葉下会うてはならぬ人を待ち 目に青葉入社通知の来ないまま 名園の格を青葉の頃 に見 青葉風男性 七曲りバスは青葉に見えかくれ 青葉の候花見の借金とりに来る 肺活量弱く青葉につきまと 退院に我が家青葉に囲まれ 背桐の曜るが如く 雨 に 斗病の白い掌に青葉の影受ける 的 に付うなり 炒 せ 参無子 兼治郎 恵二朗 宗太郎 与根一 摂氏梵 淀 隆 恒 昌 井 保 男 月 秋 文 蛙 头 路

> うれしい日庭の青葉にみな並び 旧宅の青葉茶室を落ちつ 美しい恋だと青葉だけは ケーブルを降りて矢印青 葉 魂胆を知らず青葉の蔭に 予備校の椅子にもなれて目に青葉 アベックでなくても青葉楽しいさ を叱 柿 を 7 青 受 か 知 葉 ち 世 十九平 美音子 六竜子 代仕男 生 朱 美 圭 慈 春 紅 133 鳩 水 維

青葉にもあきて山荘から よろめいてみたい青葉の昨日今日 青葉から定職のないサングラス ゆっくりと水車青葉の中に廻い 日本を離れる青葉 眼 に 五 下り 痛 < 圭并堂 藤 筲 鵜 水 波 明 TT 堂

転動のあわただしさへもう青葉

愛

鳩

返事出す気になり窓の青葉見る 蜻 蛤

招 待 噂もう青葉になって消えかかり

甦

光

学友として招待の席 に 招かれて場違い思い知らされる 招かれて祭りも知らぬ程よばれ 招待の上座に座り気の引け 就 ŧ る 句念坊 吉 蜻 枝 休 蛤

> 来て見れば麻雀だったご 招 招待を断り切れぬ 顔

待

甫

で受

H

宗 秋

新築の招待で愚痴聴かさ 趣味のない招待席で出る欠

n

3

季

档

伸

鏡かけとれば青葉も写って

書き飽いた履歴書青葉の窓に佇ち

袖カバー窓の青葉 に

囁

か 居

n

坑を出て青葉とおとい物に見え

夜 実 陽

潮 男 失恋を故郷の青葉が抱いてくれ

子

青葉踏む今日大峯の山 目に青葉故郷の便りの途絶えがち 青葉よおまえはなんと清 潔 青葉をとおした風の甘いこと

開 3

狂

ああダムの底へ沈んでゆく青葉

青葉時持病の方が先

15

知

ŋ

職安に来れば青葉がまぶしすぎ 信濃路の青葉二人のものにする 恋人の窓は青葉でさえぎら 急カーブ次は青葉の谷ひ

市 閑

ts

微

年 太 鶴

吾

郷

玲

人

選

らけ

き

五人ほど渡り渡っ た 招 招待状アト一枚になって 揉 招待の中座 招かれた庭はさつきの花ざかり 空箱でコマ劇場へ招 招宴へ借り着と言わぬモーニッグ 招待に普段着で行く 親 招待へ大事な人を 忘 れ 恩人として招待の 席 招待を有難迷惑とも 文通が良い子の招待にまで実り 招待をされて一席しゃべらされ 招待をせよとの謎をかけてくる 招待の理由判らぬ 悪友は別に招待する 招待に樟脳 招待の椅子のあり場が気に入らず 招待は当りました と 市 場 招待をされて衣裳 を 新 調 招待が鉢合せする大安 招待の額振れ酒の 量 招待券持って誘惑やってく 酒だけは沢山ある と 招 招待はあっても行けぬ百 招待券入口 招待券二枚 招待に洩れた不平のコッ こ都合が悪いでしょうが招待状 别 仲 臭 へ母 人 い 0 背 ま の薄化 方 か と決 5 で決 ま 12 広 く記事 座 プ 待  $\equiv$ 有 届 \$ 待 0 7 着 え 80 券 粧 日 る 才 ŋ め ŋ 8 L き 酒 与根一 参無子 南牛史 兼治郎 恵二朗 宗太郎 恵二朗 たもつ 井 秀 夢 恒 狂 定 豊 月 蛙 閑 男 生峰 水 雄 康 夫 71 路 雄 估 1 年

肩書が取れて招待来なく 招待の酒で休 招待に限るお客へ 招待券見合いと知らぬ 下心あると見抜い 悪童のクラス会だが師を 招待のここはネオンと脂粉の香 招待客帰り内輪で 飲 招待は酔えず自腹 招待をしてから知った酒 んだ二 幕 た招 0) 2 を 酒 招 直 ts 日 張 定 0 0 味 ŋ 醉 n 代任男 圭井堂 川柳堂 進之助 子

招待は本社をいっち先に 立錐の余地なく招待席は 酒癖の悪さ招待か 5 は 見 カ ず せ ラ どんたく 男 見

招待の楽しいバス が

覆

米

眠そうに招待席で 招待の隣りの席も 招待へ母は 污 職 手 代 か 2 を 理 5 案 1 白溪子

招待の旅行

今年

は

妻

0

番 ŋ

鳩 峰

招待と云う名の旅へ金が

要

招待状どこへしまったのか忘れ 招待の今日をはがゆい風邪をき 招待の旅費正札に折り込 マーシャルソングを招待歌わされ 枚の招待券を譲り 合 ま 叩 美音子 星 郎 宗

招待へ着物を打合せする 万障も無く招待へ妻 招待に妻酒 招待に慣れた作家のペレ 達筆で招待されて怖じ気 招待へ不参を詫びる不 癖 を 言 を い づき 電 連 1 倖 含 話 帽 n 8 せ 八九寸 十九平 文 月 子 鶴

> 招待にその人選のむずか L 3 太 路

招待にその 関振れを聞きただし 東 =

招待も予算に入れ 天 12 見 積 書 宵 明

魂胆のある招待へ 代 理 が 来 満 秋

招待の旅に自弁の要るコ 1 ス

#### B 漏 1)

#### 中 村 九 呂 平 選

腑甲斐ない世帯を笑う雨が漏り 雨漏りの音を気にして病みっつけ 分教場の雨漏り直し決めるクジ 雨漏りのリズムを聞いて寝っかれず 腹匍いで雨漏りをきく独り 風向きが変ると雨漏り位置を変え 御先祖へすまぬ座敷へ雨が漏り 終戦の前の家貨で雨 雨漏りがやんではのはの夜が明ける 雨漏りの音がわびしい妻の留守 滞納の家賃に雨漏りほっとかれ 雨漏りの音と更けゆく手 慈雨漏りて百姓少しも慌てない 安普請雨漏るように出来 諦めが雨漏りリズムと聞くゆとり 枚の瓦動 V T 雨 4 から 内職 漏 漏 J. n ŋ ŋ 進之助 八九寸 たもつ 光 惠 恒 吉 定 旭 朗 月 郎 湖 潮

> 雨漏りをふせぐてだてのあれやこれ 雨漏りがバラッの外へ場所を変え 移動した席へ雨漏り寄って落ち 雨の漏るのも当然と云う家 お隣も雨が漏ってる屋根 雨漏りの箇所を聞いてる屋根の上 雨漏りが複々線の様に 雨漏りに耐えて場末の暮し向き 雨漏りのキャンプ若さが騒ぎたて 赤貧のリズム雨漏りピッチあげ b 0 ts ŋ 進之助 十九平 鬼 忠 実 光 太 男 男 郎 月 7 美 路

去にそびれ雨の漏るのを見てしまい 雨漏りの修理家賃に入っとらず 雨漏りへ寺の維持費がまわりかね 雨漏りの箇所を屋根から声をかけ 宣伝のバンガローに雨が 雨の漏ることにはふれず売りに出し 雨漏りはなおさず家を空けと云い これ見たかと云わぬばかりに雨が漏り 雨漏りのリズムを変えた雨の脚 降れば漏る古き社宅に堪えしのび 栄転のはずの社宅は雨が 雨漏りへ子の正直な綴 雨宿りした仮小屋もひどい漏り 手を抜いたここから雨が漏れて来る 別居した様に雨漏り除けて寝る 宿料を値切った部屋に雨のしみ 漏 り方 1) 与根 白溪子 十九平 兼治郎 南牛史 白溪子 保 美 年 年 宗

雨漏りを調べる雨を待っており 雨漏りへ明日の予報も雨が降り

兼治郎

雨漏りを探して瓦割って くる 漏るとこが判らず屋根と下の声 蜻 満 秋 蛤

雨漏りの後を見つけた売り屋敷

圭井堂

留守番へ雨漏り支度も云い足され 雨漏りの下で言葉が荒れており 雨漏りをなおして雨待つ気にもなり 雨漏りを話せば隣りも負けで云う 雨が漏る皆んな出て来い 春雨じゃ云うてはおれぬ雨が漏り 瓦屋が歩けば此処が漏るところ この予算ではと雨漏り取り合わず 客 台 所 美音子 代仕男 恵一 初 夢 朗

ほろくそに云われて雨漏りなおさされ 雨漏りに長屋夫婦の床が 漏らば漏れで皮胸をきめる程に漏り どの辺が漏るんかいなど屋根の父 雨漏りが広い畳を狭 < 割 す る どんたく 初 慈 雪 甫 雨

出世せぬ腕が雨漏り直し T

居

好

坊

余っ程の漏りが家主を呼んで来る

筲

明

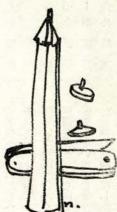
有りだけを並べて西漏りせまく寝る 南牛史

になるか、整理上本社柳笺と同寸法 出来得るかぎり本社の柳笺をお使い の用紙を御使用ください。 投句される方に。文字は楷書で、

# 川柳雑誌社特製

## 投句用 柳 箋

冊(五〇枚綴)三〇円 料(一冊分)八 円



市 二十八日 される。 南北亭の竣成、句碑除幕式 の親和クラブで開催。以上路郎主 奈良へ吟行。▼コクヨ川柳会(大 は五月三十日(土)午後一時から 上で開催。▼大阪逓信病院川柳会 区三休橋南詰中島小児科診療院楼 月十九日(火)午後七時半から南 合わせの上、多数出席されたい。 られることであろう。柳友お誘い の眼に、 幹出席。▼食満南北三回忌法要、 時半から黒田国光堂で開催。▼南 阪市)は五月十五日(金)午後五 ▼杏林川柳会(大阪市)句会は五 六時から道頓堀文楽座別館で開催 ▼本社六月句会は八日(月)午後 海電鉄川柳句会(大阪市)は五月 が五月十七日午前十時から名 雨には雨の風情を感じと 雨の六月、 (木)午後六時から難波 川柳家として 支部 井米三翁も出席され好天気に恵ま 日長門一の宮福王禅寺で開催、 柳大会は五月三日午前十時から弘 開催。▼弘前川柳社主催の観桜川 山 支部(岡山県)句会は五月十日横

古談に花を咲かせた。▼川雑備前 同夜は勝尾寺に一泊、各人川柳懐 六日午後三時阪急箕面駅に集合、 会主催の箕面勝尾寺吟行は五月十 に御供養を配られた。▼豊中川柳 偲んだ。喜代子未亡人から出席者 開催、川柳文学社堀口塊人氏、以 句会は五月一日大阪美術俱楽部で まれ非常に盛会だった。▼陶泓忌 れ各界の名士多数出席、 刹南宗寺境内で南北会主催で催き 下出席者は故南北翁の在りし日を 好天に恵

> れる句会であったと。 会の頃雪洞に点燈、 松江市より舟木白帆氏が出席、散 日開催、米子市より小西雄々氏 支部(島根県)花見句会は四月五 れて盛会であったと。▼川雑木次 一しお情趣溢

語り」が新居浜市浜の宮公園 ることになった由。▼丸尾潮花氏 は藤樹先生の食べた鮎」を刻まれ 産物の盆に路郎主幹の句「この鮎 店を開いて居られるが、この程士 金沢へ滞在された。▼堀内暁風氏 として五月十五日から半月余りを 立侯補された鳥畠社長の選挙参謀 久志氏(西宮市)は参議院議員に 々除幕式が行われると。▼若本多 戦場)へ建てられることとなり近 の句碑「ここの景小魚も水も樹も イオリン・アコーディオン、声楽 生駒新児童音楽サークル会員のバ (大洲市) は大洲駅前で土産物の (岡山県)の招待で鳥取の砂丘に (大阪市)は五月一日鏡野友の会 時から生駒町文化会館で開催。 前田伍健氏(松山市)の八本目 麻生アート氏(奈良県)指導の サイタルが五月十日(日)午後

> 美術館に出陳された。厄除病除の 年の十二月号だったが、名古屋芸 は朝霧立ちこめて」▼「円空と쎼 楼から寄信があった。「山中の山 中温泉で一泊、金沢市湯涌の白雲 同伴で北陸の旅を楽しまれた。山 因縁であろう。▼大森娯句楽氏 誌に写真が掲載されたのも何かの 円空上人作品中の出色の作品で本 子観音寺蔵の天部形立像(像高六 本誌に掲載されたのは昭和三十二 ○糎)が五月中旬東京の国立近代 眼」と題する東野大八氏の一文が (岡山県)は五月三日北川春巣氏 (大阪市)は四月二十二日奥さん

酒

清

大塚合名会社醸 ・魚 崎

おもう」▼梶川蘇堂氏(西宮市) 信に「人生の余生ほどほどにして 郎主幹と歓談された。帰宅後の寄 (大阪市) と同道本社を訪問、 略

前商工会議所で開催。▼川雑下関

(下関市) 葉桜吟行は五月十

遊ばれ、夜十二時近くまで川柳に

つき歓談されたと。「空は青水も

藤

砂丘も初夏の色」▼西いわを氏

め句会は五月十三日光好陽子居で

一声居で開催。▼岡山電報局ゆ

り逢う友ばかり握手のみ」 の情にふけられたと。「三十年振 され、多数の川柳家と歓談、 句碑除幕式、 司市)は五月十七日長崎県雲仙第 お祈りする。▼菊川泰平楽氏(門 受けられる。一日も早い御全快を 市)は五月十八日豊中市民病院に をされると。▼林参無子氏(豊中 祈り申し上げます。▼門永三舟氏 教えられ」手術の成功を心からお 励まされて心静かに手術日を待っ 受けられる。柳友の短冊、 五月二十六日左肺上葉切除手術を 年五月の右肺切除手術に次いで、 た。「公用の旅酔うて寝て味気な いものですとの便りを寄せられ で一泊、仕事を片手の旅は味気な は四月二十日静岡へ、同夜は焼津 て居られる由。「肺手術鯉に覚悟を し」▼杉本一鶴氏(貝塚市)は昨 人院、月末脊椎カリエスの手術を (西宮市)は五月六日鳴尾明和病 一展望台に建設された池田可宵氏 向う一カ月間安静加療 近県川柳大会に招待 寄書に 懐旧

## 柳誌・句集

ぞれ刊行された。定価各百円。発 鶴川柳会七周年記年に際し、それ 楽句集「わが家」和田碧郎句 蠅のれん」が四月十九日番傘折 丹波太路句集「沈丁花」金泉万 集

#### 不朽洞の人々



昔は船場のこいさん 今は道頓期の女医さん(近影)

売 残 1)

阿

茶

られたと何っては一寸淋しい気が

します。帰国前に川柳に関する書

たが、老年には勝てず終に亡くな 所謂苦労人として尊敬して居まし

いかたみになってしまいました。 籍三四冊貰いましたが、それが好 をゆ

うやないの」と本人はすましたものでした。 で歌沢をやる。それが三十年も前の事だからジャー ナリストも胆を潰しました。 ょこなんと坐っている。玉をころがすような声(?) 幕が上る演舞場の舞台に断髪洋装の魔人(?)がち 尖端 く小嬢ちゃんで 「振袖着て外国の歌唱

余り長い間ではなかったです

た。小生が一浪さんを知ったのは 急御社へ直送する様依頼しまし 頼した一浪さん思い出の記事を至 麗、北海南氏へ御伝えし、 計音確認いただき早速この旨魔花

十三日附航空便にて高沢老兄の

が、ウィロー社先輩の一人として

一風変った硬骨漢として、

も一つ

れているのは喜ばしい限りだ。 寧で、誌上に療養文芸の意欲が溢 る。 ・川柳がほおえましく同居してい 養誌「羽曳野」は詩・短歌・俳句 川村好郎各選者の評も懇切丁 安田青風、山口草堂、 後藤夜

治町弓原五〇二へ転居された。

▼原独仙氏

(出雲市)

転

された。

本多久志編川柳句集「親ごころ子 五丁目一八番傘折鶴川柳会。▼若 行所は大阪市東住吉区田辺東ノ町

こころ」が五月五日のこどもの日 に川柳雑誌社から刊行された。一

雄作君の供養にと編者が川柳雑誌

十六年前に夭折された編者の長男

営まれた。冥福をお祈り申し上げ る。 村曲豆(本名豊稲)氏(堺市)は れた。氏は川柳人同人哀悼。▼西 五月十一日死去、十二日告別式が 溢血で唇倒、二十三日十時死去さ た。▼前田盗閉氏は四月十九日脳 日令孫出生、剛さんと命名され 黒川紫香氏(豊中市)は五月十

る。

(かすみ)と改められた。▼本村 遠山一雨氏 (兵庫県) は可 住

ら発刊された。定価十四、半年分 元町六ノ七よみうり川柳友の会か

六十円。▼大阪府立羽曳野病院療

は大阪市住吉区万代西五丁目二五

川柳雑誌社。▼よみうり川柳「瓦

」創刊号が五月一日豊中市桜塚

士の装幀、一五〇頁の美本。定価 る。路郎主幹の序文、田上初雄博 異色ある句集で一読をお奨めす 秀句約千五百句を抽出、掲載した の中から親心子心の至情を詠んだ

五〇円。

送費二十四円。

発行所

氏の句として引用された「大臣に 主は路郎主幹の誤りにつき訂正す なれぬことだけわかったり」の句 摂氏姓氏(大阪市)は文福と改号 五月号二十六頁上段六行目豆秋 は出雲市塩 進呈) 懇親宴三百五十円 り」担当者について協議され実行 委員七○名、総務中島生々庵、 三十四年度の「川雑川柳まつ

児科診療院階上で開催。路郎・生 (薫 三休橋南詰中島小 午后七時から南区 四月二十六日(火 ★常任理事会——

没食子・恒明・湖花・紫香・木客 々庵・文蝶・多久志・好郎・栞・ ・古方・いわをの諸氏出席。

散会した。 場)余興、川柳放談―古方・梅里 費は百五十円(路郎師揮毫うちわ 会等で取決めることとして九時に 同正本水客が決定された。会場は 総務士井文蝶、会計若本多久志、 細は五月の常任理事会、実行委員 ・豆秋其他が決定された。なお詳 心斉橋大丸北ノ辻東の大成閣。会 (同会

科診療院楼上で開催。川雑川柳ま ★新会員紹介 七時から南区三休橋南詰中島小児 ★常任理事会——五月十六日午后 つりの実行委員の持場等を決定。

●アラント ●水溶性ラ インリ 配合

▼田中鳥雀(京都市)正会員 栞氏推薦

★築山快夢起氏(ボノルル市) より 燕·往



て右から) ひか平・氷斯・白猫児・十弦・角遊・文秋・ 十•春巢•亥蝶•腹乃先生•無鬼•雞•鈍子•豆秋•瀬花•良子•一瓢 (中列) 左文字。凡 さ・枝菜・須賀太・二人おいて本客・客遊子・静馬・紅月・一女・ま みのる・良風・孝鳳・瓊坊・贈夫 (後列) 喜天・越山・光輪・一人おいて富士 子・叢代・八単子・初よ・美千代・みつゑ・万世・しげ子・はつゑ・

#### 祝 阜 太 子 殿 下 御 成

#### 篠山支部十周年記念川柳大会

の柳話。川柳とは何か、生活の中 切。路郎師の代理として春巣先生 しまう。 支部柳人はすっかりちぢみ上って ぞれ席をしめればその貫祿に篠山 に川柳を、更に上達するためには 山川阿茶・中島生々庵両先生の 時三十分兼席題

地球大気にあり。路郎先生は御身 う不祥事を起してしまった。 罪は こそ雨よ降らずにと願ったが不幸 哉の晴姿を見せたことがなく本年 の雨は遠路来篠の諸先生に未だ快 らない、いい時がある。それが堀 という大先生がずらりと並び文秋 研費と決意を述べれば大会気分は は此の感激と川雑本社から贈られ が宣する。大会長小西無鬼支部長 遠山一雨氏、開会を前川左文字氏 会場に帰り午后一時開会。司会は 篠山てええやないかと見直され、 る。明けて当日、十一時過ぎより 洞会の御歴々が前夜から大学来 惜しまれたが葭乃先生を初め不朽 御自愛あって遂に来観を得ず誠に にも今度は開花早く落花盛んとい に花咲く日である。気まぐれな春 か三日、日本の何処にもひけを取 蝶・栞・春巣・水客・豆秋・潮花 次第にみなぎって来る。葭乃・文 た優勝杯をめぐっての支部柳人の 旧篠山連隊跡と篠山城趾を観光。 参加者一同貸切バスで兵庫農大の 丹波篠山には一年にたった二日 大会のフン囲気が醸成され

篠山より大挙参会させて頂くつも 期してすっかり散って行った。又 山家六万石の城趾の桜は此の日を ほと感じ入った次第、徳川普代青 れると共に柳人なるかなとほと う。その健吟ぶりには全く驚かさ 文蝶選の車中句会を開いたと云 見れば大阪までのデーゼル車中で 十悟氏から早速礼状を頂いたが 追記、来る本社川柳まつりには

・一ン十・静馬・一乃字・良子更

に鉄道人グループ等の鬼才がそれ

労者に感謝状の贈呈があり終って 披講にうつる。 った。次で無鬼支部長から支部功 者が時間を縮めて誠に申訳がなか と初心者にわかる手ほどき、

篠山町立町孔雀会館

拍手の内に幕をとじる。 っていた。岡沢凡志氏閉会を宣 日の感激と闘志に出席者の瞼は光 る。篠山の柳人も大いにがんば は朗笑と感嘆のタメ息とが入り混 り「城跡」葭乃先生まで、 貫録はさすがであった。だが此の たが如何にせん。壮々たる大家の 席題「内証」潮花先生から始ま 会場に

> 者には文蝶氏を推して席題帰り途 気昂った一行は、三田駅締切、

選

(三句) に取組むこととなった。

ら握手やらにぎやかな事である。 ーに乗り込んだが、別れの挨拶や て此処仕立の美しいディーゼルカ

其上清酒一瓶が贈られたので意

腕を発揮、潮花先生が遂にいたた も支部の者全員がかくし芸にその うまでもない。遠来の客も先生方 デカンショの踊りがあったのは言 で春を、川柳を、人情を謳歌した。 終列車にかけつけるまで心ゆくま 間に会場のフン囲気を盛り上げて まで柳人の持つ近親感がまたたく の一ツ。諸先生から参会者の末席 えばその盛会が想像願えよう。 まれず背広姿で舞われたことを思 引続いて懇親会、酒は篠山自慢

> 帰るさの別れのキッス忘れまじ 帰り道阿呆のまじる面白さ プラカード肩にずっしり帰り途 秋

らしく割合におとなしかった。 制されたが車中の行儀は、風流人 天地人には紙コップ一杯の賞を強

帰りみち

文蝶

(1記)

帰り途まだ飲み足らぬ紙コップ

一ン十

よろめけば温泉もある帰り道

帰り途明日は働く顔で酔い

帰り道別な女に又出遭い

帰り道持たぬ美智子はほほえめり

潮

愛

車内まで酒を持ち込む帰り道

ディーゼルカー

みんなが飲んで帰り道

習

一ン十

帰 車中 句 会 途

ン +

篠山口までお見送りをいただい

子・泛ガ・文蝶・紫香・蘭・生々庵・一 子・す、む・半歩・葉乙女・〆女・六竜

来て見れば砂浜だけの壇の 砂丘今日シャムの砂漠に早替り

浦

砂浜にくらげうかうか逃げおくれ

絵葉書の通り砂浜暮れて

来

ず

こんど逢う日を砂浜へ指で書き

小松園

# いのちある句を創れ



投稿規定 本社宛
本社宛
本社宛

#### 本社 五. 旬 会 (大阪市)

会 月 場 文楽經別館三階 生 後 時

5

7 H

6

を飾っていただく

下定である。 月句会のページがひらかれる。「巧まれ ない技巧」というこの柳話は次号の本誌 は、医博中島生々庵副主幹の柳話から五 面に黒板もあるという川柳大学の数室で たまには洋室もオッなものである。

ける山川阿茶さんに輝く。 である。五月の不朽洞賞科は好調をつづ っていくのも人気のよさをもの語るもの あらわし、またたくまに本の山が低くな ・文秋・鳩花・満秋・旅風・一栄・清子 ・一ン十・華育・有岡・狂二・武助・保 大・白溪子・寝子・摩天郎・良子・悦子 舟遊・敏明・高史・晃・進之助 新石・南宗・多久志・静馬・栞・古万 井平・永断・悟郎・柳志・十悟・昌男 句集「親ごころ子心」が早くも魔姿を 潮花・木堂・与呂志・薫風子・いさむ 出席者―路郎・圭井堂・一三夫・光輪 ·柳宏

> 柳・三司・小松園・梅里・牧人・いわを 瓢・操子・芳子・好郎・勝一・庸佑・白 梅志・阿茶・宏子・葭乃

#### 兼題 浜 麻生 葭 乃 選

砂浜の何処まで恋 砂浜に着物と母とだけ残こり 砂浜へ出てからやっと嘘がつけ 砂浜のロケへきれいな虹が立ち 寄り添えば雨の砂浜人が 砂浜の貝はかっちり口を 砂浜の足跡波が追 砂浜の恋砂 砂浜のつづく限りに 砂浜の二人を療養淋 砂浜に酔いさめる迄いるつもり 思い出のみち砂浜へつづく 道 これっぽちの砂浜があり船がつく 砂浜へ初見の陽差しを慕う試歩 砂浜の波にスカート上げさされ 拾い手がまだない浜の桜貝 砂浜の小波 芥を持て遊 砂浜に立てば背伸もしたくなり 砂浜に産地と知れる雑魚を干し 砂浜の春を素足に スロースロー砂浜歩く純 砂浜の母の 運のあるのが砂浜へ流れ 大漁の旗で 砂 浜の便り二人で羨ませ 浜に坐る河 浜 目 童 浜 から を歩く 味あ は中 追う の足 か 続 気 く見 < わ 袋 \* Vt 松 U 恋 < 炎 め 葉乙女 多久志 薫風子 六竜子 摩天郎 梅 梅 悟 ーン十 文 古 蝶 甲

> 砂浜のみちぐさ雑魚の値もたずね 母とゆく砂浜今日は熱も 汀までかがとで歩く午後 砂浜できたえた足がテーブ切り の砂 なく 葭 阿 昌 寿 茶 男 ガ 栄

砂浜に寝る逢曳のかいしょなし

## 兼題「かんしゃく」清 水白 柳 選

かんしゃくの釘は歪んで打ち込まれ かんしゃくが直ったらしい爪を嚙み 女さとかんしゃくに身をいるがえし かんしゃくへもう間に合わぬ時計鳴る こわれない玩具かんしゃく子が立てる かんしゃくのやり湯がのうて寝ると決め かんしゃくをおこしてみてもひこりきり 仲裁に来てかんしゃくを立てて去に 妻も子も忘れ書類を叩き 付け かんしゃくのことにもふれた飼育法 かんしゃくの後の酒とは知らざりき 歯痛しくしくかんしゃく玉へひつかかり 末っ子の顔へかんしゃく置き忘れ つべこべと相手のかんしゃく煽りたて 竿で水しばいて釣をやめにする かんしゃくの捨て場炊事の音が派手 かんしゃく、逆らう度胸を見直され かんしゃくを起こしてよるの子もなぐり かんしゃくへドアがきっちり締らない かんしゃくも相手にされぬ頼りなさ もつれ糸俺のかんしゃくためすよう かんしゃくをやっと堪らえた子沢山 かんしゃくを尺取虫が笑いに来 かんしゃくの捨て場夜半の煙草盆 かんしゃくへきつご子をつれ風呂へ逃げ かんしゃくへ猫の欠伸も気に入らず 光秀の歴史はかんしゃくだけでなく かんしゃくの骨は左遷の地へ埋め 発泉院になりたく無いと<br />
妻練め 小松園 何念坊 圭井党 白溪子 いわを 紫 一ン十 晃 敏栞淡 保満井有 ーン十 紫 武 敏 保 良 清 水 有 明 助 岡 岡 堂 司明

> かんしゃくをおこすと皺がよく目立ち かんしゃくを立ててる横でお茶が沸き かんしゃくで封じる為に子を泣かし かんしゃくを内攻させたまま暮れる かんしゃくも立てす集金また帰り かんしゃくを起こしのけそり忘れて来 否込みもかんしゃく早いのが取柄 かんしゃくの濡れて戻った頃に止み 下駄の緒を切ってかんしゃく戻ってき 父親のかんしゃくみんな飯を食べ かんしゃくのスィッチ切ってすがすがし かんしゃくも孫の悪戯には勝てず かんしゃくを起せば父は吃るなり 末っ子のかんしゃく飯を残こしとき かんしゃくが弱いところを選ってくる いさむ 永香 いさむ 女断史 梅 保 浩 水 好 青断林堂

#### 兼題「テレビ」 丸 尾潮 花 選

チャンネルが替ってみ腰すえ直-さっき見たテレビ料理が出た茶の間 お隣のテレビへうちの子動かない お二階のテレビ見に来いとも言わず しょうもないことをテレビで子が習い 診察はテレビの野球背で 聞 テレビもおますと留守を頼まれる 費い風呂のべんちやらテレビも見てかえり 酔うてないのにチラチョするテレビ テレビ熱はしかみたいに子にうつり 外出の帯をしめしめ見るテレビ テレビをば買えば畳がよくいたる オトラさんのテレビへ女はも来て笑い 宿題へ親もテレビを切って立ち 雨もりも壁も直さずテレビ置き テレビ見る角度タンス テレビ置くので仏壇の位置を変え アンテナが月賦だっせと言わず立ち あの家もアンテナ立てた子沢山 へ寄り掛り どんたく 多久志 多久志 圭井堂 楠 晃 半 昌 + 蘭 蘭 栞 白 步男 子 悟 茶 鶴

テレビはやっぱり母の部屋へ置き 潮 花中の目の腕はテレビで見た料理 芳 子母の日の腕はテレビで見た料理 芳 子母の日の腕はテレビで見た料理 芳 子

# 兼題「実 カ」 八木摩天郎選

親のない子の実力は見てくれず 番付けに見る実力の浮き 天才と言われ実力あなどら 子の代になって実力もううすれ 実力を買いかぶられた袖 実力は嘘も誇張もない素 振 実力でこいと反身でたた く 胸 迷惑なほど実力をかいか 実力はほめ説教も して 実力をちゃんと知ってる如才なさ 実力を出し切れぬまま初 舞 台 実力はどうあろうごも地位は地位 実力で来いとはコネのないうらみ 実力やおまへん波に乗っただけ 実力の差へ入選の今日の 地 位 実力にものをいわせた設 実力はべたべた印を押すばかり 実力にものを言わせて買いまくり 実力がないと不惑の齢で 知 実力で成功したと言い切れ よく死なし医者の実力うたがわれ 実力はあった筈やと子をかばい 抜てきをされて実力見直さ 実力だいや運だよ と 平 東大という実力に押しきら 実力で来いとライバル言いたそう 実力はあるがお金のない候 負けこめば勝負の世界みじゅすぎ 実力で入社れと叔父のそっけなく 沈 ぶり 帰り 社 の下 計 ŋ 与呂志 すいむ 柳宏子 梅 いわを ー ン 十 武 静 いわを 良 悦 一三夫 潮 高 助 史 子 郎 茶 岡 舟 風 里 花 馬 鶴

実力よりコネが物言う世がきちと 摩天郎 実力がものを言わない世と悟り 多久志 実力がものを言わない世と悟り 多久志 実力にプラスァルファルがの地位 光 輪 安力にプラスァルファルがの地位 光 輪 ケルステルステルス・へ気を合わし 文 秋

# 席題「手 品」 菊沢小松園選

手品師の遊んでる方の手が怪し 手品師のポケツで金魚息をつめ 手品師の後は黒 妨から習うた手品とも言えず 街頭の手品師うしろの子を叱り 言い訳は手品のように渉らず 兄ちゃんの手品横から見破られ 奥伝の手品の種は伏せて お 手品師になってもみたい月の末 勿体をつけて手品の種あか うしろから手品の種を覗き込み 手品よりほかに取り得のない夫 手品する銚子仲居に借りにやり とうちゃんの手品で酔いのほどを知り たあいない手品にかかる子がいとし 玉子出たとこで兎に角手を叩き 宴会へ手品は酔わないうちに見せ かくし芸音痴手品で茶をにごし 子へ見せる手品夜店で仕入れて来 先生の手品を幹事もてあ まし 手品師の指は六本あるごと く とっときの手品でどうべら場をにとし 万国旗になって手品はしまいなり 手品師の裏から見てて面 白 手品より口 ハンカチの手品が夜汽車を楽しませ 上の方面 いい黒 L) 白 幕 3 小松園 薫風子 与呂志 すいむ 保 摩天郎 一三夫 一三夫 シナ 甲 花

席題「目印し」 長谷川三司選

実力がスターの地位をゆるがせず

46

この辺にたしかポストがあった筈 目印しにだるまやとありだるまの絵 目印しの角の酒屋で飲んで聞き 目印しのとおりに行けば突き当り 目印しの塀落書を見て曲 十年一日の如く目印しになるポスト 目印しの代わり幹事が立って居り 目印しの家がなかなか見当らず 目印しをも一度聞いてる赤電話 目印しの神社を斜に拝ん で来 探し当ててから目印しのことにふれ 目印しの地蔵が草に埋れて 村一番いじけた松を当てに来い 私ひとりが知ればよい目印してよく 名を書いたこうもり又も替えてくる 目印しはキリスト教の赤い屋根 目印しのネオンが消えていてあわて 目印しが思い出せないじれったさ 目印しは雨に打たれたままのこり 矢印しの途切れた角でききなおし 目印しにシャッポへタオルまきつける ハンカチの色目印しに出迎える 辻折れてからの目印し見つからず 目印しのはくろも入れたモンタージュ 三一三夫 阿 いさむ 栞 梅 梅 武 水庸 有 古 牧狂 悦 旅 子 堂佑岡茶方 里志 圃

# 席題「湯上り」 金井 文秋 選

湯上りを古妻ながら見直 湯上りに迷わぬほどに老い給い 湯上りで電話失礼いたし 湯上りの女は憎い線を 湯上りを待てず一本空に 湯上りの女になっ 湯上りの素肌に近 湯上りへ夜風程よく吹いてくれ 上りの下駄でこけしの店へ寄り いて来た湯上り た腰 へ妻 い 夏 ま 見 す 3 0 0) 0 す る せ 風 牧 ー ン 十 梅 里 花 宵 夫

## 天位受賞者

(五月現在)

④一三夫・③生々庵・保美・阿茶・ ②梅志・潮花・①水客・幽谷・永断・ 黙平・十悟・月都・多久志・文蝶・白 柳・牧人・博也・旅風・圭井堂・六竜 子・古方・操子・光輪・栞

# 不朽洞賞杯受賞者

生々庵・一三夫・文蝶・保美

全出席者
 年乙女・淡舟・白柳・文秋
 東乙女・淡舟・白柳・文秋
 東乙女・淡舟・白柳・文秋
 東乙女・淡舟・白柳・文秋
 東乙女・淡舟・白柳・文秋
 東乙女・淡舟・白柳・文秋
 東乙女・淡舟・白柳・文秋

湯上りのふんどし男をけなるがり 湯上りの着るには惜しい風が吹き 湯上りへへちまが覗く垣根越 湯上りに珍客と言うあわてよう 湯上りの色気もあせる大やいと 湯上りのパパのお腹がまんまるい 湯上りの素足が白い宗右衛門町 湯上りの数が揃わぬ宿 湯上りの化粧旦那が来る日なり 湯上りの順に下座はふさがって 湯上りの赤ん坊バトンのように受け 湯上りへ風が冷 湯上りの姿態鏡へくねら せ 番台と湯上りのまま話し 好 湯上りの裸へ娘眼 を そ む 横綱の湯上り拭くやらあおぐゃら 湯上りのしずく光っている胸毛 湯上りのはだ桃色にして肺を病む より戻す気か湯上りの肌で来る い 山 0 る 3 H 宿 柳宏子 摩天郎 多久志 好 いさむ 一三夫 一三夫 南 庸 美 茶 宗佑男

子には子の似合うたひげのある絵

どさくさの中から抜けてハネムーン きらわれた鯰一人で焼いてたべ 汚職してなまずのように生きている

美 子. 朗

消ゴムを忘れたらしい指

0

温室の外で寒菊咲きほこ 消しゴムも持って宿願見せに来る

ŋ

宵 志 舟

湯上りの 話くしゃみ して別れ

栞

### 川雑 淀川支部 句会 (大阪市

庸佑清記

朝帰りのネクタイ少しゆがんでる 忘れものみたいに 二人 夕桜帰りの 暗さ忘れ さ 暮れかかる桜へ詩人去りやらず 日本語で上手にほ いつもより早い帰宅を妻案じ マラソンの様に新婚帰宅する の眼 痛 め る夕桜 い夕桜 武部香林選 三十郎 六竜子 さぎす

# 阿倍野支部句会 (大阪市

金井文秋報

十五坪ちぎってくれた二人の巣 十五坪の家へ注文 多過 ぎる 十五坪理想はここ へ 庭 親が持つ期待大きくランドセル 養毛剤毎朝ふって しぶちんを見込んで二代目をつがし しぶちんのパイプへやにがへばりつき 若草の広さへ仔馬よく 若草の露がひたひたくる 素 大望は遠く若草の香にむ 祝杯の席恩人へ広く しぶちんがまたまた小銭ないと言う しぶちんの眼鏡の片っぽ紐のまま U る期待 走 せて あ 足 薫風子 六竜子 すいむ 一三夫

先客に尋ねてからの値切りかた 先客が 居るらし園の 咳ばらい 御帰りが又外泊に なる 電 話 いつ帰宅したのかちゃんと寝間におり

句念坊 多久志

先客は住友さんで引き下 が り 先客に先を越されたエチケット 先客の靴がよすぎて隅へ 脱ぎ

にしなり支部句会

(大阪市)

後藤梅志選

柳宏子

# 玉造支部句会 (大阪市

西

出

栄報

大鯰とれたお堀の 人 だ か

ŋ

也 器

転任をしても鯰と 言う 仇 ひようたんと鯰を描いて世にすれる 金のある内は世間がほっとかず

すいむ

犯人の世間に済まぬ顔もせ

恋人がまだ来ぬ開演前の ベル

薫風子

友を捨てたかが課長と言う出世 おべんちゃらばかりの中に居る孤独 勿体ないと人の分まで持って去に もうけたと臨時休みの平 社 欲張って持てば横から転げ落ち 名前負けしたか一向に出世せず 不意の客臨時にみんなのをへっり 員

## 川維 篠山支部句 会 (兵庫県)

篠山支部十周年記念川柳大会 祝皇太子殿下御成 (趾) 」麻生葭乃選 (天地人と融略だけ発表) 婚

城跡を石屋石屋の眼で見 城跡は図書館となり咲く桜 花折るな折るなで城へ導 展へ城趾の堀もつぶす楽 兼題「先 生 かれ やり 春巢選 ー ン 十 静 馬奇

にらみのきかぬ顔に長男生れつき にらみ合う仲で義理だけ行届き 気の多い男はんえとにらまれる 先生もお口がうま 虎の巻どおり先生 一線を退いても先代のにらみきき 舌学した先生と聞く太い 一前雀羅先 生 は 兼題「にらむ」 西 い謝 間 政治好き 違える 恩会 栞選 紅 永 求 断 女月 村々 遊

前祝いすでに予算を 上廻り デカンショの踊れないのも居る篠山 篠山もつくしのようにテレビ立ち 御成婚遠いとこからお祝し お祝いの言葉座敷へつつぬける 行列が出そう篠山城の門 い出の篠山ラッパが聞えそう 兼題「篠 兼題「お祝い」 山」小西無鬼選 土井文蝶選 喜久枝 多久志 ゆたか 花 東岸 圃

これは内証だんねんけどと酔ばらい お互に女に持てる お互に明日おも知れぬ老 仲 間 あなたこそ美しいわとはめ返し 丁重な言葉 互 兼題「お互い」 席題「内 証 を捜り合 顏 で 丸尾 酒井ひか平選 なし 潮 花 良 烈, 子 金

> 内証もう母へ届いて叱られる 大げさにすねて女将の内証ごと 耳打ちをして満ち足りた顔になり 一乃字

鼻唄が出て耕耘機 調子よし やせるのにこれとパトロン歩かはり 鼻唄で他人の下駄を履いて来た 鼻唄の掃除は脚で物をのけ トロンがあるんかないのかくどう聞き トロンの真剣な眼を無視しとく トロッの様に我が娘に付き歩き 席題「鼻 唄」 席題「パトロン」正本水客選 須崎豆秋選 ひか平 一乃字 ひか平 月 巣 穂

## 西宮支部 発会句会 (西宮市)

鼻唄で坂道

下りる夕桜

岩清水代ってリュック持ってやり ゆる褌で孫のやんちゃを追い廻し 馳け登る若 草 山 おばはんの機嫌と判る盛りのよさ おばはんと言われて淋し嫁きおくれ 末っ子のへまは笑いで迎えられ おばはんと気軽につけで飲んでゆき 水に馴れ故郷を言わぬ妻になり 退院を明日に植木へ水を やり 日が暮れて一人やんちゃが帰らない パパのしたへまへゃんやと手を叩き 花の下折詰だけで 長閑 なり 折詰の昆布巻だけを残しとり まかしときおばはん粋なさばきする 市場籠おばはんうまいこと値切り 芸の冴え渋い人気を持ちつづけ 頭かいた方がやんちゃをしたらしい 悪役になって人気をとり戻し へま一つどっと笑うて座がなごみ 裸にも馴れて人気を持ちつづけ も春 0 すい 一本歯 ーッ十 珠 千 寿 弦 浪 夢 子 悟 秋 墨 栄歩 む杯月六遊子路

#### 日曜は日曜の音が 先代の偉業を世間もう言 女房と世間のことにふれ 世間から相手にされぬ子をかばい スト釈明そんなに甘くない世間 ちょんまけの世にもどったらいいのにな しあわせは世間がみんなあたたかし 温室と知らずに花の咲き奢 温室を出て花の名をみな忘 する 世 b 3 間ず 弯 n 慎太郎

雲下に登った道を消して ゆ おばはんの実力五六票ほど集め パトロンを替えて人気を持ちつづけ 表札をまた盗まれている 人 気 粕くさいとこまで新酒は褒められる 新酒やと言うているからまだ確か 新酒より下戸はお茶漬食いたがり 石段を登ると場が 出 迎 え 3 3 多久志 青 泰 静 凡 路 汀 馬志光

## 明和病院支部 (西宮市

固定した魅力へ飽きの来る弱さ 風変りなコレクション狂で名を上げる 賞金の魅力に音痴まで 恋人に見て貰いたいデラックス コレクションばかり気にしている旅路 錆を落としたら叱られたコレクション 踏台の中でネズミの子が 生れ デラックス衣裳は仲間からはずれ コレクションこわれかけたのも並び 春だのにつまらな相な顔してる 僕の目にウィンドデラツクスなものばかり 食欲の魅力満たして胃をそこね デラックスケーキで胃弱見舞われる 踏台をつかった智恵に皆あきれ 相原 唄 5 善報 美音子 飴ン坊 ゆき子 銀 狂 まさえ 芽

エネルギッシュ小春日和へ落ちっけず

吐 緑

泉

新婚の夢を子雀起こし 子雀が顔負けする程良くしゃでり 草笛を聞けば音痴のようでなし

どで

南

鉱

楽沙

紅

色

句念坊

エネルギー薬で継なぐ年になり

ネルギーふりしぼってるゴール前

エネルギュッシュまだ夜業の灯をともし

伊三男

さようならが言えず草笛吹いた路 勾配へ汽車もあえいでいる 煙

山茶花

銀

子

竜

児子

告

蘇

藤四郎

坂道を一気に登る 程

K

施え 直原七面山

慈

122

エネルギー小出しにうまく世を渡り 臓物がもう利いてきたエネルギー エネルギー使わず選挙智恵で勝ち エネルギー過剰グルーブから別れ

# 木次支部句会 (島根県)

残業のエネルギー一斗壜を据え エネルギー摂れと鰻屋如才なし

侃流洞 吞喜坊

住宅難婚約だけは 井明 朗

草笛に五十の息がとぎれ

から

七面山 ちとせ

小松支部句会

(小松市)

伊藤茶

仏

報

そのままの蕾でほ 落椿踏むには惜し 遺産分配雀の涙は

紅 0 1 12

山椿目白の恋へ

宿 L V

を V

旅の宿胴巻の金さぐって見 ミッチーにあやかりたいと婚約し 桜土堤噂通りの 婚約のニュースへ蔭の人は泣き 血圧が借金額まで 血圧を言い言い老妻の酌を受け 地図だして親は子の旅追ってみる 家出して旅の一座へ名を 万言も真似て旅行の土産 血圧を案じつつ飲む 花 皿圧へ止められた酒のうまいこと 漸くの椅子へ血圧 皿圧は心配するなと 血圧が高いで粗食に 豊作が血圧よけい 血圧を薬で下げて 年間貯めて二泊の旅を 組 仲が Ŀ 高 酒 ŋ 12 切 < 桜 で 連 出 見 出 替 す 2 き L 酒 る え 迷調子 多津朗 起久代 房 多 舟 明 幸 洋 11 栄 榊 冬 明 佳 一郎 帆 朗 夫 1 川治 原 橙 暗仙喜

愛称で呼び交しまま親となり

みどり葉

12

生

風

n 出

る る

ŋ

宗太郎 茶の香 どこまでが親身女がこわくなり

義

色恋と別に親身な世話に 見せかけの親身継母の保 金にもの言われ親身を遠ざける

なり

風仏枝

女中さん親身になりすぎ口がすぎ

千太郎 たつ路

# 倉敷支部句会 (倉敷市

眉太くエネルギュッシュな赭ら顔 停電に二人だけ居て固く座し 文明が当惑 してる 停

溜息が出る日の窓へ

青

U

空

味

俊

停電のどさくさ小言ほっとかれ

日

平夫

溜息をついて恋とはこんなもの

妹じゃないと下宿はもめており かりそめに賞めて自信をつけるせる 自信とは別に不運なくじを引き 当選に自信があったとうそぶかれ 裏工作成って自信を取りもどし 処女作がヒットしてから自信出来 新しい自信に燃えて 復職し もう泣くなまかしこきなと胸で受け 下宿屋の親切そろそろ恐くなり 自信つき退院すれば世が変り 最後には自分を信じるだけと知り 下宿人置いて噂を気にしだし 試験期の下宿に昼寝つづくなり 青雲の夢が下宿をかけめ ぐる 自信ある顔冗談と受けてお ハンサムの自信ブレゼントしない 自信なく投句したのが天に入り 自信家がだんだんノイローゼになり 西尾青 ŋ すみ江郎 さとし Ш 夢 球 良 策 義 舟 路 路 絵 可平子栄 謡 遊 雲 月

## 京都 支部句会 (京都市

民主主義むごくも親を逃避させ ふぐのひれ干して焼いて特級酒とたる すべてを奪われ放尿の塀がある 逃避すりゃ長距離電話又も追 やむを得ずるしるし亀を明っとき 流動の水にまかせた花の 不渡へ流動資産の 流動す仕掛花火の 春の河豚四十路の恋のスリルほど 寸した逃避パラソル傾 帳 火 海見 0 いける H 一中鳥 影 る 雀 ゆきら 和三郎 句念坊 鳥 樂 報 雀 蘭 牛

### 川雑 下関 支部句会 (下関市

湯の宿で手形の苦労も忘れてい

素百々

野村味平

選

大聖寺支部句会

(加賀市

溜息をつけばつくとて倦 税務署も手形も縁のないくらし 手形など男にまかす倖わせさ

怠

期

雄 代

停電もまたよし月がさす 夕 鮈 石川侃流洞報 椹 111

> 九呂平 詩酔痴 陀羅 ほなみ 血圧は高し子供は喰 家出までして婚約にこぎつける 旅鞄子に取巻かれ靴 川維 支部句会 を V (岡山県) 盛 脱 3 ŋ

四郎丸 雄 白

k

# 婚約が決ったらし い

Ξ

通

話

[II]

大西迷窓報

見えすいた嘘に賢妻逆ら 案内状幹事あだ名を書き添える 愛称で妻を呼んで る 酒 愛称が新任式でも うきま 愛称で呼び恋愛と思わ 愛称へ女将笑って 酌

ず

やすえ

0)

息

南

正柳子

女待つ今宵ふすまの音ば

か わ

ŋ

川雑

高知支部句会

(高知市

律義者家へ連絡とり

通

阿

ワンマンカー色気ないのがもの足らず ロンマンカーこれもあちらのお智慧らし ウンマンカー曲りますとは言っとれず 老人をもてあましてるワンマンカー 味気ない思いでリンマンカーを降り ワンマンカーおのほりさんをまごつかせ マンマンカー落ちつかぬ額二つ三つ 運賃を横目でもらりフンマンカー ワンマンカー釣銭貰うに気がねをし

泉

秋

畫 貴 主 和

カー車掌を離縁した姿

主

水

子沢山すっかり律義者に

30

石

おちぶれた元の主人へつけとどけ

わ

ず

生々庵

哲 茶

枝郎

天気晴朗ワンマンカーののろいこと ワンマンカーせきもあわてもせぬ姿 姓名も活字制限ままに 肉親を探す活字をさみし 御成婚ひとしお待った恩 赦 天引きの二割が僕のマネービル 俺の名を活字にさした梯 現金の強み二割を割引 月給の二割はパチンコ屋

せ

ず

平年作道

く見

組

は民

つ間

委員長派手な徽章を胸に 御成婚人気の的

111

柳 会

(大阪市)

麻生路郎先生選

笑っても律義に見える律 義 律義者同志で夫婦折れ合

夕陽背に子と倖せな影を 職のある倖せ朝を早く 倖せは嫁が浪曲か 持てばやむ雨へ出前はぬれて出 情の目でつほみ見られてるとは知らず ままごとへつほみのうちから刻まれる 欲などは持たずこつこつ貯めている 馬券まちまち欲にからんだ目が光り 小鳥ちち欲情溢れる春となる 欲の無い子を叱ってる親 の 欲 喰う物も喰かずに貯めてはぐり死に 社長よりチップの多い方がもて 倖せは兄弟喧嘩が 出来る 嫁ぐ娘の倖せ祈る母 出前持ち旦那の来る日知っており もう一つ貰ってもいい顔になり U てく 0 (字部市) 5. 起 仲 俊 蟠

蛇郎

宇部 支部句会

二へ投資

津

子

ロンマンカー不気味な奴が一人乗り ワンマンカー客に客きく停留所 ヮンマンカー場末場末と追いやられ

転士後のドアへ 眼が光る

和 丰 泉

秋

好 進 郎 か

秋六 花報 ワンマンカーついて走れば止めてくれ あてはまる数字ないかと帳簿繰り 会計は綺麗な札を取って 居 き 进

(大阪市)

勘違い仲人破談言

い出

山の風が冷たい奥

座 せ

圭 南 好

水宗郎

新米の娘に親切に 結婚前男性飼育の

L 本

物さ

n

読

2

山茶花

野々口美舟報

合格の条件ヒップが小さ すぎ 奥座敷声も聞えず手も鳴ら ず 合格は妻の故郷へもウナが飛び 勘違いしているらしい返事する ウインクは俺じゃなかった籔にらみ 勘違いしてほし妹連れ 勘違いしてる社長へさからわず 奥座敷祖母が機嫌の三味が鳴り 合格の膳に鰯が添えられる ばんばんの当落他人に見に行かせ

ゆたか

新

石

雄 庸高 狂

声佑志

ワンマンカー客をお尻へはいて出し 圭 木 報 のぼる 句念坊

明 研 会 (西宮市)

御褒美を子に選ばして合 初声は男らしいぞ奥 モーニングが仕事着という公益社

格

日

座

声 重く から 樋口 なり 枯 舟 遊 薫風子 牧

耳打ちへもう病人の気がひがみ 男前よりも度胸にほれな 男前世辞には弱く育てら 男前ふり向かぬのが気にさわり 豆の数食っとりますご知恵を貸し 豆腐屋の声へお鍋が走って来 ケーブルで耳のつまった 肚を割る男の声が 夕刊を売る少年の 云わんでもいいのに男前を下げ 騙されてから男前恐くなり 豆半ば腐り納豆に 出 豆を売る老母のそばに鳩が居り 重箱の隅で黒豆小そうなり 水ごりの声かけられて寒うなり 細工な女を連れ た男 世 話 す さとし すみ江 十由 北半庸 球 夢 太郎

郎

南海電鉄川柳会

子の感に手ぶらとわかるお客が来 手ぶらでと招待状へ申し そ え 後味の悪い出掛けの不機 手士産の代りにキッスとは嬉し 手ぶらでは気がひける程もてなされ 一票の差で当選のほろにがく ズルチンの後味をもう忘れかけ 撃退は見事にしたがポスときき やむを得ぬ嘘でもねむれぬ律義者 味のわるさ無心の客返え 釣の手ぶら寒う帰って来 嫌さ 生々庵 生 珊 11 阿 一々庵 枝郎 哲 伸

歩き

3 3 柳 会 (堺 市

村好

句念坊 郎 律義者口先だけでよろめ

H

す

男前だわねとハゲをなぶりよる 夏蜜 相むく夫からいたわら れ 共稼ぎどっちも蜜柑買うて来る 蜜柑たべたべ暖房の事を云う車中 箱で買うた蜜柑もうない三カ日 耳打をする人が居て場が 年豆の数ほど金も増えも 耳打ちの傍通らねば行けぬ露路 耳打をしたのがお客にもきこえ たけるベ川柳会 (岡山県) 白 せ す 参無子 すいむ 柳 舟 旅 一本歯 遊 風舟傘

負けてやるかわりに嫌なおかずにし 大安は末の末までうけあ 偽だとは知りつつ夫の嘘にのり 飽いたよと言わぬ許りの大欠呻 結婚の二人が笑っている祝 良くなれた手を神前で握らされ 善人が冷汗かいた小さい う そ 新米の教師なまりで親しまれ 嘘を言う人とは見えぬのが汚職 新米が巾をきかした社の 落 b す Ħ ちとせ 賤

111

里 0

鮨と料理と酒

梅

★大万川柳(第 百 回)を募る 路郎先生選 句数五句以内

締切・六月十五日兼題「塩」

投句は 阿倍野区松崎町三丁目発表・六月廿一日 (唐内護示)

賞」刊行は快調に進行中であ かと心配している。「新川柳鑑 うことはごムリではないだろう 組みの都合で五百数十句に

宿替も今度は番地ないと

てお願いしておく。

ては非常に厳格な方だけに重ね

ことについ

#### 青 ~ 赤 .

どりのほうが読者に

八月号へあなたの

\*二句以内。

暑

である以上、色とり

親切ではないか。

夜族はみなそうであろうとおも いから経済的でもある。世の徹 がしのぎよいし、燃料もいらな るボクには、寒いより暑いほう 寝て、夜になってから仕事をす 美しくなる季節でもある。昼は もさわやかだし、これから夜が ーショカということば いよいよ次号は川

見舞廣

中

★一口分は五分の一

段組三行。

じめからたいへんなお仕事だと ▼先生の「名句と難句」は、は 大舞台と大広間はス ある大成閣は、その ゴク豪華なもので、 る。こんどの会場で ないよろこびであ ていくことはかぎり だ。年々盛大になっ 雑川柳まつりの月

くられた、先生の、 キットご満足願える ▼南北翁の霊前にお 完全冷房なので上着 ものと思う。それに 地方の柳人諸氏にも しかろう。 し持参のほうがよろ

よろしい)

雑

社

誤句という

く。先生は

先生に、これを毎号ご執筆ねが なか時間がかかる。ご静養中の おもっていたが、はたしてなか

南北句碑と路郎主幹 (萱沢箕僖子嬢撮影) なると言っておられる

でもいいだろうが、雑 報まがいの本ならどう で梅里氏と阿茶氏に2 こで肩をはぐらす意味 ▼本号はちょっとカタ 誌という「よみもの」 ページお願いした。 イものを多くした。そ

が一つふえることにな ないかとまたたのしみ が、これには書きおろ しのも相当あるのでは ぐその場で「訂正の無力」とい 報じた読売紙上では、 先生の句なら本誌を調べて書い まま引用した」といってきた。 う一文を送ったところ、 ないところ」になっていた。す が、翁の句碑と記念亭落成式を てもらったら、こんなことには し文責記者から「案内状をその

がある。川柳を知らない人が勝 傘〃にも当時「の」がはいって いたので訂正してもらったこと ならなかったのである。川番 手に書いて

**★**一口金二百円。幾 ★一口分の原稿は住 所と姓と雅号程 まかせ願います。 度。活字指定はお 口でも申込んでく 中見舞広告を とではな れはよそご 出したそう 無責任なウ るときは、 句を引用す い、他人の である。こ

ださい。

と(郵券代用でも 願いしてお さい特にお 調べて書い 書かず一度 よう、この ていただく ロおはえで

作柳樽は薫風子氏が、 ▼川柳塔の清記は梅志氏が、近 し身をけずっている。この場合 万全を期

一番地の

特別課題「親譲り」参加規定

折り返

何ください。 の方は支部長が一括してご送 きることになりました。支部 本年から一般の方も参加で

句等の裏面に所属支部名と 姓と号。一般の方は、 ンチの句笺。 姓名と号を楷書で記入。

\*用紙 縦20センチ、

横3セ

呈賞 切切 勝した場合は、麻生路郎 るように、支部及び準支部 勝楯は本社の獲得となる。 を得ることはできるが、 に属しない一般の作家が優 本誌2ページにもあ 六月二十日本社着便

▼暑中見舞広告にご協力ねがう ▼川柳都川五月号で、ボクの書 というケースもないではない。 原句に忠実であったがため誤字 ときがきました。よろしく。 ことに基因するのではないか。 ったのと、ございます調でない ようだが、ボクの筆が足りなか 対し何か考えちがいをしている いたことについて、大阪柳界に (二三夫)

★広告料は前金のこ

日着便

★原稿締切は七月五

#### 精神神経安 定到

般バ



- 製藥 第 東京日本橋

精神的緊張、7 眠をもたらす。 等に有効。 立ち、就眠には自然の安 り、癲癇の特発性小発作 不安を除去し、能率の向上に役立ち、 筋肉緊張痙攣を除去し 肩こ

所 難波高架下 視和クラブ 題 立体交叉・神経・つじつま 庸海電鉄句会	所 旭町二丁目 金塚会館 題 芯・小銭・表情 研究類 真	所 堺市九南町山フロ八木摩王郎居 題 内緒・値・郷愁 堺 句 会	時 21日(日) 六 時 信心・舞扇・めだか 振田海町通一の一 後藤梅志居	所 堺市老松町三丁島野工業KK 題 招待・雨準・末っ子	所 市電玉造南百米 大阪信用金庫 題 別室・新語・似合い 世 智 句 会	所 天王寺小学校 題 偶然・思いつき	所 十三西之町五丁目東淀川郵便局 題 無理・阿杲・矢印
所 (人米那人米南町下弓削四五四 が、半角町下弓削四五四 の の の の の の の の の の の の の	所 阪神西宮駅北出口すぐ 西宮 句 会 西宮 句 会	所 四条維手 体质导 都 句 会	断 米子市公会堂 日本間 サ 14 日 (日) 一時 中 14 日 (日) 一時 中 15 日本間 ・ 水子市公会堂 日本間 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	所 西宮市鳴尾町 新明和典業KK 明和研究句会	所 字部市港町 国鉄戦員会館 宇部 句会 コート	所 城趾往務所 類 割譲り・気ばらし・暦・夜遊び時 7日(日)一時	<ul><li>病 会 敷 句 会</li><li></li></ul>

## 野民千草の



会員募集

大阪クッキング スタジオ

堺筋本町二丁目南50米西側 ユニオン洋装店階上TEL(25)4943 婦人友の会 会員募集

川雑婦人友の会連絡事務所 大阪市南区ニッ井戸町23

> 山川医院 511

フートでのかり

0.S.K.

JF777-P

printed in Japan

列5号 柳雜誌第六四 毎月一回 定価 六〇円 第六 号

の投句は不朽洞会員に限

文川 近作 柳 柳

(解離+智度的)麻生路(解離・研究・感想其他 郎巢郎

選選選

汗猫冷 上他シ 品人ン

(十句以内) (十句以四) (十句以内) 題

国本水客選送 (公平十五日 185) 田後松集 募

集

取

III

柳

雑

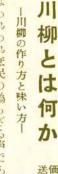
誌

社









送価二五〇円

会

社

麻生

路郎

先生著

### 至文堂

東京都新宿区払方町27 振替東京29507



山之内製薬株式会社

東京・大阪

福岡·札幌